

2 産業廃棄物（特別管理産業廃棄物）処理計画書等に関する集計結果

2.1 産業廃棄物（特別管理産業廃棄物）処理計画書等の提出状況

令和5年度における産業廃棄物並びに特別管理産業廃棄物の処理計画書及び実施状況報告書の提出状況は次のとおりであった。

産業廃棄物処理計画書（様式2）は982件、特別管理産業廃棄物処理計画書（様式4）は345件の提出があり、前年度よりそれぞれ21件、10件の増加であった。また、産業廃棄物処理計画実施報告書（様式3）は954件の提出があり、前年度より59件の増加であり、特別管理産業廃棄物処理計画実施報告書（様式5）の提出件数は334件であり、前年度より2件の増加であった。

処理計画書の提出状況を業種別にみると、産業廃棄物（様式2）では建設業（638件）、製造業（257件）、特別管理産業廃棄物（様式4）では製造業（189件）、サービス業（104件）からの提出が多かった。

実施状況報告書の提出状況を業種別にみると、産業廃棄物（様式3）では建設業（617件）、製造業（248件）、特別管理産業廃棄物（様式5）では製造業（187件）、サービス業（99件）からの提出が多かった。

表 46 業種別産業廃棄物（特別管理産業廃棄物）処理計画書及び実績状況報告書の提出状況

業種		産業廃棄物				特別管理産業廃棄物				合計			
		R05計画 様式2		R04報告 様式3		R05計画 様式4		R04報告 様式5		R05計画 様式2・4		R04報告 様式3・5	
		法定	自主	法定	自主	法定	自主	法定	自主	法定	自主	法定	自主
令和5年度の提出状況	農業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	鉱業	3	0	3	0	0	0	0	0	3	0	3	0
	建設業	516	122	507	110	11	26	9	23	527	148	516	133
	製造業	168	89	168	80	122	67	119	68	290	156	287	148
	食料	34	8	32	7	1	4	1	4	35	12	33	11
	生活関連	3	0	2	0	2	2	2	2	5	2	4	2
	紙	3	4	3	4	3	2	3	2	6	6	6	6
	化学	31	22	36	16	55	13	55	11	86	35	91	27
	プラスチック	2	2	2	3	2	3	3	3	4	5	5	6
	窯業	50	7	47	9	4	3	5	2	54	10	52	11
	鉄鋼	5	3	3	4	8	0	7	1	13	3	10	5
	非鉄金属	4	4	5	3	7	5	6	6	11	9	11	9
	金属	2	5	1	6	11	5	12	4	13	10	13	10
	一般機械	7	9	7	8	7	5	3	8	14	14	10	16
	電気機械	8	14	7	13	13	17	14	16	21	31	21	29
	輸送機械	19	11	23	7	9	8	8	9	28	19	31	16
	電気・ガス・熱供給・水道業	59	3	59	3	7	6	9	5	66	9	68	8
	運輸・通信	1	1	3	2	2	0	2	0	3	1	5	2
	卸・小売業・飲食店	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
	サービス業	5	14	3	16	97	7	95	4	102	21	98	20
合計	753	229	743	211	239	106	234	100	992	335	977	311	
令和4年度の提出状況	961		895		335		332		1,296		1,227		

2.2 産業廃棄物の発生量

2.2.1 産業廃棄物の業種別発生量

令和5年度に神奈川県内の廃棄物自主管理事業対象事業者から報告された産業廃棄物の発生量（令和4年度報告）は、約1,755万トンで前年度から約0.2%減少した。業種別にみると、電気・ガス・熱供給・水道業（下水道業を含む）が約1,154万トンで約66%を占めており、建設業が約311万トンで約18%、製造業の窯業が約73万トンで約4%となっていた。製造業全体では、約235万トンで約13%を占めていた。

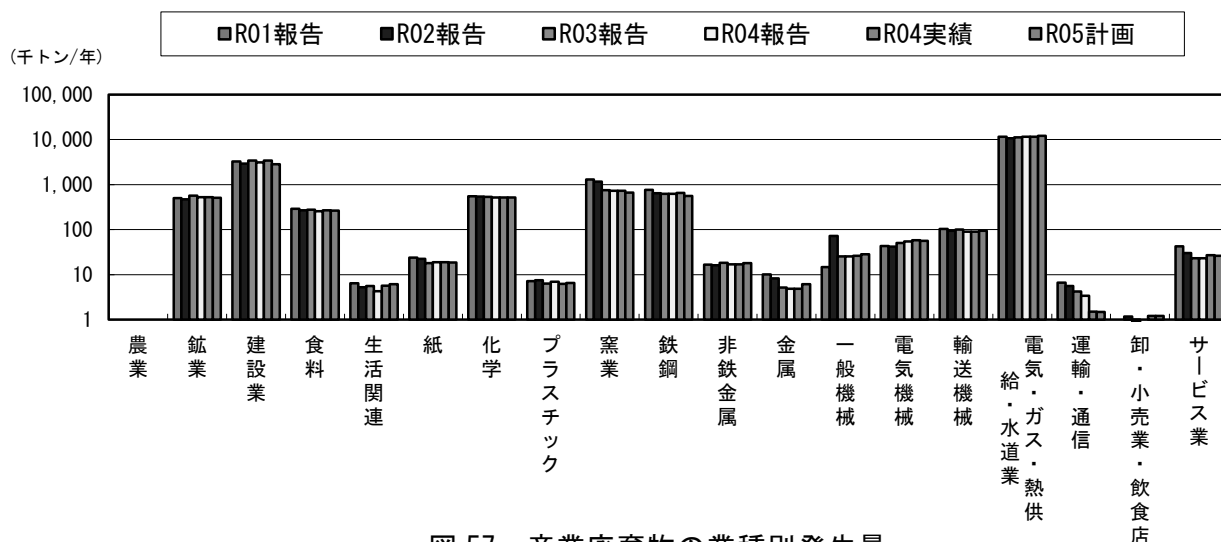


図 57 産業廃棄物の業種別発生量

表 47 産業廃棄物の業種別発生量

業種	実施状況報告書(様式3)				計画書(様式2)	
	R01報告	R02報告	R03報告	R04報告	R04実績	R05計画
農業	—	—	—	—	—	—
鉱業	498.2	472.8	569.0	525.0	525.0	508.9
建設業	3,286.6	2,940.7	3,402.3	3,108.0	3,426.7	2,853.1
製造業	3,125.5	2,890.8	2,405.7	2,353.2	2,394.9	2,239.2
食料	288.5	267.3	276.7	255.3	266.5	264.2
生活関連	6.5	5.2	5.6	4.3	5.7	6.2
紙	24.0	22.5	17.9	18.9	18.9	18.5
化学	549.1	542.5	531.6	517.4	518.0	518.7
プラスチック	7.2	7.5	6.3	7.0	6.3	6.6
窯業	1,298.7	1,168.0	746.7	732.2	733.4	662.9
鉄鋼	763.1	645.8	620.9	626.5	649.9	559.1
非鉄金属	16.6	16.2	18.3	17.0	17.0	17.9
金属	10.1	8.2	5.2	4.9	4.9	6.1
一般機械	14.7	71.9	25.4	25.6	26.2	28.3
電気機械	43.4	41.6	50.6	54.4	58.2	56.5
輸送機械	103.8	94.2	100.5	90.0	90.1	94.4
電気・ガス・熱供給・水道業	11,492.3	10,746.7	11,178.3	11,537.8	11,588.8	12,056.7
運輸・通信	6.6	5.6	4.2	3.4	1.5	1.5
卸・小売業・飲食店	—	1.2	0.9	—	1.2	1.2
サービス業	42.4	30.0	23.3	23.3	27.0	26.3
合計	18,451.5	17,087.7	17,583.8	17,550.6	17,965.1	17,686.8

※実施状況報告書と計画書の提出事業場数が異なるため、計画書に記載された R04 実績値の集計を「R04 実績」欄に掲載して「R05 計画」と比較できるようにした。

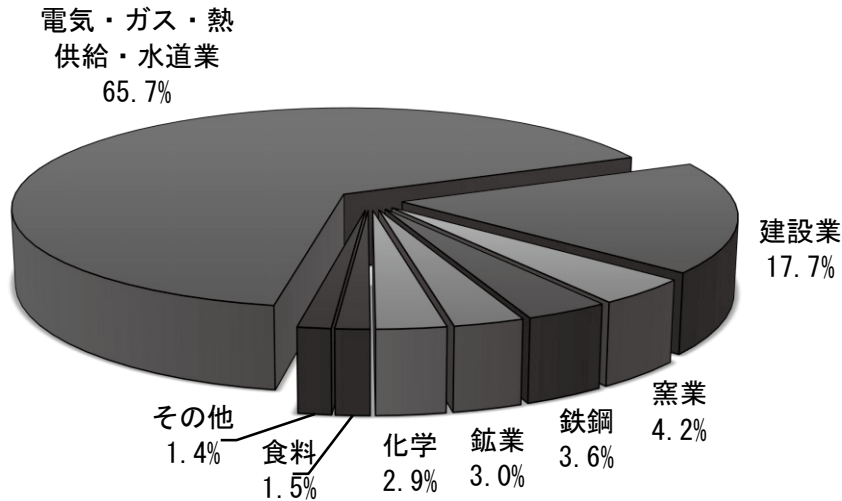


図 58 産業廃棄物発生量の業種別割合
(令和 4 年度報告)

表 48 産業廃棄物発生量の業種別割合

業種	実施状況報告書(様式3)				(単位:割合%) 計画書(様式2)	
	R01報告	R02報告	R03報告	R04報告	R04実績	R05計画
	農業	-	-	-	-	-
鉱業	2.7%	2.8%	3.2%	3.0%	2.9%	2.9%
建設業	17.8%	17.2%	19.3%	17.7%	19.1%	16.1%
製造業	16.9%	16.9%	13.7%	13.4%	13.3%	12.7%
食料	1.6%	1.6%	1.6%	1.5%	1.5%	1.5%
生活関連	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
紙	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%
化学	3.0%	3.2%	3.0%	2.9%	2.9%	2.9%
プラスチック	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
窯業	7.0%	6.8%	4.2%	4.2%	4.1%	3.7%
鉄鋼	4.1%	3.8%	3.5%	3.6%	3.6%	3.2%
非鉄金属	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%
金属	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
一般機械	0.1%	0.4%	0.1%	0.1%	0.1%	0.2%
電気機械	0.2%	0.2%	0.3%	0.3%	0.3%	0.3%
輸送機械	0.6%	0.6%	0.6%	0.5%	0.5%	0.5%
電気・ガス・熱供給・水道業	62.3%	62.9%	63.6%	65.7%	64.5%	68.2%
運輸・通信	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
卸・小売業・飲食店	-	0.0%	0.0%	-	0.0%	0.0%
サービス業	0.2%	0.2%	0.1%	0.1%	0.2%	0.1%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

2.2.2 産業廃棄物の種類別発生割合

産業廃棄物の発生量を廃棄物種類別にみると、汚泥の発生量が約1,355万トンで全体の約77%を占めていた。次に、がれき類が約196万トンで全体の約11%となっており、これら2種類で全体の約9割を占めている。

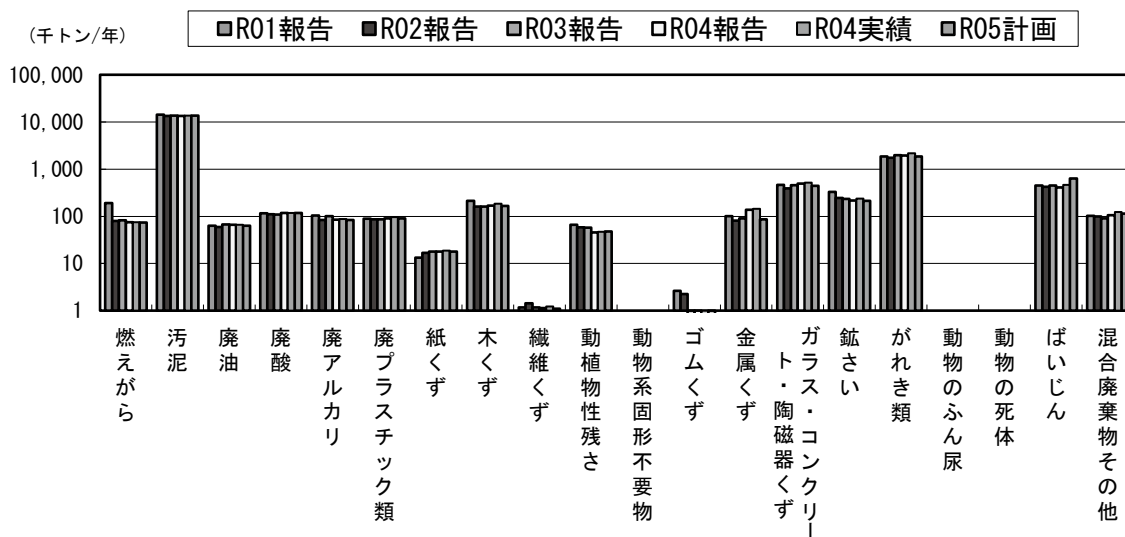


図 59 産業廃棄物の廃棄物種類別発生量

表 49 産業廃棄物の種類別発生量の推移

種類	実施状況報告書(様式3)				計画書(様式2)	
	R01報告	R02報告	R03報告	R04報告	R04実績	R05計画
燃えがら	191.1	79.8	82.4	74.7	74.8	74.3
汚泥	14,263.3	13,432.0	13,588.9	13,546.9	13,590.5	13,672.4
廃油	63.3	59.7	66.9	66.1	66.0	62.8
廃酸	116.4	110.3	109.1	117.3	118.4	118.7
廃アルカリ	103.6	84.2	100.3	85.3	88.4	84.2
廃プラスチック類	89.5	86.5	86.0	89.9	96.2	90.8
紙くず	13.2	16.7	18.0	18.0	18.8	17.9
木くず	214.4	160.6	162.3	168.9	186.2	166.9
繊維くず	1.2	1.4	1.2	1.1	1.2	1.1
動植物性残さ	65.9	58.4	57.4	45.5	47.3	48.1
動物系固形不要物	-	-	-	-	-	-
ゴムくず	2.6	2.2	0.4	0.4	0.4	0.4
金属くず	101.0	81.3	91.1	139.0	144.0	87.1
ガラス・コンクリート・陶磁器くず	464.5	389.6	461.3	498.2	516.0	443.0
鋳さい	330.7	247.2	233.8	216.7	238.6	213.4
がれき類	1,876.0	1,753.0	1,981.3	1,963.3	2,191.2	1,855.3
動物のふん尿	-	-	-	-	-	-
動物の死体	-	-	-	-	-	-
ばいじん	452.0	425.3	453.5	413.1	462.6	635.9
混合廃棄物その他	102.7	99.3	90.0	106.3	124.4	114.7
合計	18,451.5	17,087.7	17,583.8	17,550.6	17,965.1	17,686.8

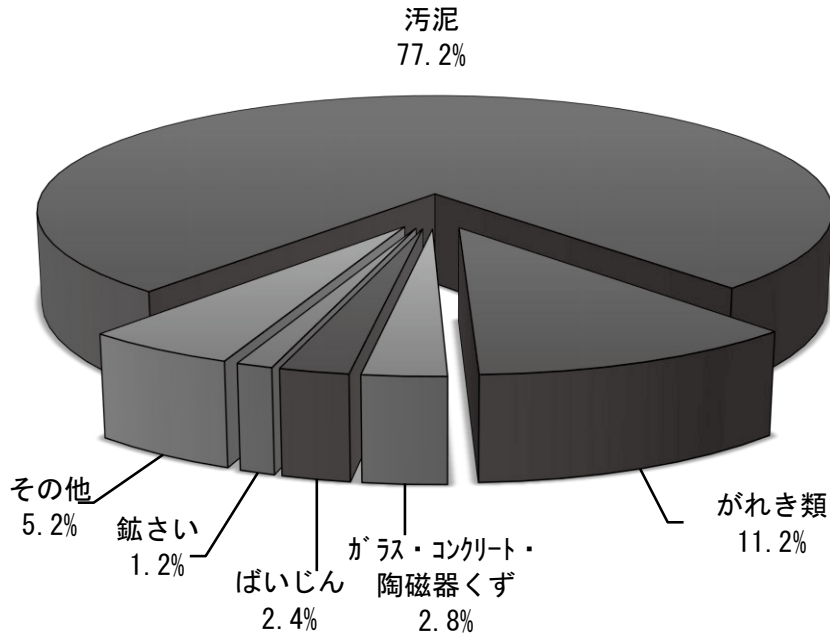


図 60 産業廃棄物発生量の種類別割合
(令和4年度報告)

表 50 産業廃棄物発生量の種類別割合

(単位:割合%)

種類	実施状況報告書(様式3)				計画書(様式2)	
	R01報告	R02報告	R03報告	R04報告	R04実績	R05計画
燃えがら	1.0%	0.5%	0.5%	0.4%	0.4%	0.4%
汚泥	77.3%	78.6%	77.3%	77.2%	75.6%	77.3%
廃油	0.3%	0.3%	0.4%	0.4%	0.4%	0.4%
廃酸	0.6%	0.6%	0.6%	0.7%	0.7%	0.7%
廃アルカリ	0.6%	0.5%	0.6%	0.5%	0.5%	0.5%
廃プラスチック類	0.5%	0.5%	0.5%	0.5%	0.5%	0.5%
紙くず	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%
木くず	1.2%	0.9%	0.9%	1.0%	1.0%	0.9%
繊維くず	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
動植物性残さ	0.4%	0.3%	0.3%	0.3%	0.3%	0.3%
動物系固形不要物	-	-	-	-	-	-
ゴムくず	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
金属くず	0.5%	0.5%	0.5%	0.8%	0.8%	0.5%
ガラス・コンクリート・陶磁器くず	2.5%	2.3%	2.6%	2.8%	2.9%	2.5%
鉱さい	1.8%	1.4%	1.3%	1.2%	1.3%	1.2%
がれき類	10.2%	10.3%	11.3%	11.2%	12.2%	10.5%
動物のふん尿	-	-	-	-	-	-
動物の死体	-	-	-	-	-	-
ばいじん	2.4%	2.5%	2.6%	2.4%	2.6%	3.6%
混合廃棄物その他	0.6%	0.6%	0.5%	0.6%	0.7%	0.6%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(参考) 産業廃棄物の種類別発生量 (汚泥の自己中間処理後)

汚泥については脱水前の量を発生量としているが、汚泥の大部分は自己中間処理により減量されている状況を考慮し、自己中間処理に伴う減量分を差し引いた発生量を汚泥発生量と仮定した場合の産業廃棄物種類別発生量を参考として以下にまとめた。

自己中間処理減量分を差し引いた場合でも、汚泥の発生量が最も多く約 696 万トンで全体の約 64%を占めていた。次に、がれき類が約 196 万トンで全体の約 18%となっており、これら 2 種類で全体の約 8 割を占めている。

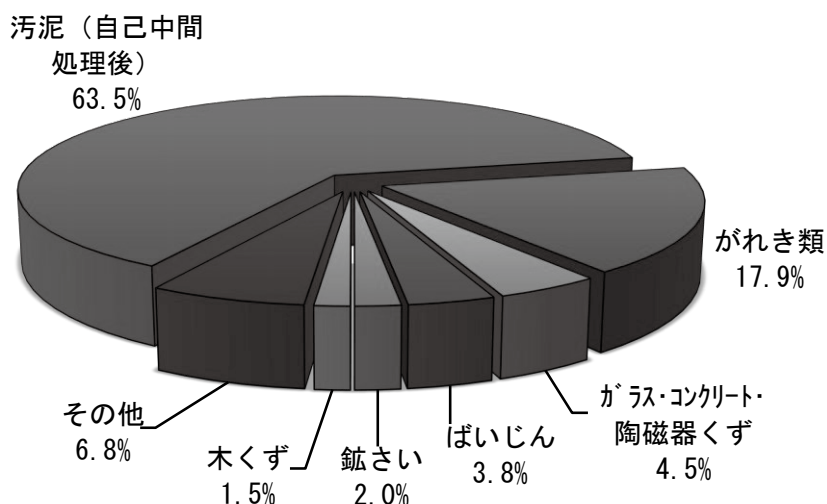


図 61 産業廃棄物の廃棄物種類別発生量 (汚泥の自己中間処理後)

表 51 産業廃棄物の廃棄物種類別発生量 (汚泥の自己中間処理後)

種類	R04排出量 (千トン/年)	割合
燃え殻	74.7	0.7%
汚泥 (自己中間処理後)	6,961.4	63.5%
廃油	66.1	0.6%
廃酸	117.3	1.1%
廃アルカリ	85.3	0.8%
廃プラスチック類	89.9	0.8%
紙くず	18.0	0.2%
木くず	168.9	1.5%
繊維くず	1.1	0.0%
動物性残さ	45.5	0.4%
動物系固形不要物	-	-
ゴムくず	0.4	0.0%
金属くず	139.0	1.3%
ガラス・コンクリート・陶磁器くず	498.2	4.5%
鋳さい	216.7	2.0%
がれき類	1,963.3	17.9%
動物のふん尿	-	-
動物の死体	-	-
ばいじん	413.1	3.8%
混合廃棄物その他	106.3	1.0%
合計	10,965.2	100.0%

2.3 特別管理産業廃棄物の発生量

2.3.1 特別管理産業廃棄物の業種別発生量

令和5年度に神奈川県内の廃棄物自主管理事業対象事業者から報告された特別管理産業廃棄物の発生量（令和4年度報告）は、約11.1万トンで前年度から約1%増加した。業種別にみると、化学が約6.4万トンで約58%を占めており、サービス業が約1.8万トンで約16%、電気機械が約0.7万トンで約6%となっていた。製造業全体では、約8.8万トンで約79%を占めていた。

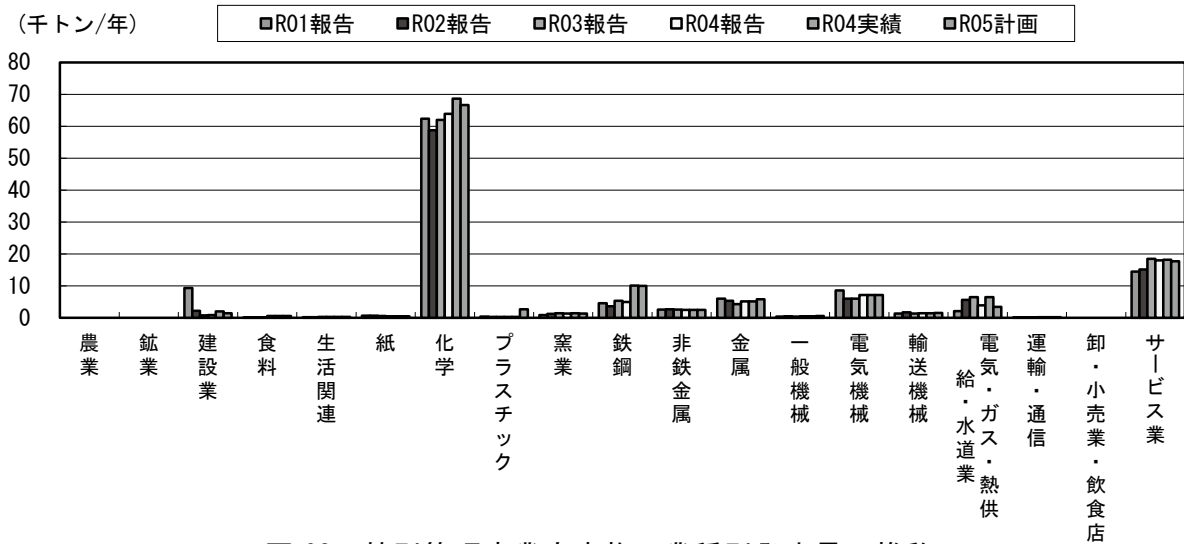


図 62 特別管理産業廃棄物の業種別発生量の推移

表 52 特別管理産業廃棄物の業種別発生量の推移

業種	実施状況報告書(様式5)				計画書(様式4)	
	R01報告	R02報告	R03報告	R04報告	R04実績	R05計画
農業	—	—	—	—	—	—
鉱業	—	—	—	—	—	—
建設業	9.3	2.2	0.7	0.9	2.0	1.4
製造業	87.7	80.9	84.1	88.3	98.3	99.2
食料	0.1	0.1	0.1	0.5	0.5	0.5
生活関連	0.2	0.2	0.3	0.3	0.3	0.3
紙	0.7	0.6	0.5	0.5	0.5	0.5
化学	62.3	58.8	62.0	63.9	68.7	66.6
プラスチック	0.3	0.3	0.2	0.3	0.3	2.6
窯業	0.8	1.2	1.4	1.4	1.4	1.3
鉄鋼	4.6	3.6	5.3	5.0	10.1	10.0
非鉄金属	2.5	2.6	2.6	2.4	2.4	2.5
金属	6.0	5.3	4.2	5.1	5.2	5.8
一般機械	0.3	0.5	0.3	0.4	0.5	0.5
電気機械	8.5	6.0	6.0	7.1	7.1	7.1
輸送機械	1.3	1.7	1.3	1.4	1.4	1.5
電気・ガス・熱供給・水道業	2.1	5.6	6.4	3.9	6.4	3.4
運輸・通信	0.1	0.1	0.1	0.2	0.2	0.2
卸・小売業・飲食店	—	—	—	—	—	—
サービス業	14.4	15.1	18.5	17.9	18.2	17.7
合計	113.6	103.8	109.8	111.1	125.1	121.8

※ 実施状況報告書と計画書の提出事業場数が異なるため、計画書に記載された R04 実績値の集計を「R04 実績」欄に掲載して「R05 計画」と比較できるようにした。

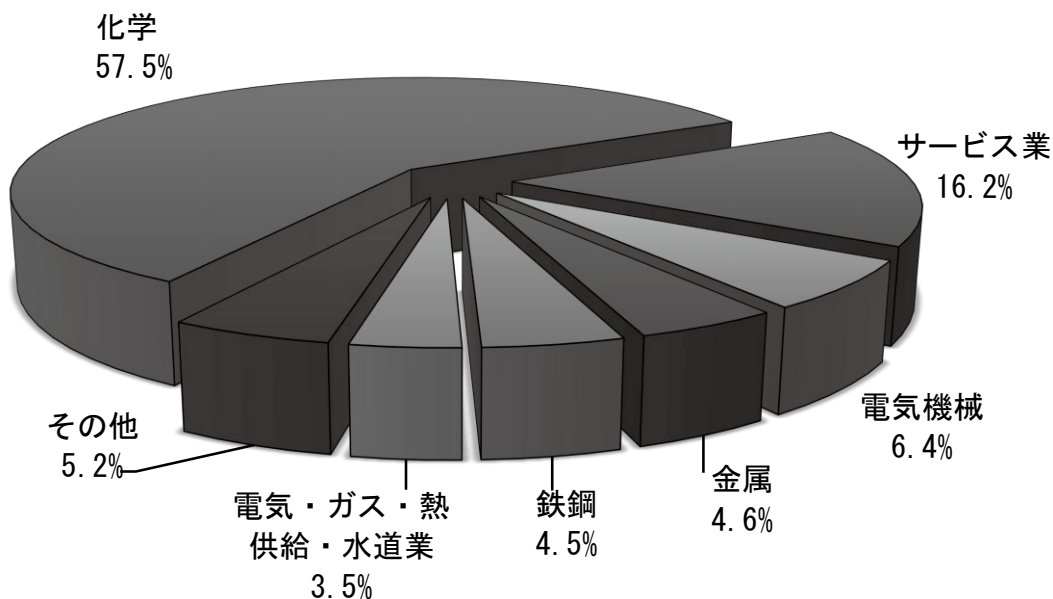


図 63 特別管理産業廃棄物発生量の業種別割合
(令和4年度報告)

表 53 特別管理産業廃棄物発生量の業種別割合

業種	実施状況報告書(様式5)				計画書(様式4)	
	R01報告	R02報告	R03報告	R04報告	R04実績	R05計画
農業	—	—	—	—	—	—
鉱業	—	—	—	—	—	—
建設業	8.2%	2.1%	0.6%	0.8%	1.6%	1.2%
製造業	77.2%	77.9%	76.6%	79.4%	78.6%	81.5%
食料	0.1%	0.1%	0.1%	0.5%	0.4%	0.4%
生活関連	0.2%	0.2%	0.2%	0.2%	0.2%	0.2%
紙	0.6%	0.6%	0.5%	0.4%	0.4%	0.4%
化学	54.8%	56.6%	56.5%	57.5%	54.9%	54.7%
プラスチック	0.3%	0.3%	0.2%	0.2%	0.2%	2.2%
窯業	0.7%	1.2%	1.3%	1.2%	1.1%	1.1%
鉄鋼	4.0%	3.5%	4.8%	4.5%	8.1%	8.2%
非鉄金属	2.2%	2.5%	2.3%	2.2%	2.0%	2.0%
金属	5.3%	5.1%	3.8%	4.6%	4.1%	4.8%
一般機械	0.3%	0.4%	0.3%	0.4%	0.4%	0.5%
電気機械	7.5%	5.8%	5.5%	6.4%	5.7%	5.8%
輸送機械	1.2%	1.6%	1.2%	1.3%	1.1%	1.2%
電気・ガス・熱供給・水道業	1.9%	5.4%	5.9%	3.5%	5.1%	2.8%
運輸・通信	0.0%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%
卸・小売業・飲食店	—	—	—	—	—	—
サービス業	12.7%	14.6%	16.8%	16.2%	14.6%	14.5%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

2.3.2 特別管理産業廃棄物の種類別発生量

特別管理産業廃棄物の種類別発生量を廃棄物種類別についてみると、特管廃油が約 2.5 万トンで全体の約 23%を占めていた。次に、特管廃酸が約 2.4 万トンで約 22%、感染性廃棄物が約 1.7 万トンで約 16%、有害廃アルカリが約 1.5 万トンで約 13%、特管廃アルカリが約 1.4 万トンで約 12%となっており、この 5 種類で発生量の約 86%を占めていた。

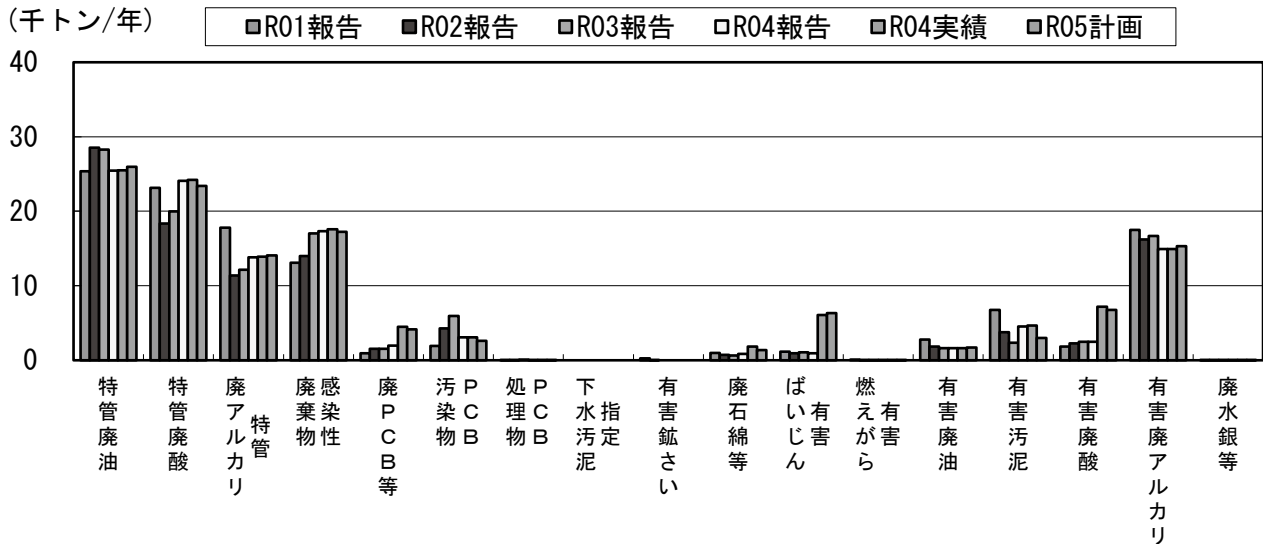


図 64 特別管理産業廃棄物の種類別発生量

表 54 特別管理産業廃棄物の種類別発生量の推移

種類	実施状況報告書(様式5)				計画書(様式4)	
	R01報告	R02報告	R03報告	R04報告	R04実績	R05計画
	特管廃油	25.3	28.5	28.3	25.4	25.5
特管廃酸	23.1	18.4	20.0	24.1	24.2	23.4
特管廃アルカリ	17.8	11.4	12.1	13.8	13.9	14.1
感染性廃棄物	13.1	14.0	17.0	17.3	17.6	17.2
廃PCB等	1.0	1.6	1.5	2.0	4.5	4.2
PCB汚染物	1.9	4.3	5.9	3.1	3.1	2.6
PCB処理物	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0
指定下水汚泥	-	-	-	-	-	-
有害銻さい	0.3	0.0	-	-	-	-
廃石綿等	1.0	0.7	0.6	0.9	1.8	1.4
有害ばいじん	1.2	0.9	1.1	0.9	6.1	6.3
有害燃えがら	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
有害廃油	2.8	1.8	1.6	1.6	1.6	1.7
有害汚泥	6.8	3.8	2.4	4.5	4.6	3.0
有害廃酸	1.8	2.3	2.5	2.5	7.2	6.8
有害廃アルカリ	17.5	16.2	16.7	14.9	14.9	15.3
廃水銀等	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	113.6	103.8	109.8	111.1	125.1	121.8

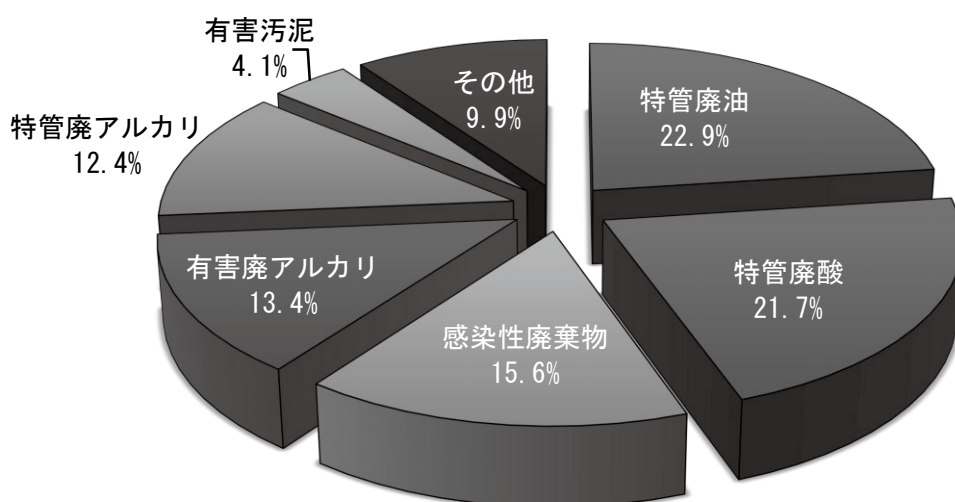


図 65 特別管理産業廃棄物発生量の種類別割合
(令和4年度報告)

表 55 特別管理産業廃棄物発生量の種類別割合

(単位:割合%)

種類	実施状況報告書(様式5)				計画書(様式4)	
	R01報告	R02報告	R03報告	R04報告	R04実績	R05計画
特管廃油	22.3%	27.5%	25.7%	22.9%	20.4%	21.3%
特管廃酸	20.4%	17.7%	18.2%	21.7%	19.4%	19.2%
特管廃アルカリ	15.6%	11.0%	11.0%	12.4%	11.1%	11.5%
感染性廃棄物	11.5%	13.5%	15.5%	15.6%	14.1%	14.1%
廃PCB等	0.8%	1.5%	1.4%	1.8%	3.6%	3.4%
PCB汚染物	1.7%	4.1%	5.4%	2.8%	2.5%	2.1%
PCB処理物	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
指定下水汚泥	-	-	-	-	-	-
有害鉱さい	0.2%	0.0%	-	-	-	-
廃石綿等	0.8%	0.7%	0.6%	0.8%	1.5%	1.1%
有害ばいじん	1.0%	0.9%	1.0%	0.8%	4.9%	5.2%
有害燃えがら	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
有害廃油	2.4%	1.7%	1.5%	1.5%	1.3%	1.4%
有害汚泥	5.9%	3.6%	2.2%	4.1%	3.7%	2.4%
有害廃酸	1.6%	2.2%	2.2%	2.2%	5.8%	5.5%
有害廃アルカリ	15.4%	15.6%	15.2%	13.4%	11.9%	12.6%
廃水銀等	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

2.4 廃棄物の処理状況

2.4.1 産業廃棄物の業種別処理状況

産業廃棄物の処理状況は、発生量に対する資源化率が26.4%、減量化率が69.4%、最終処分率が2.3%であった。業種別にみると、資源化率は運輸・通信が最も高く98.5%を占めていた。減量化率は電気・ガス・熱供給・水道業が最も高く94.0%を占めていた。最終処分率はプラスチックが最も高く11.3%を占めていた。

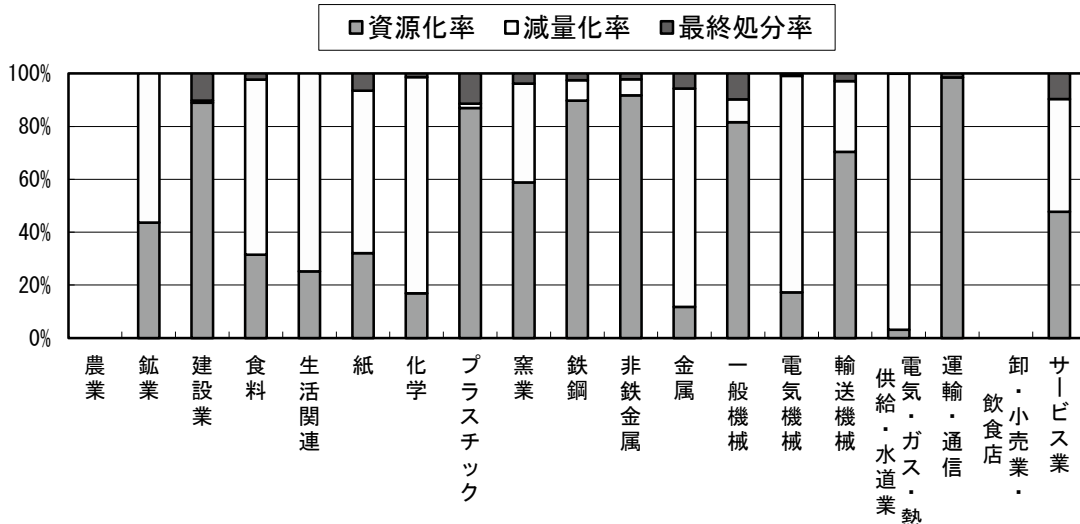


図 66 産業廃棄物の業種別処理状況（令和4年度報告）

表 56 産業廃棄物の業種別処理状況（令和4年度報告）

業種	排出量	資源化量	減量化量	最終処分量	その他	(排出量に対する割合)		
						資源化率	減量化率	最終処分率
農業	-	-	-	-	-	-	-	-
鉱業	525.0	229.0	296.0	-	-	43.6%	56.4%	-
建設業	3,108.0	2,751.5	24.2	318.6	13.7	88.5%	0.8%	10.2%
製造業	2,353.2	1,282.8	1,003.5	65.3	1.6	54.5%	42.6%	2.8%
食料	255.3	80.2	169.1	5.8	0.2	31.4%	66.2%	2.3%
生活関連	4.3	1.1	3.2	-	-	25.2%	74.8%	-
紙	18.9	6.0	11.6	1.2	-	32.0%	61.4%	6.5%
化学	517.4	87.3	421.7	7.3	1.0	16.9%	81.5%	1.4%
プラスチック	7.0	6.1	0.1	0.8	0.0	86.5%	1.7%	11.3%
窯業	732.2	430.7	273.8	27.7	-	58.8%	37.4%	3.8%
鉄鋼	626.5	562.1	48.1	16.3	-	89.7%	7.7%	2.6%
非鉄金属	17.0	15.6	1.0	0.4	-	91.8%	6.1%	2.2%
金属	4.9	0.6	4.0	0.3	-	11.7%	82.5%	5.7%
一般機械	25.6	20.6	2.2	2.5	0.3	80.5%	8.6%	9.6%
電気機械	54.4	9.3	44.5	0.5	0.0	17.2%	81.9%	0.9%
輸送機械	90.0	63.3	24.1	2.6	-0.0	70.3%	26.8%	2.9%
電気・ガス・熱供給・水道業	11,537.8	350.3	10,843.0	15.9	328.6	3.0%	94.0%	0.1%
運輸・通信	3.4	3.4	-	0.1	-	98.5%	-	1.5%
卸・小売業・飲食店	-	-	-	-	-	-	-	-
サービス業	23.3	11.1	9.9	2.2	-	47.7%	42.7%	9.6%
合計(令和4年度)	17,550.6	4,628.0	12,176.7	402.1	343.8	26.4%	69.4%	2.3%
令和3年度合計	17,583.8	4,839.9	12,339.5	549.9	-145.5	27.5%	70.2%	3.1%

※ 資源化量と最終処分量は、委託処理に伴う減量分を差し引いていないため、実際の資源化量や最終処分量とは異なる。

資源化量(率)：「直接利用量+再生利用前委託量」。資源化率はこれを発生量で除したものの。

減量化量(率)：「自己中間処理量-残さ物の量」。減量化率はこれを発生量で除したものの。

最終処分量(率)：「自己最終処理量+最終処分委託量+中間処理委託量(埋立処分委託量+海洋投入委託量)」。

最終処分率はこれを発生量で除したものの。

その他：「発生量-資源化量-減量化量-最終処分量」。「自社他事業場からの搬入」や「自社他事業場での処理」に伴う「発生量」と上記処理内訳合計値との誤差。

※ 構成比は小数点第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。

2.4.2 産業廃棄物の種類別処理状況

産業廃棄物の処理状況を種類別にみると、資源化率はゴムくずが最も高く 100%に達していた。減量化率は廃酸が最も高く 90.5%を占めていた。最終処分率は混合廃棄物その他が最も高く 27.7%を占めていた。

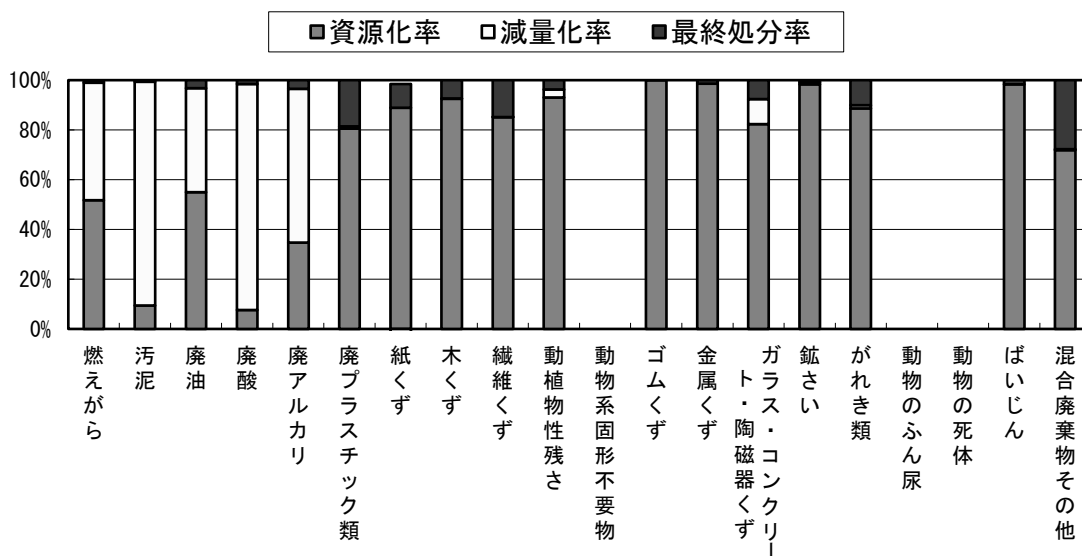


図 67 産業廃棄物の種類別処理状況 (令和 4 年度報告)

表 57 産業廃棄物の種類別処理状況 (令和 4 年度報告)

種類	(単位:千トン/年)					(排出量に対する割合)		
	排出量	資源化量	減量化量	最終処分量	その他	資源化率	減量化率	最終処分率
燃えがら	70.1	36.3	33.1	0.8	-	51.7%	47.2%	1.1%
汚泥	13,546.9	1,250.4	11,879.4	86.4	330.7	9.2%	87.7%	0.6%
廃油	66.1	36.3	27.6	2.1	0.0	55.0%	41.8%	3.2%
廃酸	117.3	8.9	106.2	1.8	0.3	7.6%	90.5%	1.6%
廃アルカリ	85.3	29.2	52.0	2.9	1.1	34.3%	61.0%	3.4%
廃プラスチック類	89.9	72.0	0.8	16.6	0.4	80.1%	0.9%	18.5%
紙くず	18.0	16.0	-0.3	1.7	0.6	88.7%	-1.5%	9.6%
木くず	168.9	156.2	0.0	12.5	0.2	92.5%	0.0%	7.4%
繊維くず	1.1	1.0	0.0	0.2	0.0	85.1%	0.0%	14.9%
動植物性残さ	45.5	42.4	1.4	1.7	0.0	93.1%	3.1%	3.8%
動物系固形不要物	-	-	-	-	-	-	-	-
ゴムくず	0.4	0.4	-	0.0	-	100.0%	-	0.0%
金属くず	139.0	136.9	-	1.9	0.2	98.5%	-	1.4%
ガラス・コンクリート・陶磁器くず	498.2	409.2	50.2	37.9	0.9	82.1%	10.1%	7.6%
鋳さい	216.7	215.0	1.7	1.8	-1.9	99.2%	0.8%	0.8%
がれき類	1,963.3	1,730.7	24.0	197.3	11.3	88.2%	1.2%	10.0%
動物のふん尿	-	-	-	-	-	-	-	-
動物の死体	-	-	-	-	-	-	-	-
ばいじん	413.1	406.1	-	6.9	-	98.3%	-	1.7%
混合廃棄物その他	106.3	76.4	0.4	29.4	0.0	71.9%	0.4%	27.7%
合計(令和4年度)	17,546.1	4,623.5	12,176.7	402.1	343.8	26.4%	69.4%	2.3%
令和3年度合計	17,583.8	4,839.9	12,339.5	549.9	-145.5	27.5%	70.2%	3.1%

※ 資源化量と最終処分量は、委託処理に伴う減量分を差し引いていないため、実際の資源化量や最終処分量とは異なる。

※ 構成比は小数点第 2 位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも 100%とはならない。

2.4.3 特別管理産業廃棄物の業種別処理状況

特別管理産業廃棄物の処理状況は、発生量に対する資源化率が 53.2%、減量化率が 18.7%、最終処分率が 29.9%であった。業種別にみると、資源化率は窯業が最も高く 100%に達していた。減量化率は化学の減量化率が最も高く 31.8%を占めていた。最終処分率は建設業（電気・ガス・熱供給・水道業は「その他」がマイナス 2.5 千トンとなっており、「資源化量+最終処分量」が「排出量」を超えている。この「排出量」には、他事業所からの受入等が加算されていないため、正確な数値ではなく、最終処分率が 100%を超えているので除く）が最も高く 80.5%を占めていた。

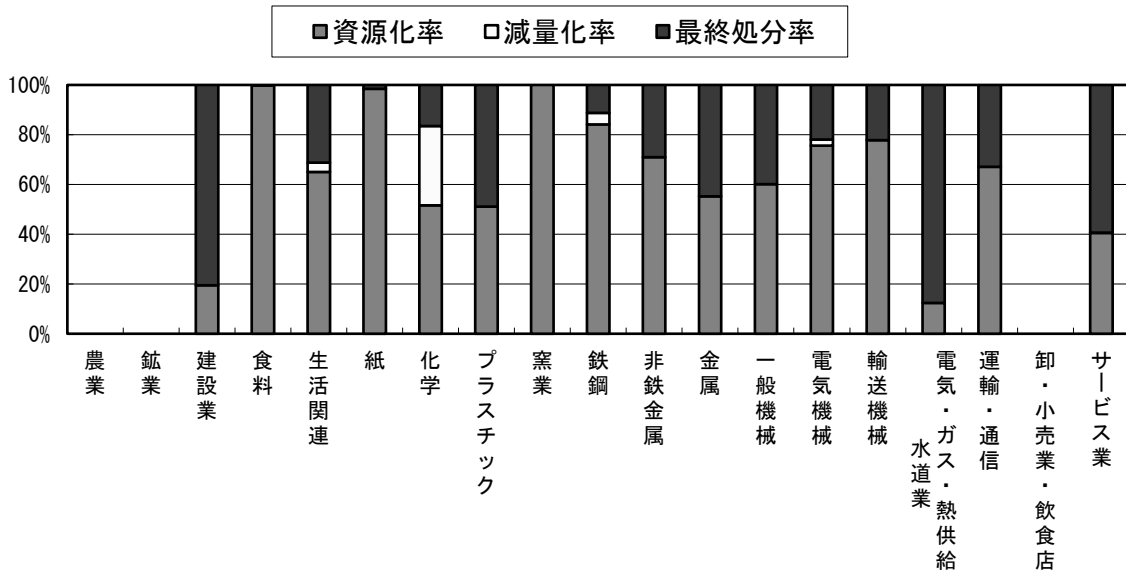


図 68 特別管理産業廃棄物の業種別処理状況（令和 4 年度報告）

表 58 特別管理産業廃棄物の業種別処理状況（令和 4 年度報告）

業種	(単位:千トン/年)					(排出量に対する割合)		
	排出量	資源化量	減量化量	最終処分量	その他	資源化率	減量化率	最終処分率
農業	-	-	-	-	-	-	-	-
鉱業	-	-	-	-	-	-	-	-
建設業	0.9	0.2	-	0.7	-	19.5%	-	80.5%
製造業	88.3	50.8	20.7	16.2	0.6	57.5%	23.5%	18.4%
食料	0.5	0.5	-	0.0	-	99.9%	-	0.1%
生活関連	0.3	0.2	0.0	0.1	-	65.0%	3.8%	31.2%
紙	0.5	0.5	-	0.0	-	98.5%	-	1.5%
化学	63.9	32.8	20.3	10.5	0.3	51.4%	31.8%	16.4%
プラスチック	0.3	0.1	-	0.1	-	51.1%	-	48.9%
窯業	1.4	1.4	-	-	-	100.0%	-	-
鉄鋼	5.0	4.2	0.2	0.6	-	84.1%	4.7%	11.2%
非鉄金属	2.4	1.7	-	0.7	-	71.0%	-	29.0%
金属	5.1	2.8	-	2.3	-	55.2%	-	44.8%
一般機械	0.4	0.2	-	0.2	0.1	52.7%	-	35.0%
電気機械	7.1	5.2	0.2	1.5	0.2	73.5%	2.4%	21.2%
輸送機械	1.4	1.1	-	0.3	-	77.9%	-	22.1%
電気・ガス・熱供給・水道業	3.9	0.8	-	5.6	-2.5	20.5%	-	144.1%
運輸・通信	0.2	0.1	-	0.1	-	67.1%	-	32.9%
卸・小売業・飲食店	-	-	-	-	-	-	-	-
サービス業	17.9	7.3	0.0	10.7	-	40.5%	0.2%	59.3%
合計(令和4年度)	111.1	59.1	20.7	33.2	-1.9	53.2%	18.7%	29.9%
令和3年度合計	109.8	62.5	24.1	28.2	-5.1	56.9%	22.0%	25.7%

※ 資源化量と最終処分量は、委託処理に伴う減量分を差し引いていないため、実際の資源化量や最終処分量とは異なる。
 ※ 構成比は小数点第 2 位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも 100%とはならない。

2.4.4 特別管理産業廃棄物の種類別処理状況

特別管理産業廃棄物の処理状況を種類別にみると、資源化率はPCB処理物が最も高く100%を占めていた。減量化率は有害廃アルカリが最も高く87.0%を占めていた。最終処分率は廃石綿等（廃PCB等は「その他」がマイナス2.5千トンとなっており、「資源化量+最終処分量」が「排出量」を超えている。この「排出量」には、他事業所からの受入等が加算されていないため、正確な数値ではなく、最終処分率が100%を超えているので除く）が最も高く76.5%を占めていた。

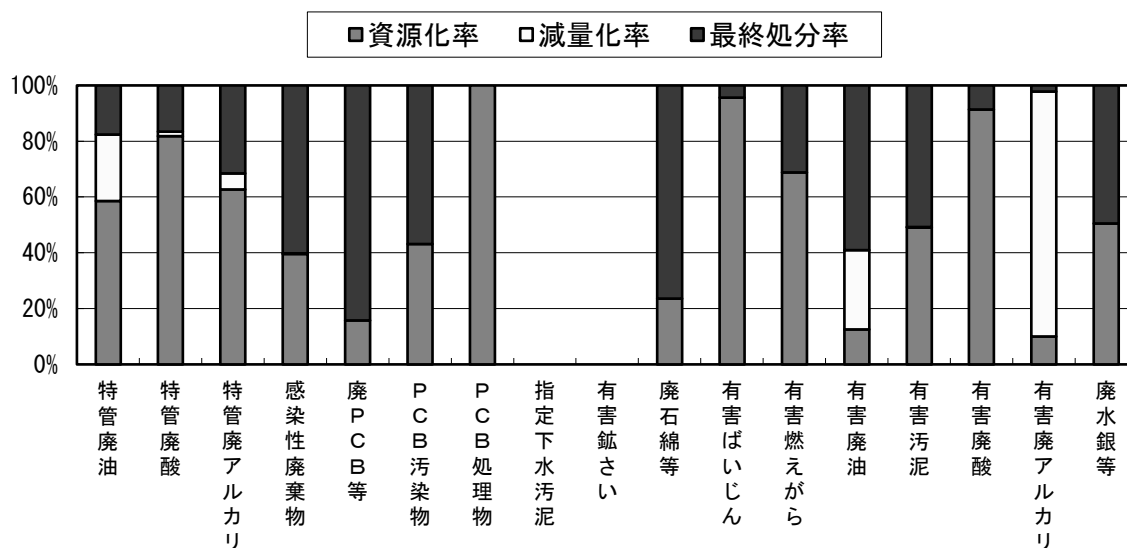


図 69 特別管理産業廃棄物の種類別処理状況 (令和4年度報告)

表 59 特別管理産業廃棄物の種類別処理状況 (令和4年度報告)

種類	排出量	(単位:千トン/年)				(排出量に対する割合)		
		資源化量	減量化量	最終処分量	その他	資源化率	減量化率	最終処分率
特管廃油	25.4	14.9	6.1	4.5	-0.1	58.7%	23.8%	17.7%
特管廃酸	24.1	19.7	0.4	4.0	0.0	81.6%	1.7%	16.6%
特管廃アルカリ	13.8	8.4	0.8	4.2	0.5	60.5%	5.6%	30.5%
感染性廃棄物	17.3	6.8	0.0	10.4	-	39.5%	0.2%	60.2%
廃PCB等	2.0	0.7	-	3.8	-2.5	35.5%	-	190.7%
PCB汚染物	3.1	1.3	-	1.7	-	43.1%	-	56.9%
PCB処理物	0.0	0.0	-	-	-	100.0%	-	-
指定下水汚泥	-	-	-	-	-	-	-	-
有害鉱さい	-	-	-	-	-	-	-	-
廃石綿等	0.9	0.2	-	0.7	-	23.5%	-	76.5%
有害ばいじん	0.9	0.9	-	0.0	-	95.6%	-	4.4%
有害燃えがら	0.0	0.0	-	0.0	-	68.8%	-	31.2%
有害廃油	1.6	0.2	0.5	1.0	-	12.5%	28.5%	59.0%
有害汚泥	4.5	2.2	0.0	2.3	-	49.1%	0.1%	50.8%
有害廃酸	2.5	2.3	-	0.2	-	91.3%	-	8.7%
有害廃アルカリ	14.9	1.5	13.0	0.3	0.1	9.8%	87.0%	2.2%
廃水銀等	0.0	0.0	-	0.0	-	50.4%	-	49.6%
合計(令和4年度)	111.1	59.1	20.7	33.2	-1.9	53.2%	18.7%	29.9%
令和3年度合計	109.8	62.5	24.1	28.2	-5.1	56.9%	22.0%	25.7%

※ 資源化量と最終処分量は、委託処理に伴う減量分を差し引いていないため、実際の資源化量や最終処分量とは異なる。

※ 構成比は小数点第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。

2.5 処理フロー

2.5.1 産業廃棄物の処理フロー

令和4年度の産業廃棄物実績は、発生量約1,755万トンに対し、自己直接利用量(②自己直接利用量、⑧自己処理後の自己直接利用量)は約88万トン(発生量に対して5.0%)、自己減量化量(⑦)が約1,218万トン(同69.4%)であった。

一方、自己最終処理量(③自己直接最終処理量、⑨自己処理後の自己直接最終処理量)の0.0万トン(同0.0%)と委託処分量(⑩)の約415万トン(同23.7%)をあわせると、事業者自らによって減量化や再生利用がなされなかった廃棄物は、全体の4分の1となっている。

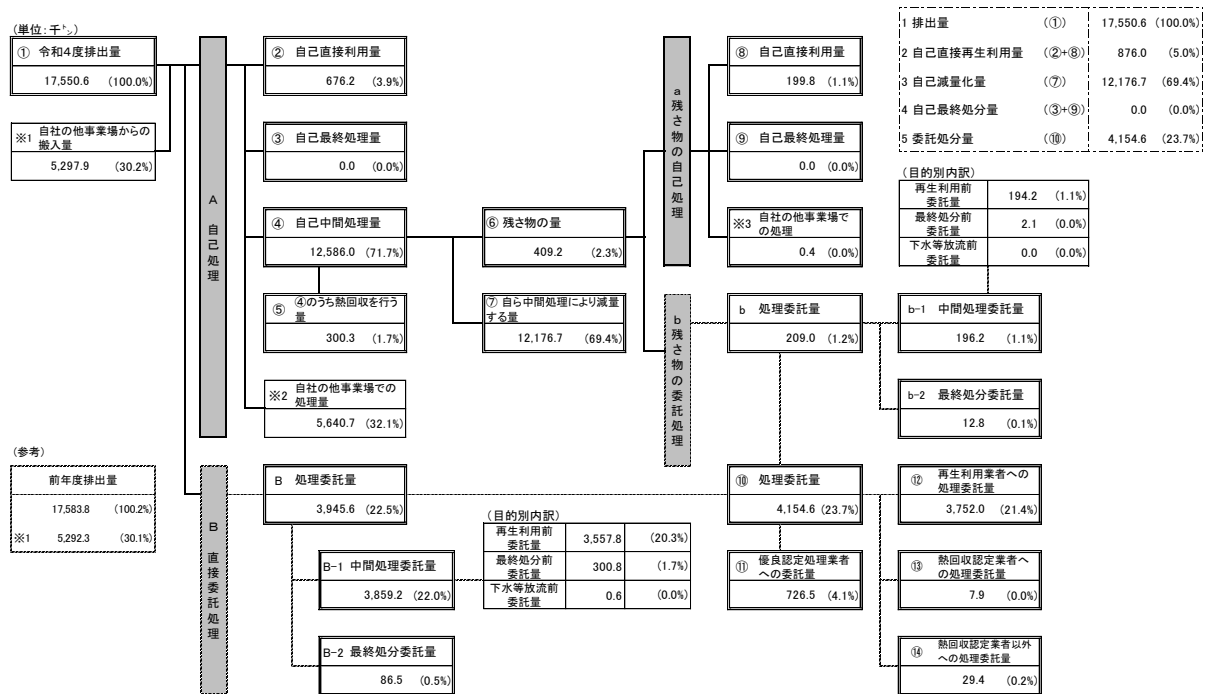


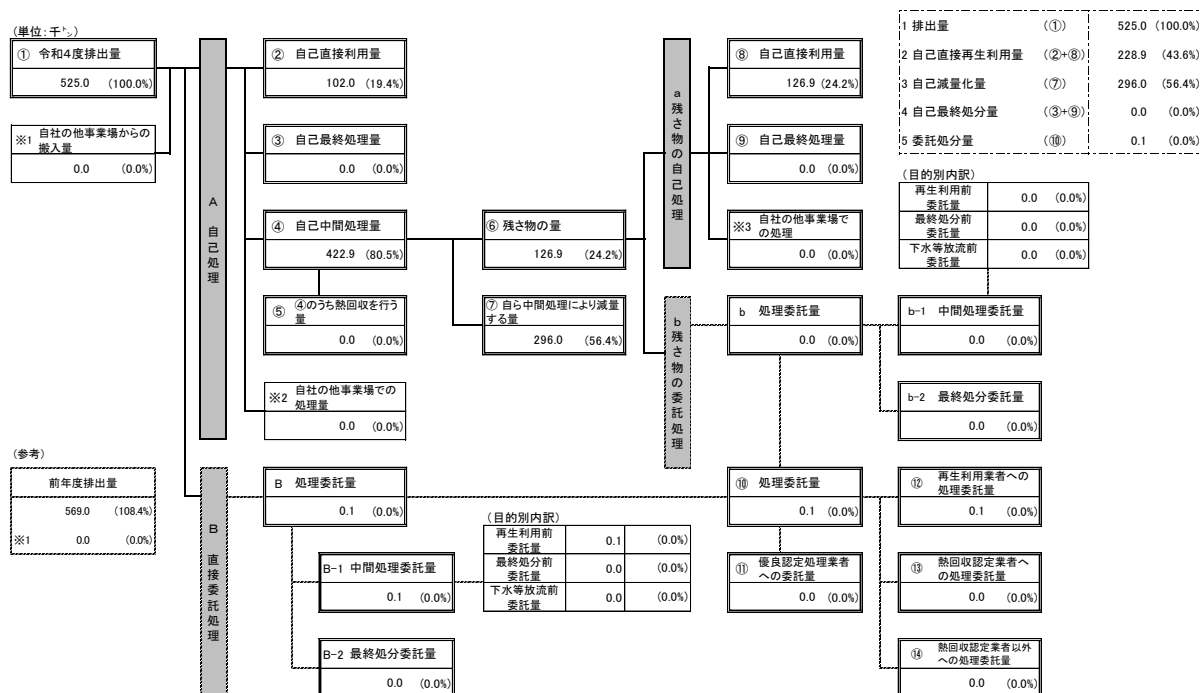
図 70 産業廃棄物の処理フロー

注 () 内の%は、「①令和4年度発生量」に対する割合を示している。ただし、「(参考) 前年度排出量」の※1については、令和3年度の「排出量」に対する割合である。以降の処理フローも同様である。

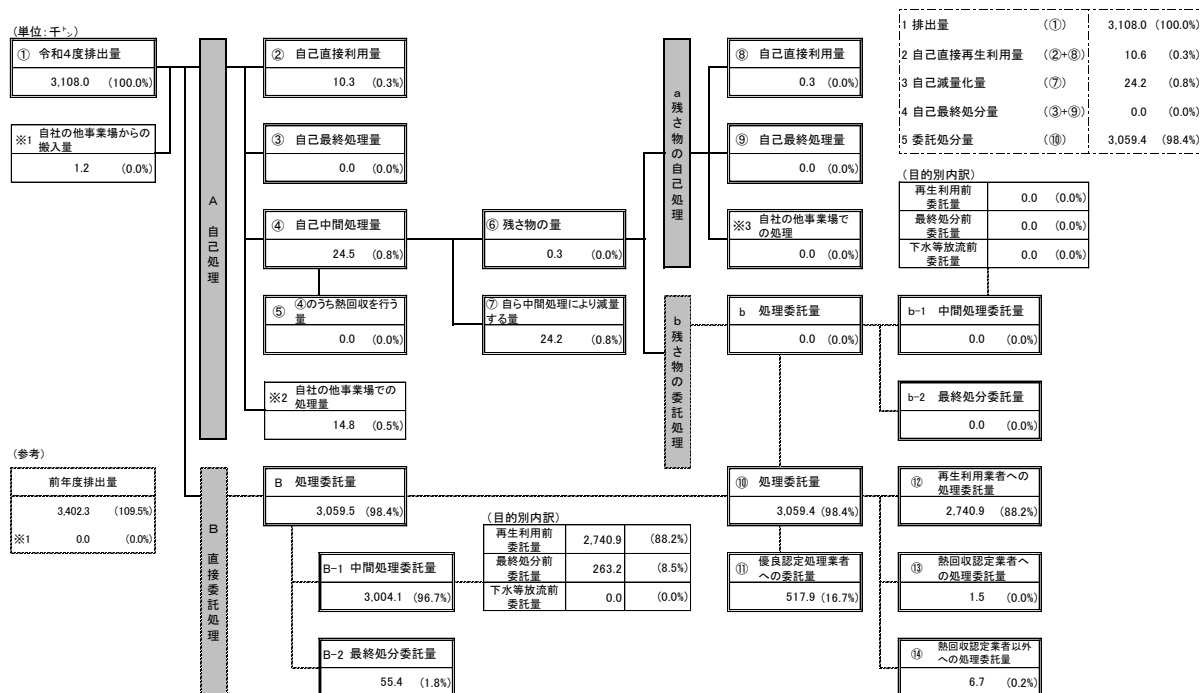
2.5.2 産業廃棄物の業種別処理フロー

産業廃棄物の業種別処理フローを以下に示す。なお、発生量が0トンとなっている業種および業種別データ数が2事業所以下の業種については省略している。

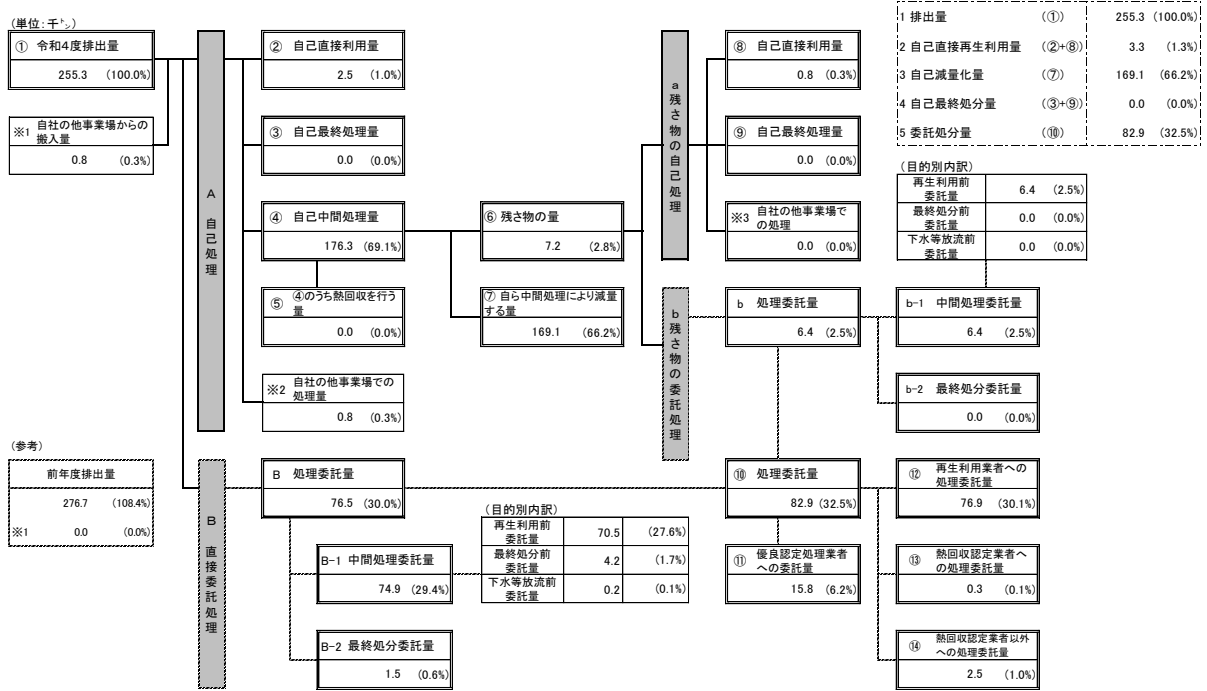
① 鉱業：産業廃棄物



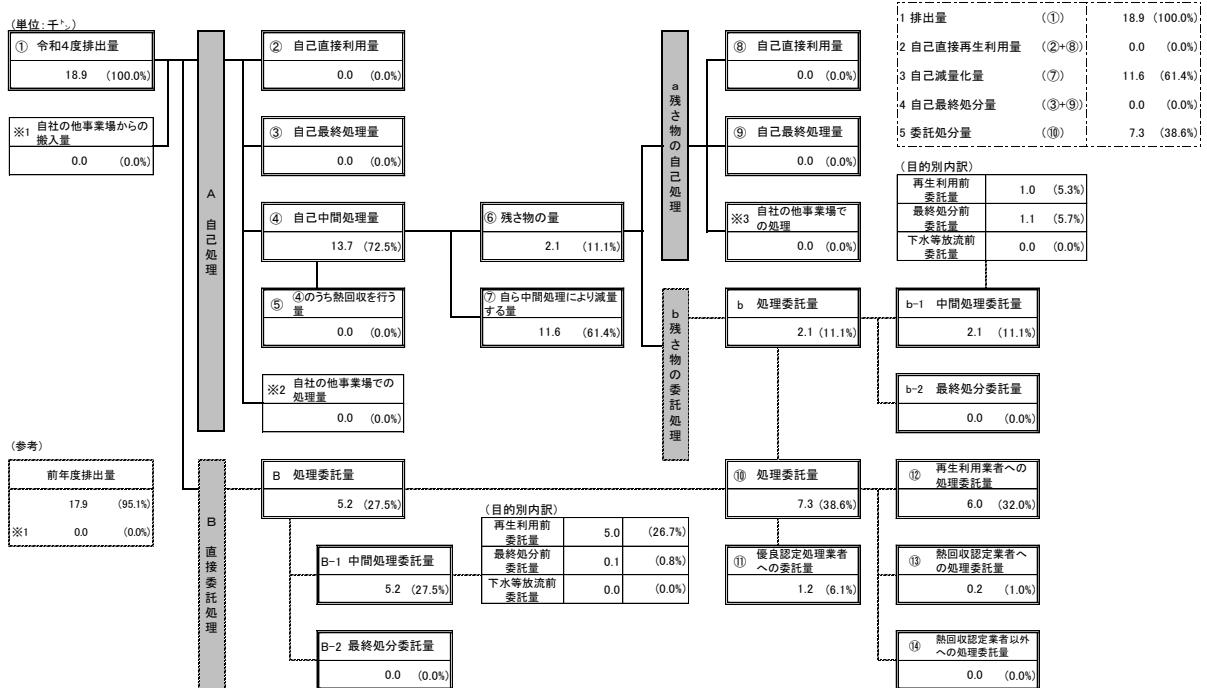
② 建設業：産業廃棄物



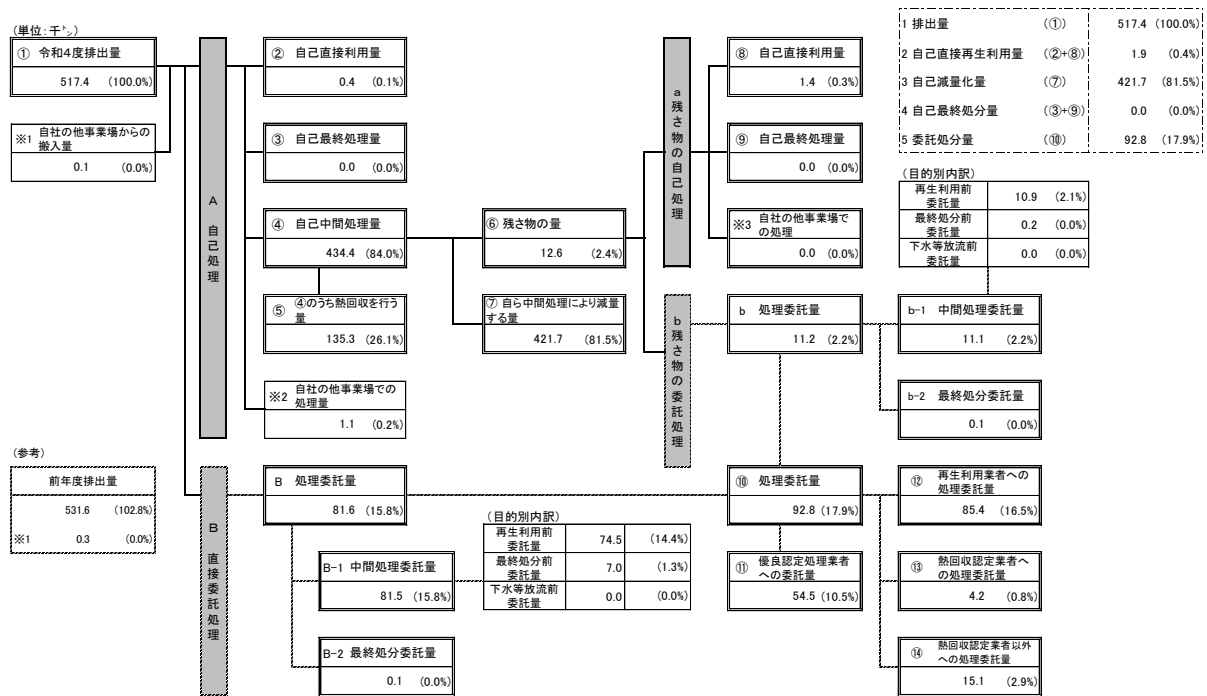
③ 食料：産業廃棄物



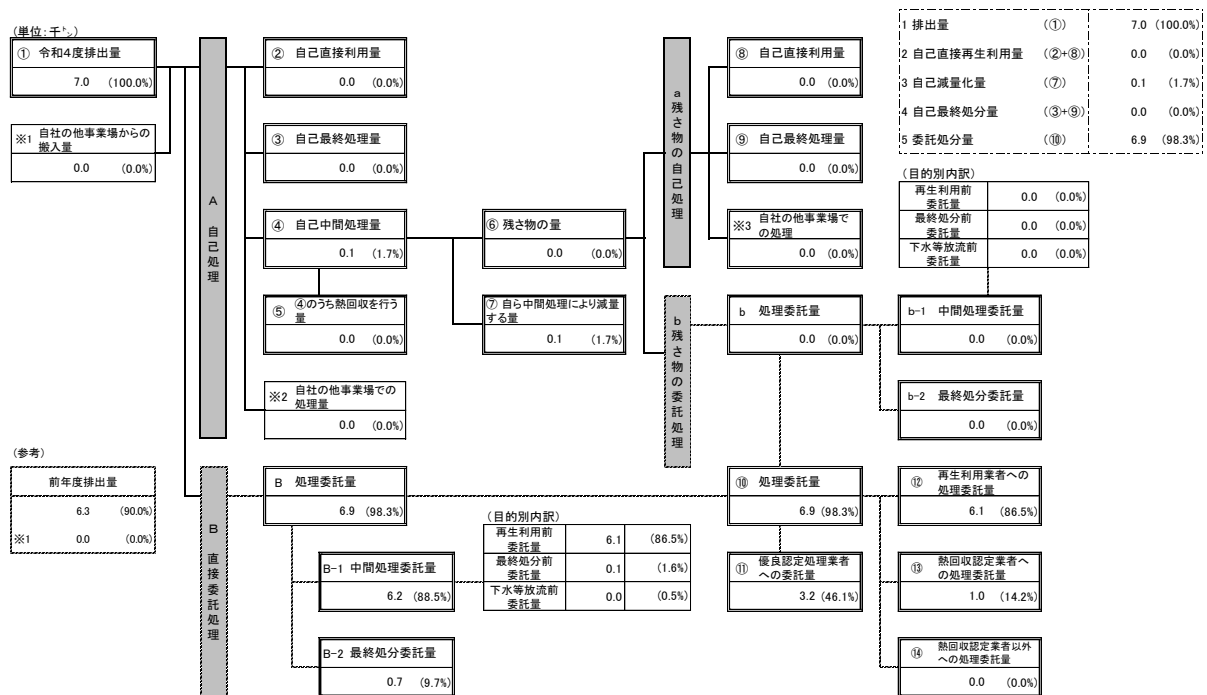
④ 紙：産業廃棄物



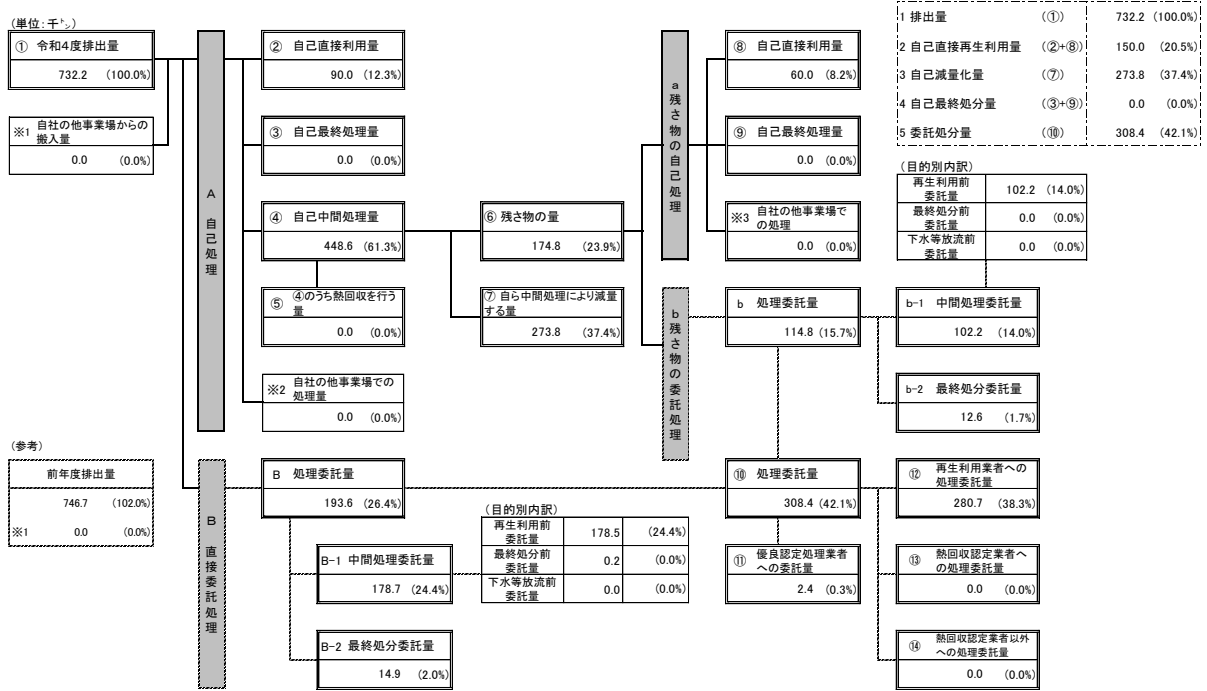
⑤ 化学：産業廃棄物



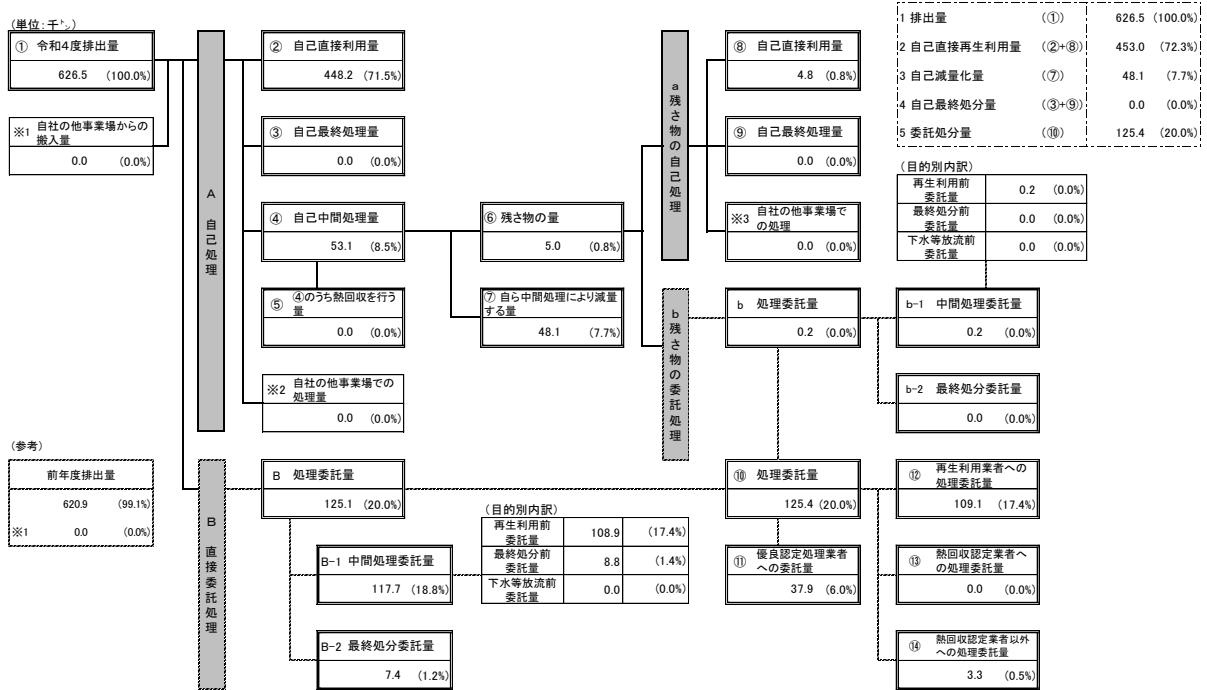
⑥ プラスチック：産業廃棄物



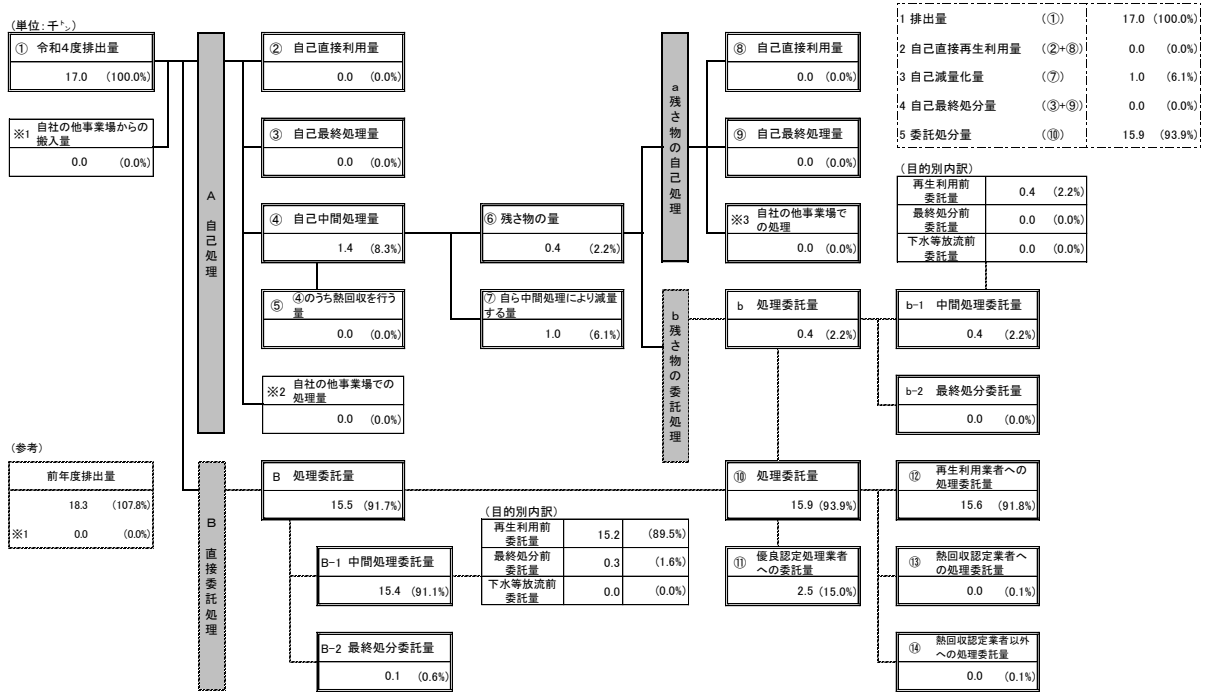
⑦ 窯業：産業廃棄物



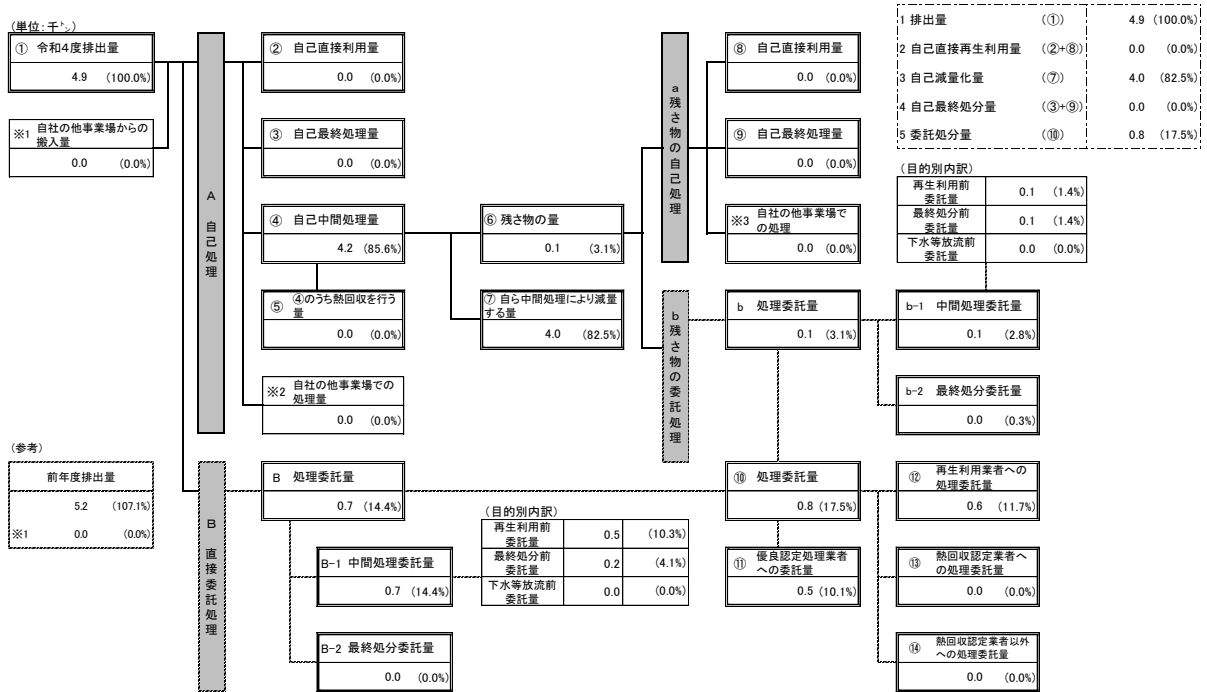
⑧ 鉄鋼：産業廃棄物



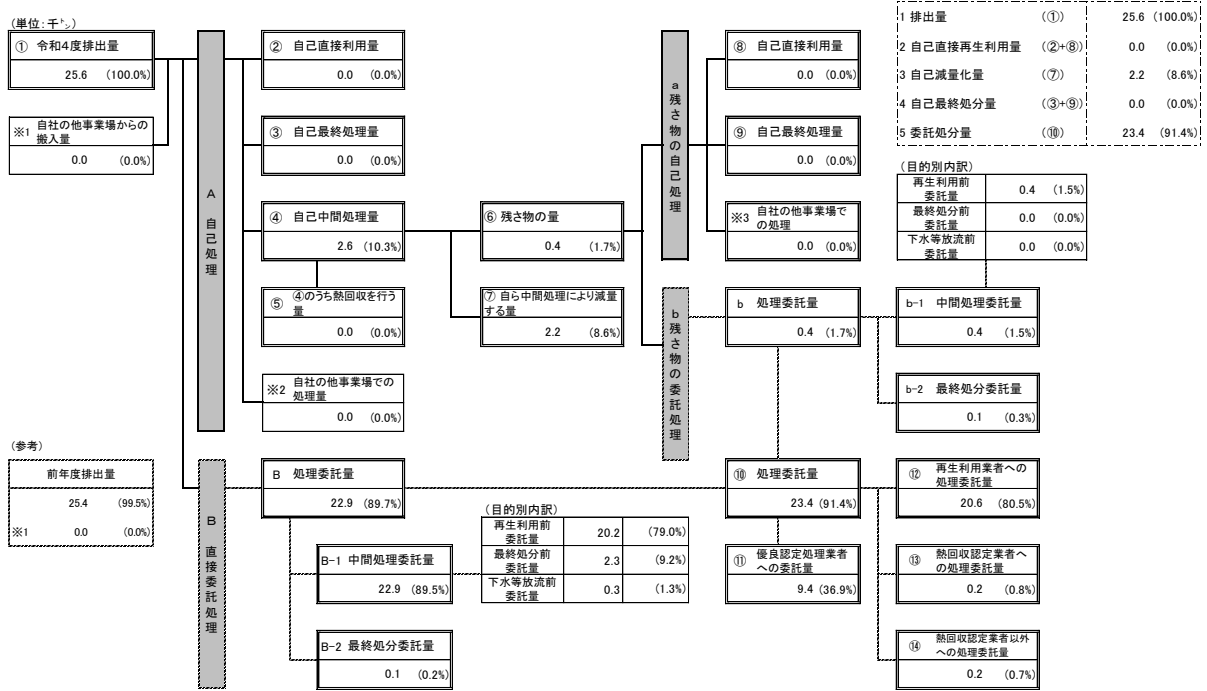
⑨ 非鉄金属：産業廃棄物



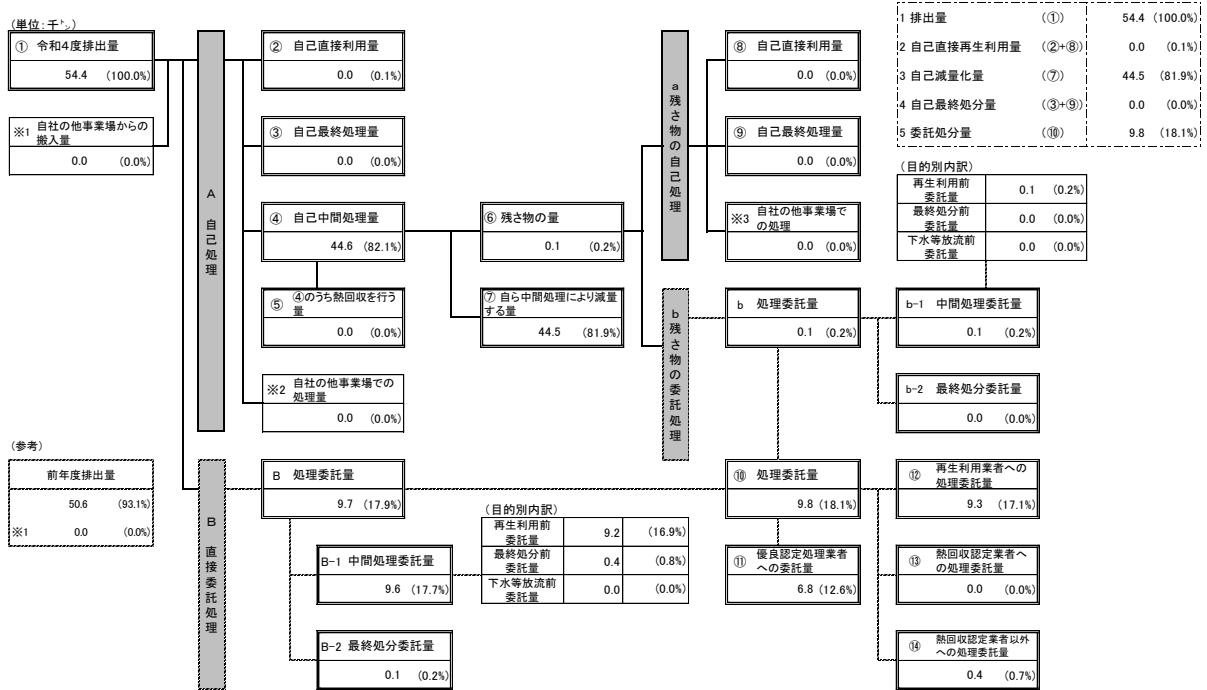
⑩ 金属：産業廃棄物



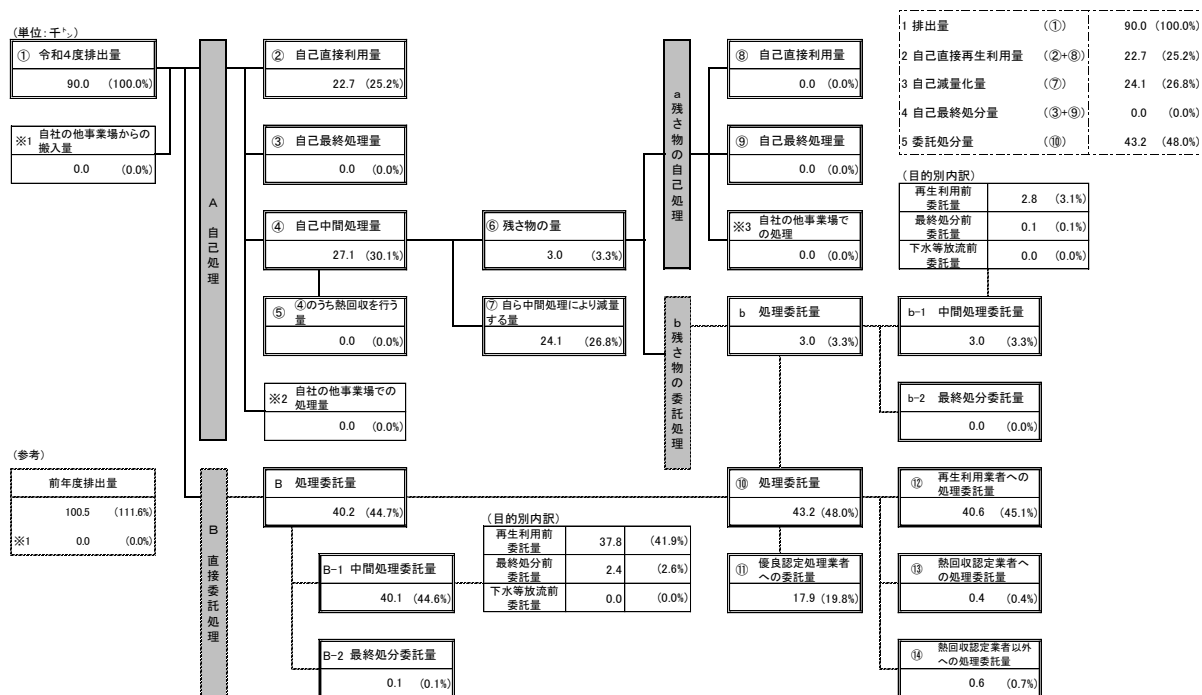
⑪ 一般機械：産業廃棄物



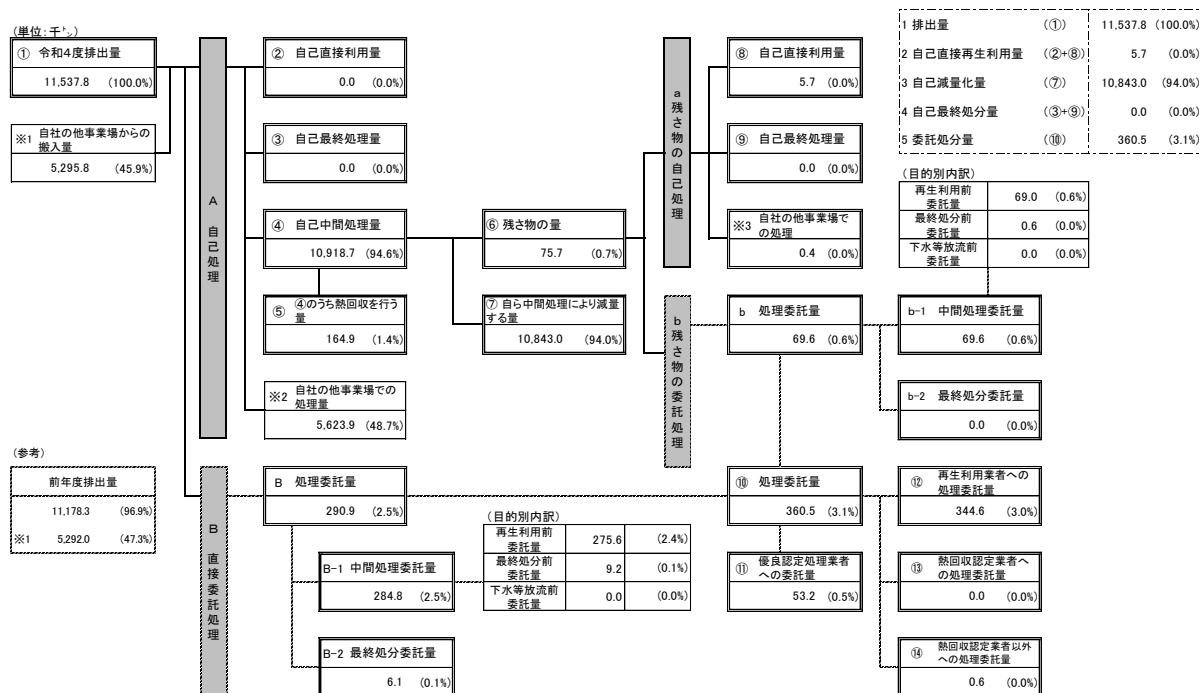
⑫ 電気機械：産業廃棄物



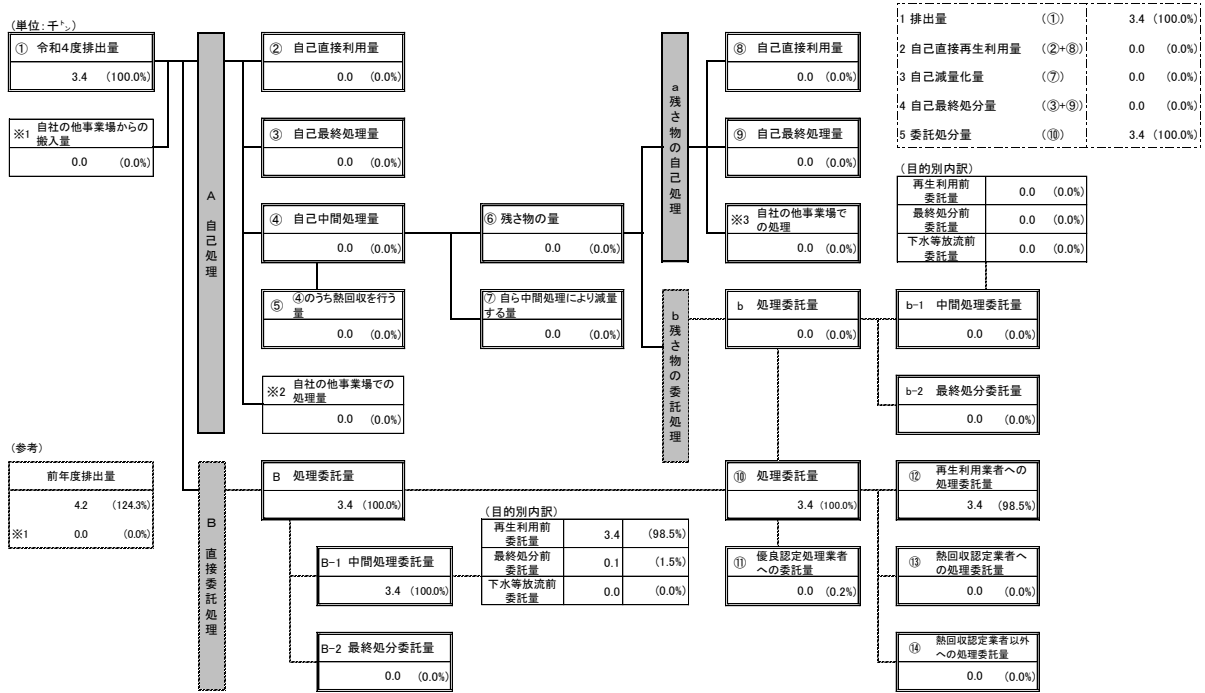
⑬ 輸送機械：産業廃棄物



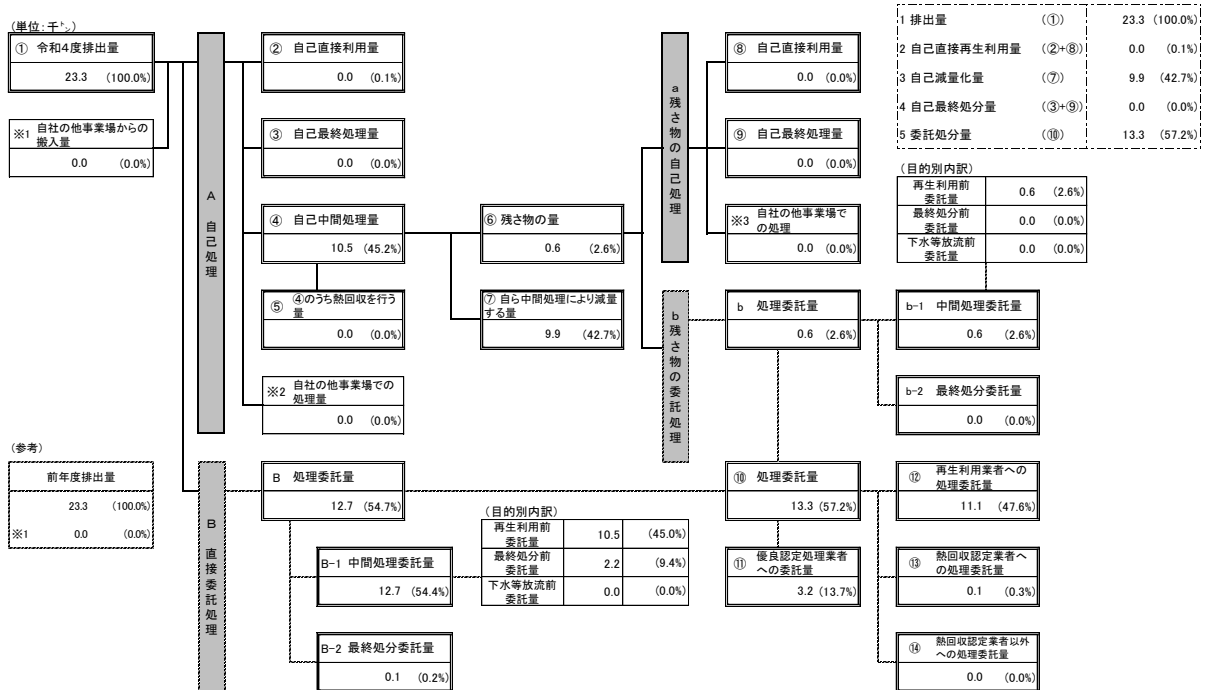
⑭ 電気・ガス・熱供給・水道業：産業廃棄物



⑮ 運輸・通信業：産業廃棄物



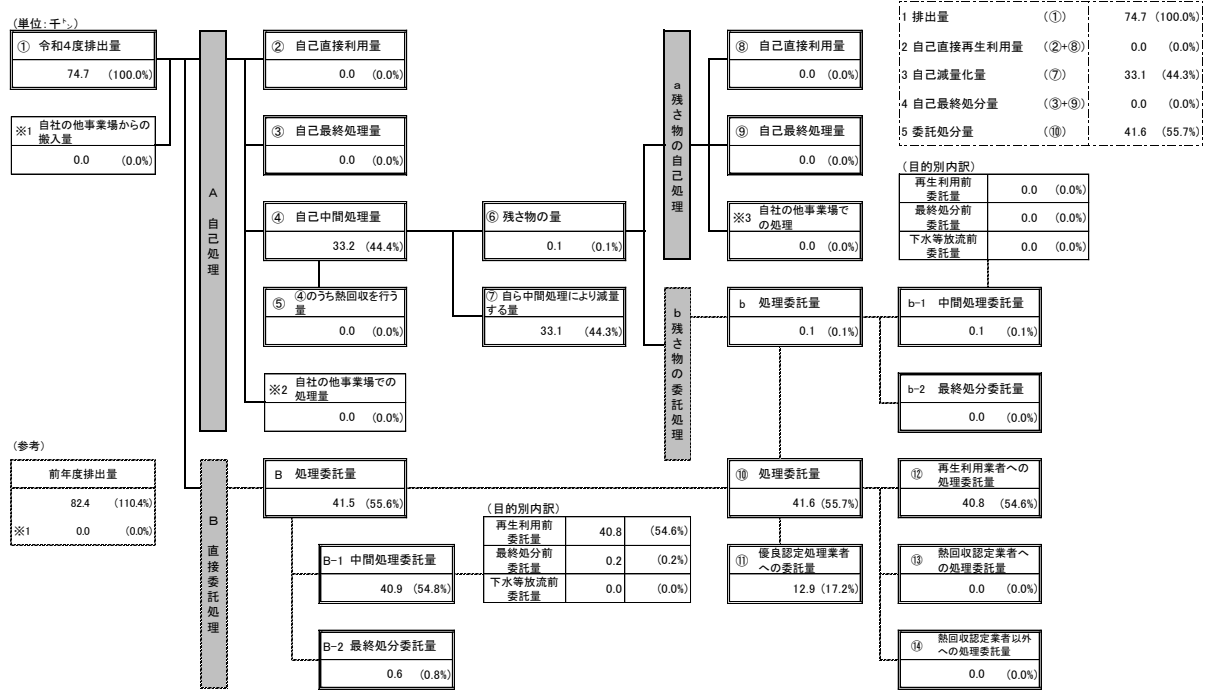
⑯ サービス業：産業廃棄物



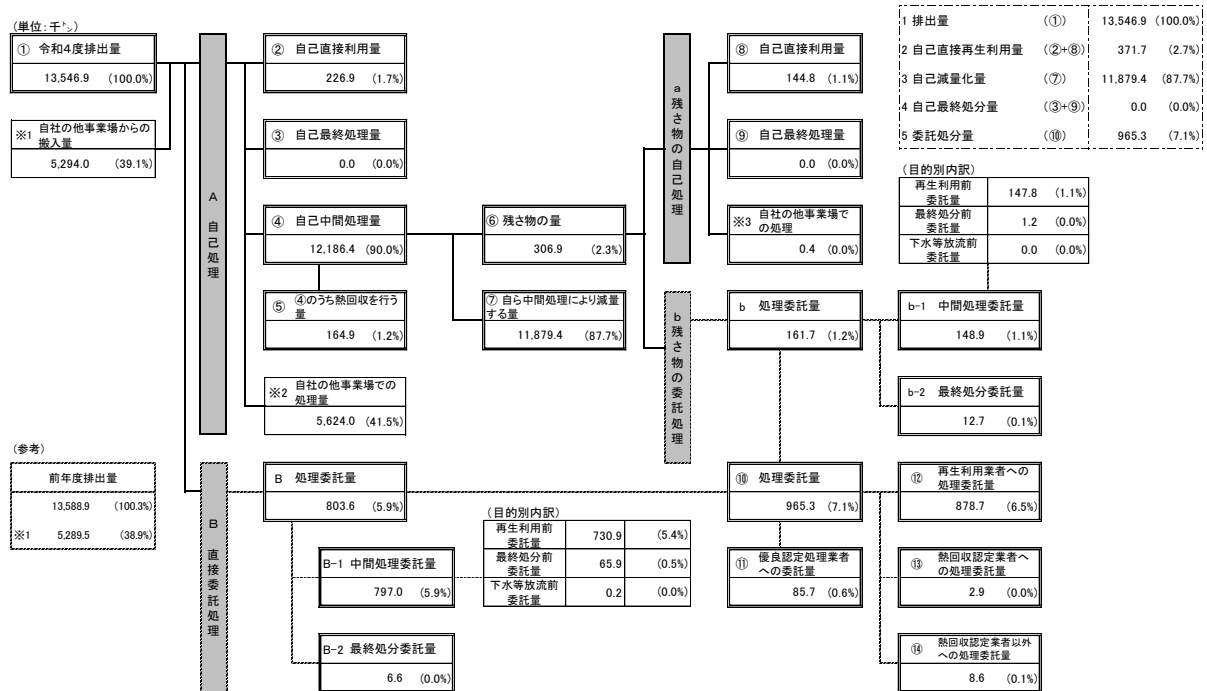
2.5.3 産業廃棄物の種類別処理フロー

産業廃棄物の種類別処理フローを以下に示す。なお、発生量が0トンとなっている種類および種類別データ数が2事業所以下の種類については省略している。

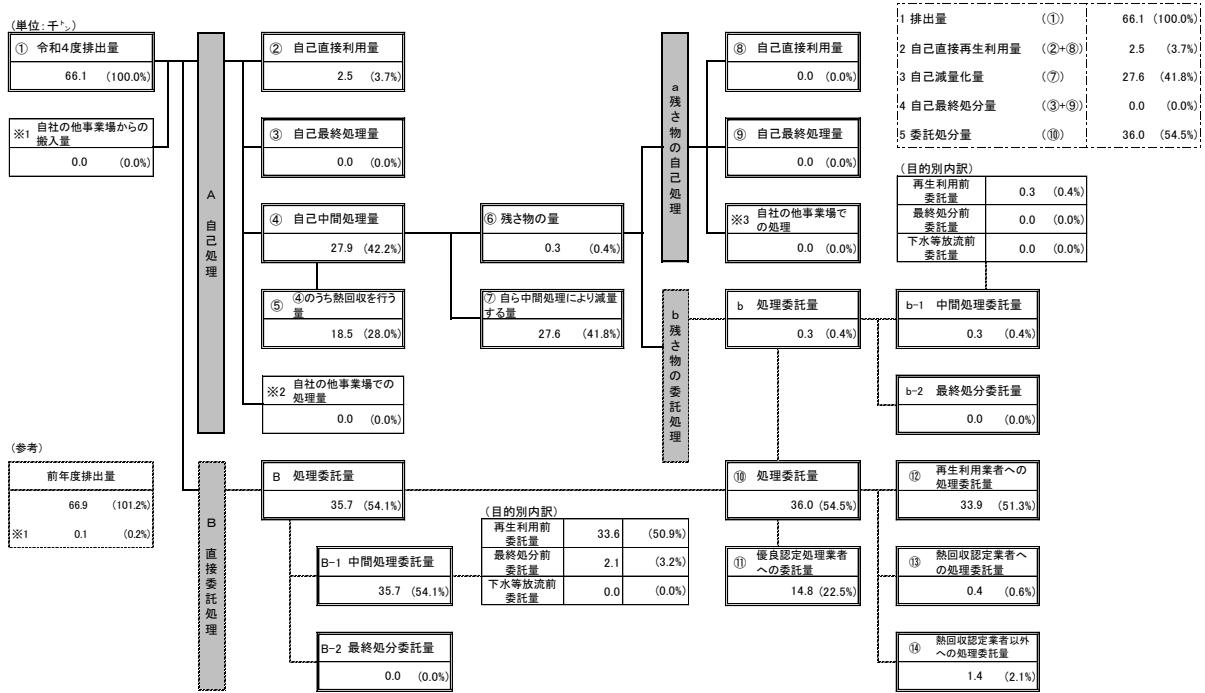
① 燃えがら：産業廃棄物



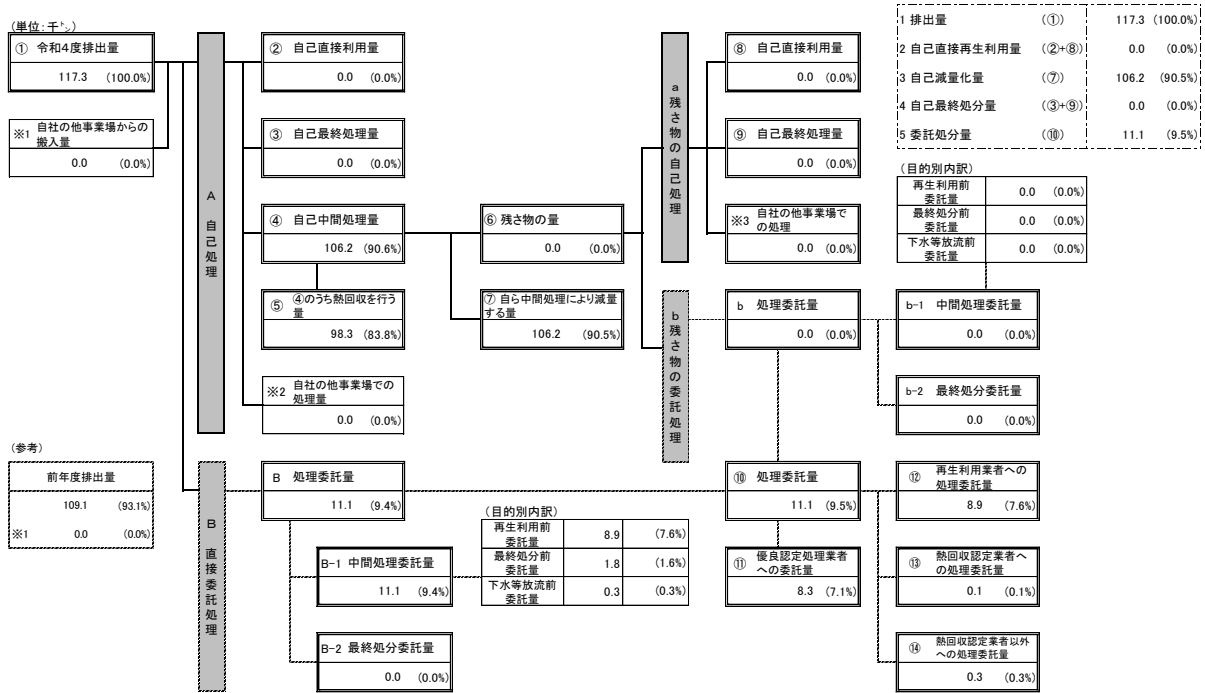
② 汚泥：産業廃棄物



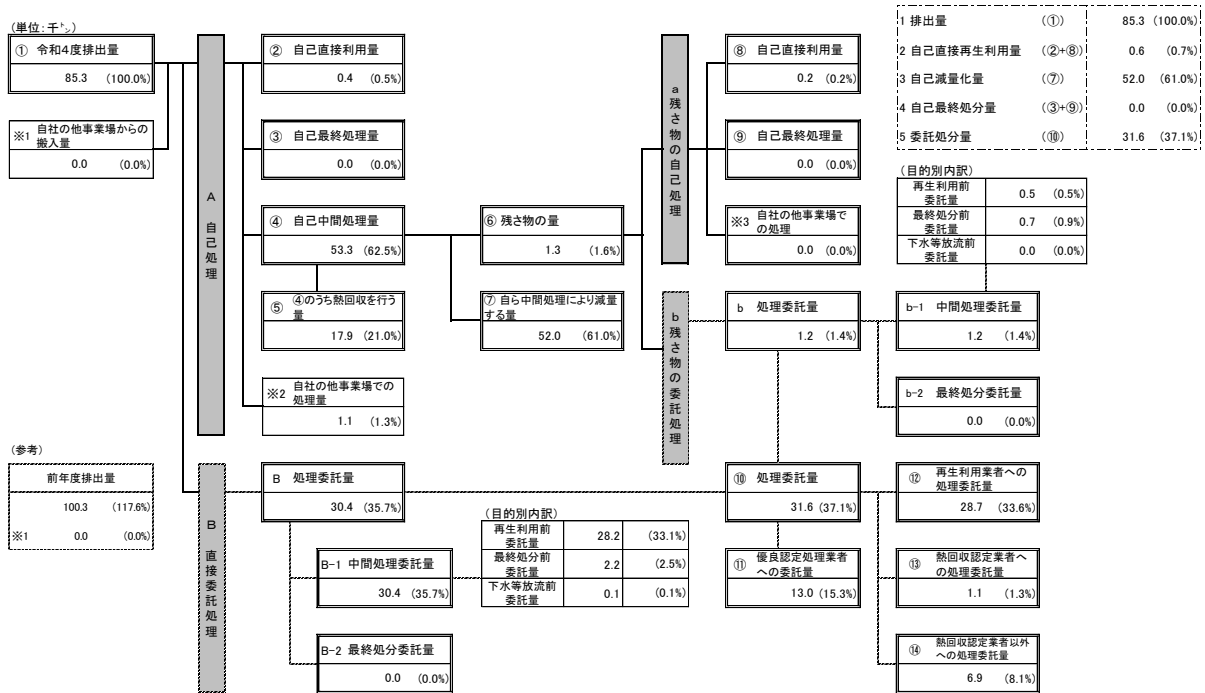
③ 廃油：産業廃棄物



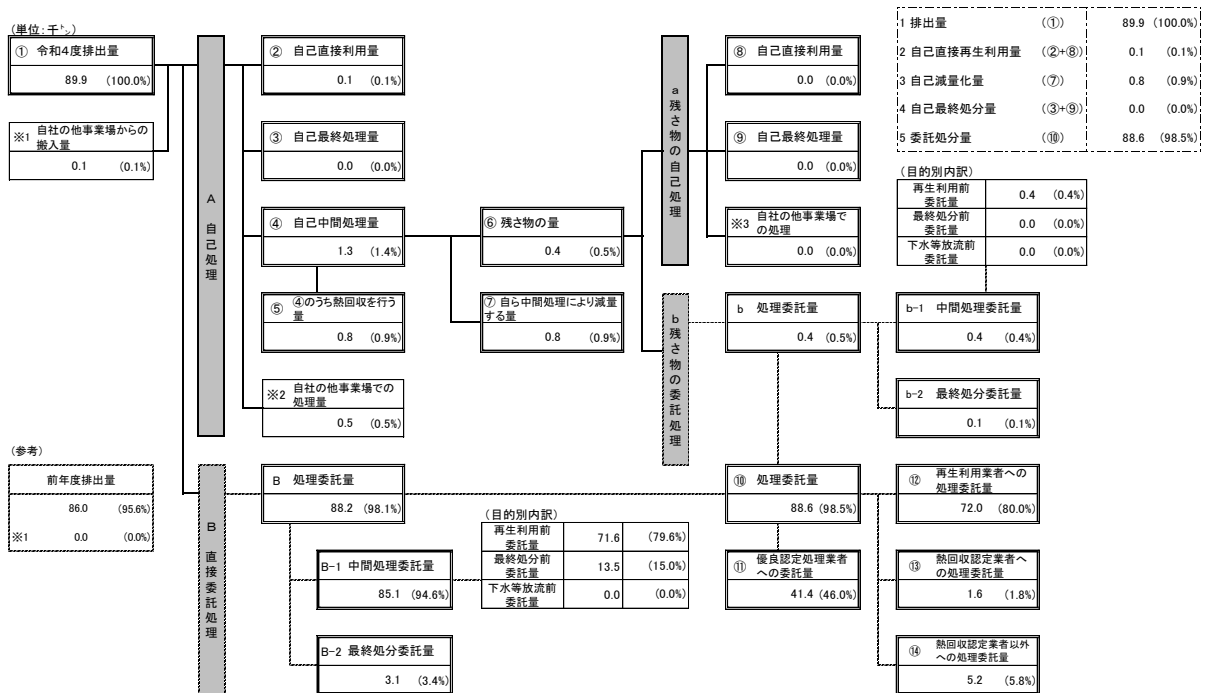
④ 廃酸：産業廃棄物



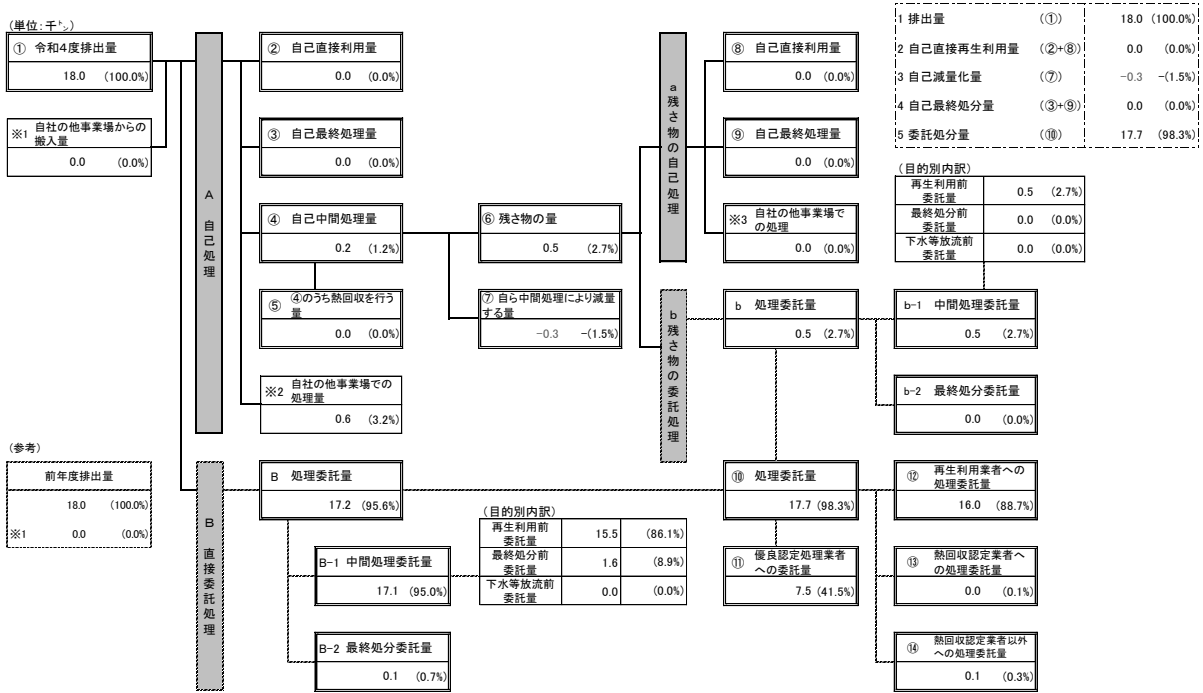
⑤ 廃アルカリ：産業廃棄物



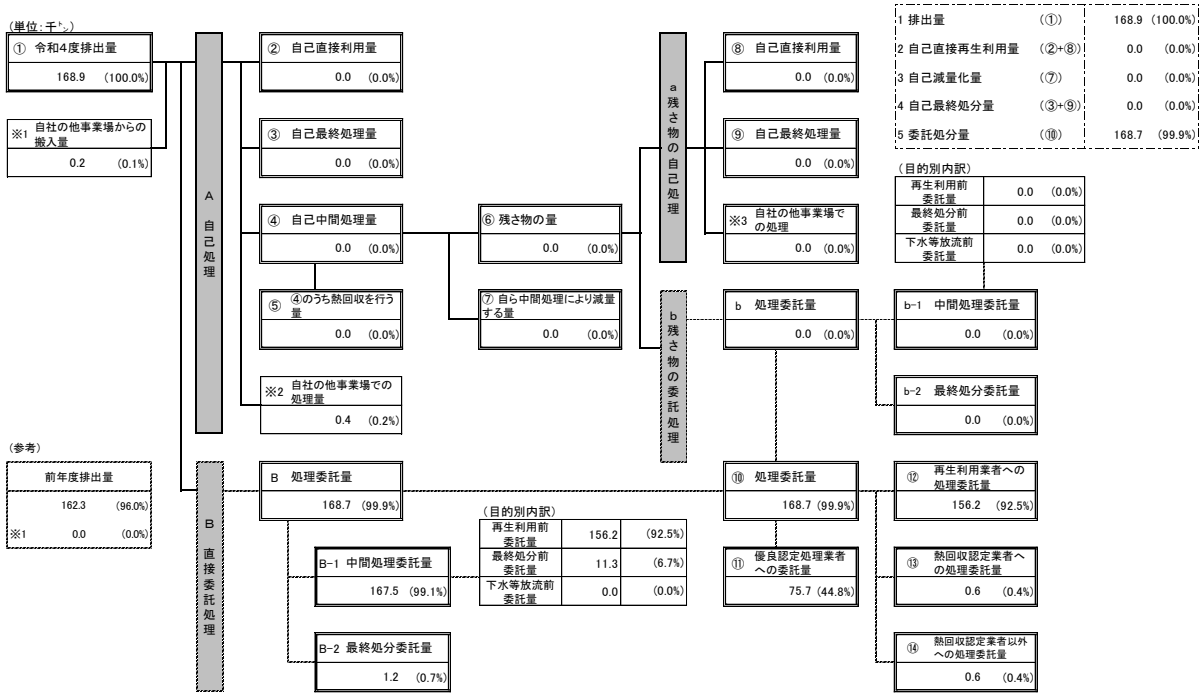
⑥ 廃プラスチック類：産業廃棄物



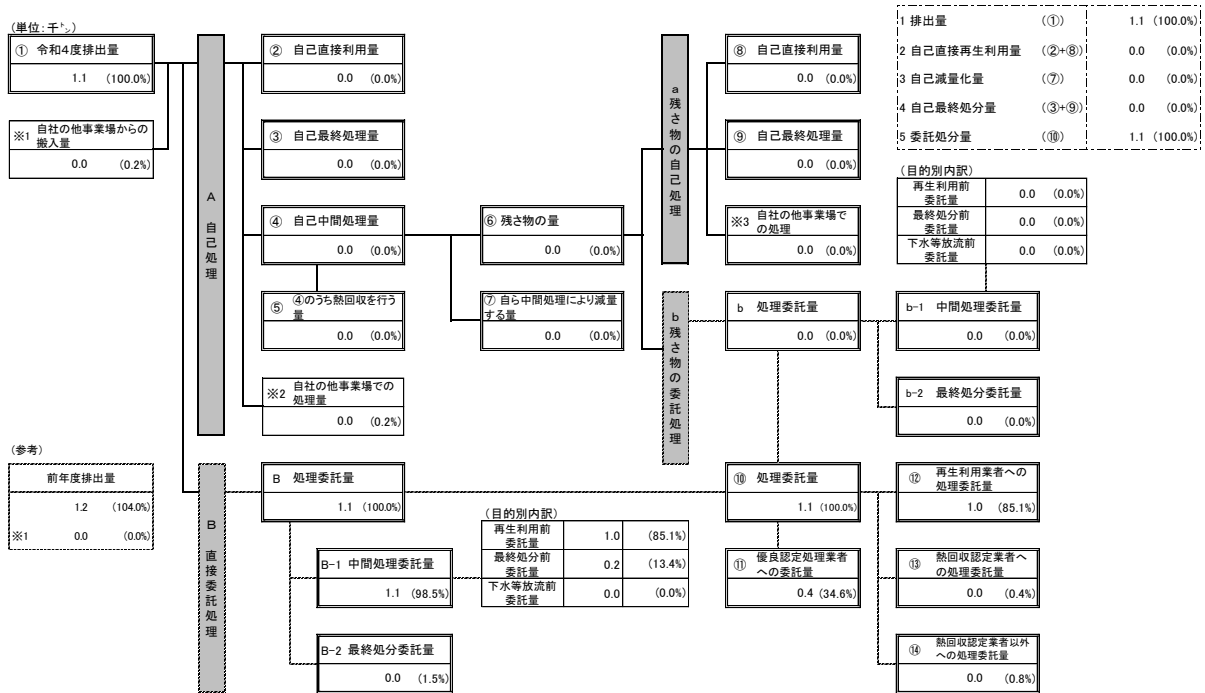
⑦ 紙くず：産業廃棄物



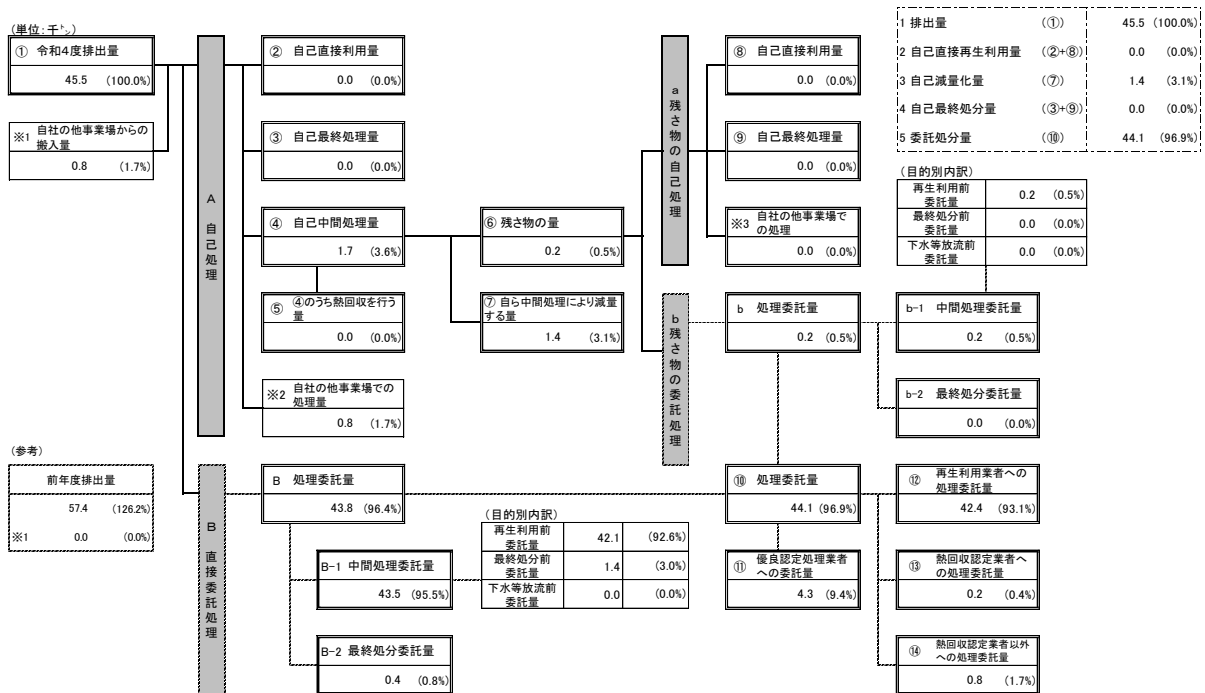
⑧ 木くず：産業廃棄物



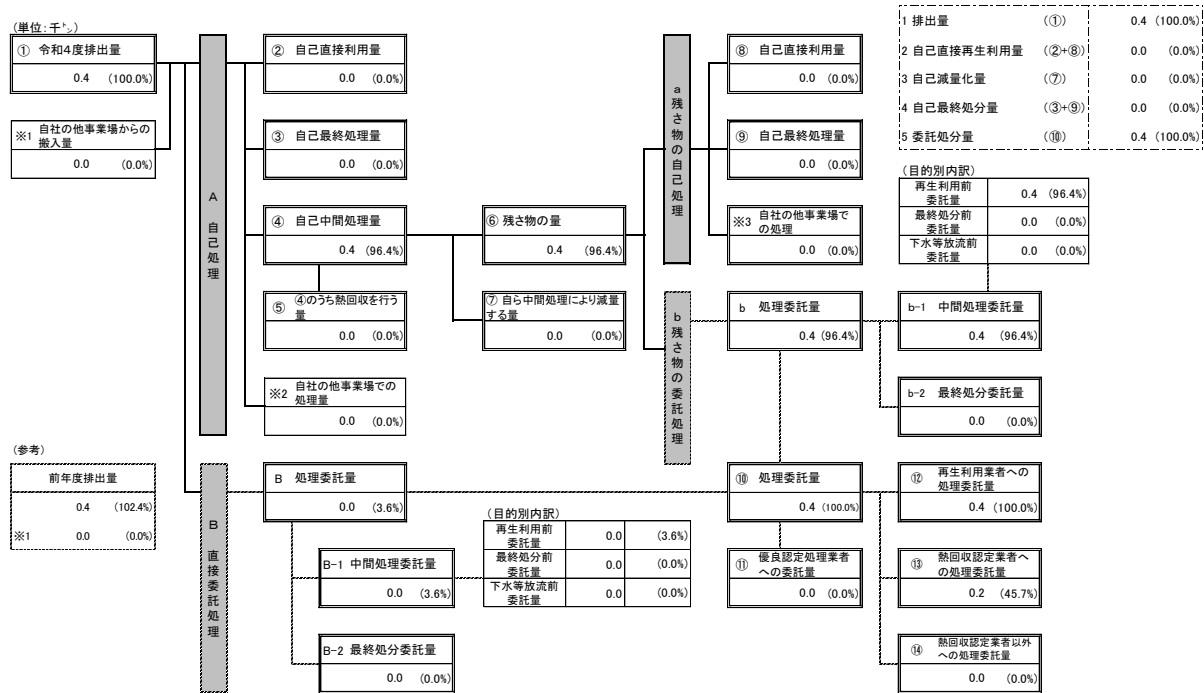
⑨ 繊維くず：産業廃棄物



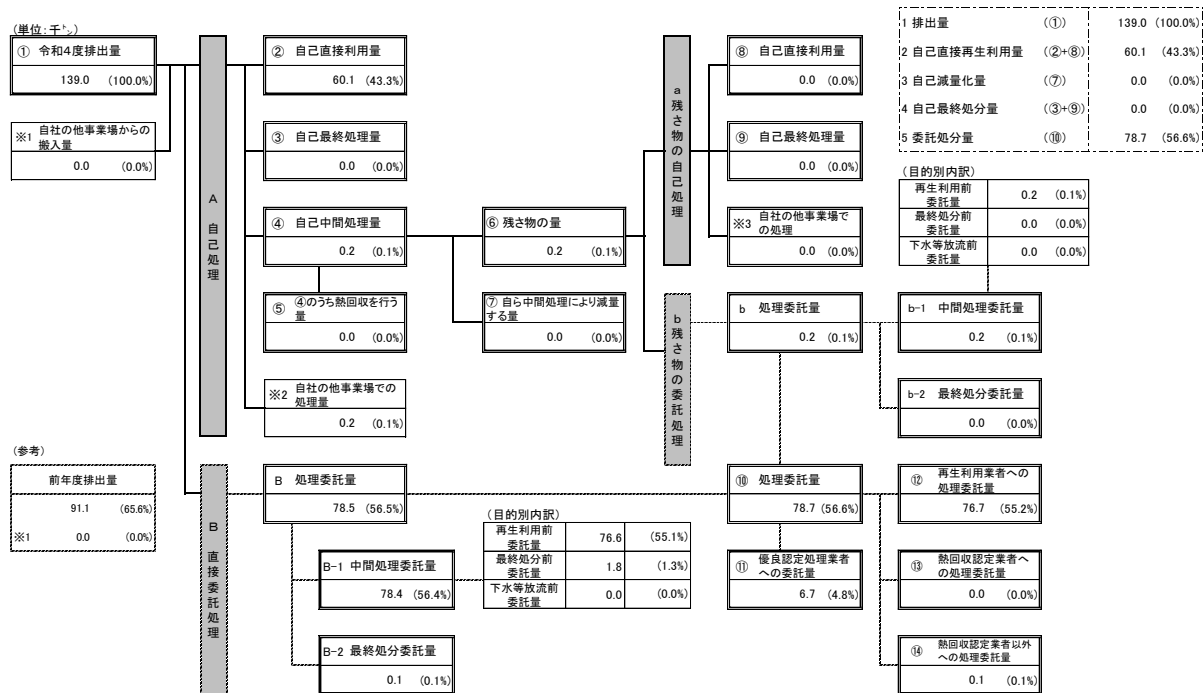
⑩ 動植物性残さ：産業廃棄物



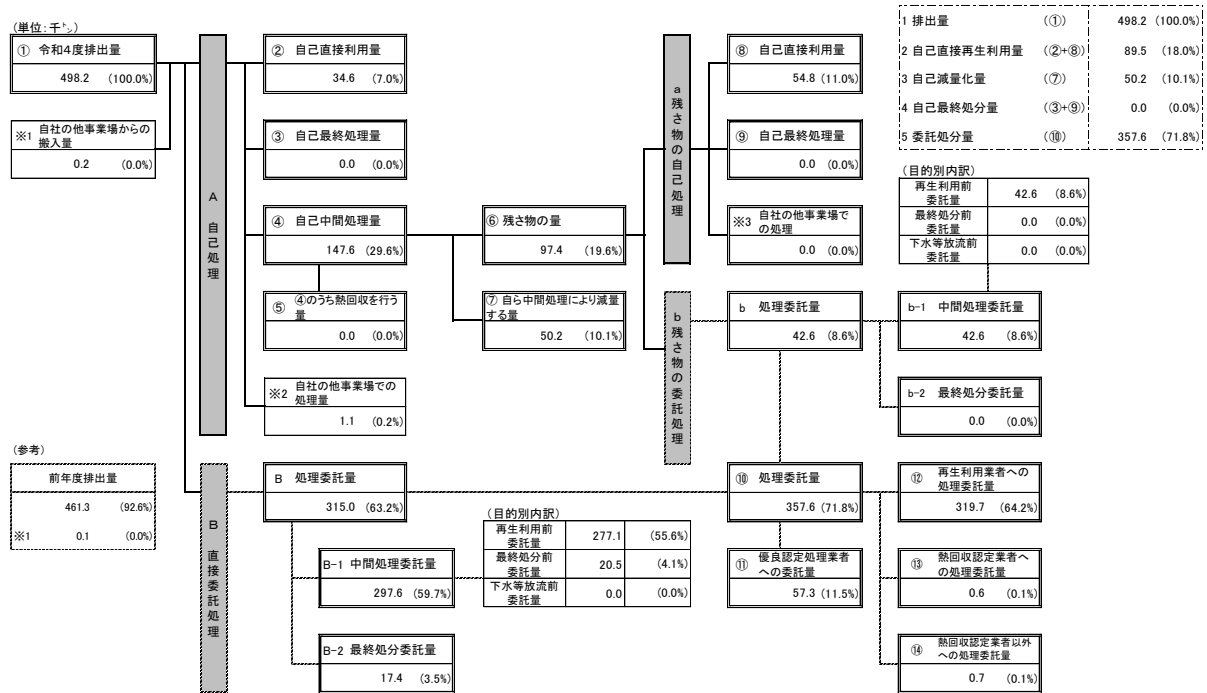
⑪ ゴムくず：産業廃棄物



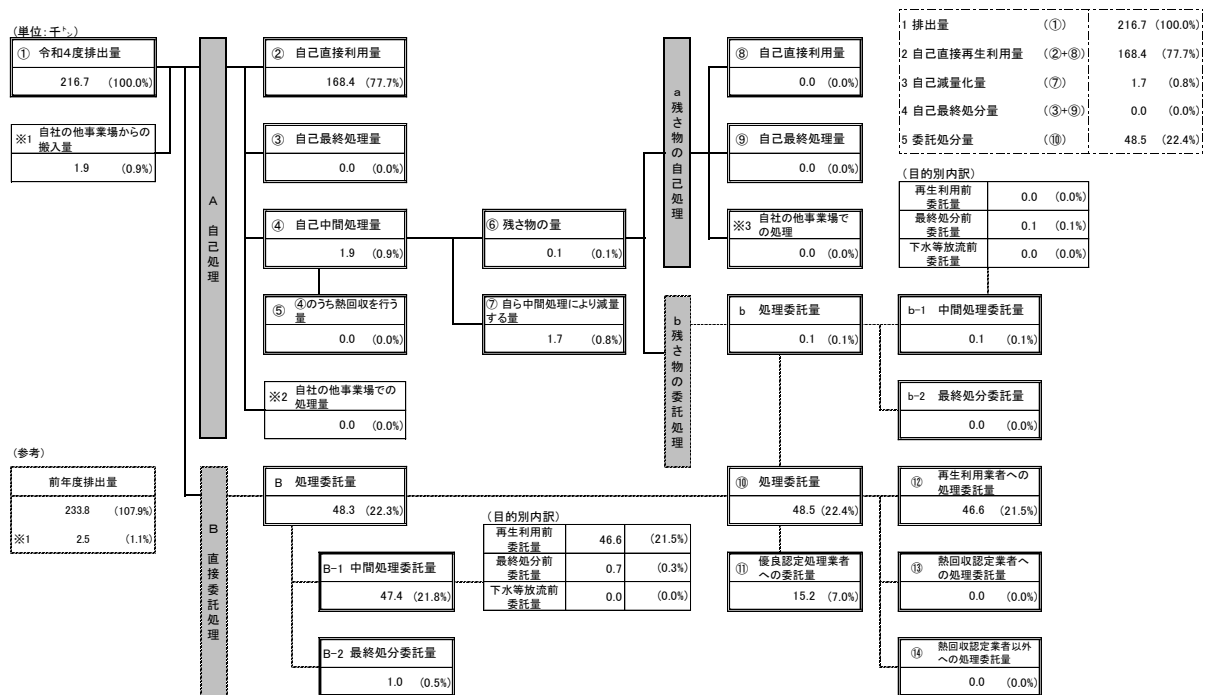
⑫ 金属くず：産業廃棄物



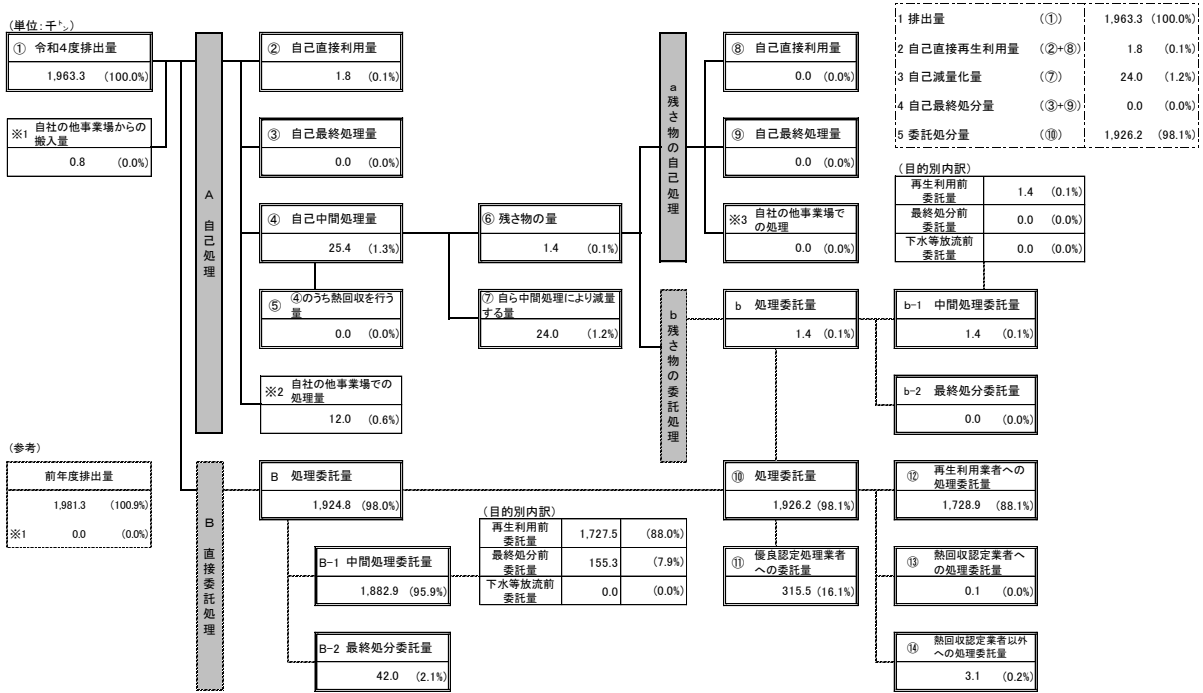
⑬ ガラス・コンクリート・陶磁器くず：産業廃棄物



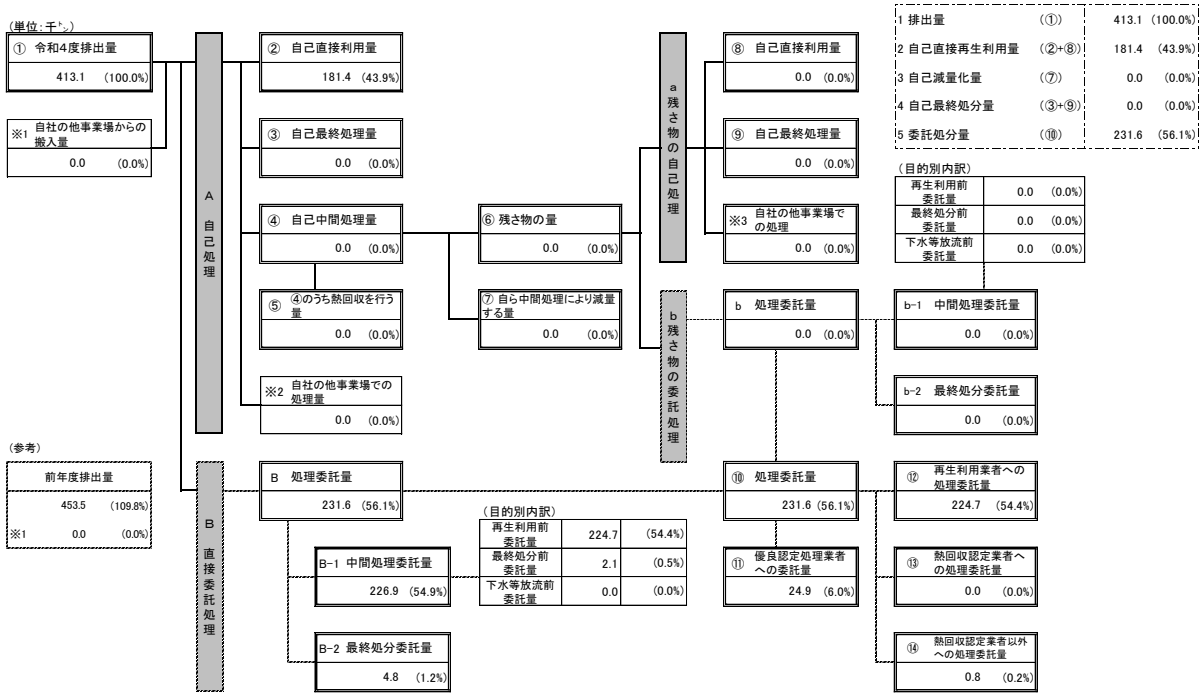
⑭ 鉱さい：産業廃棄物



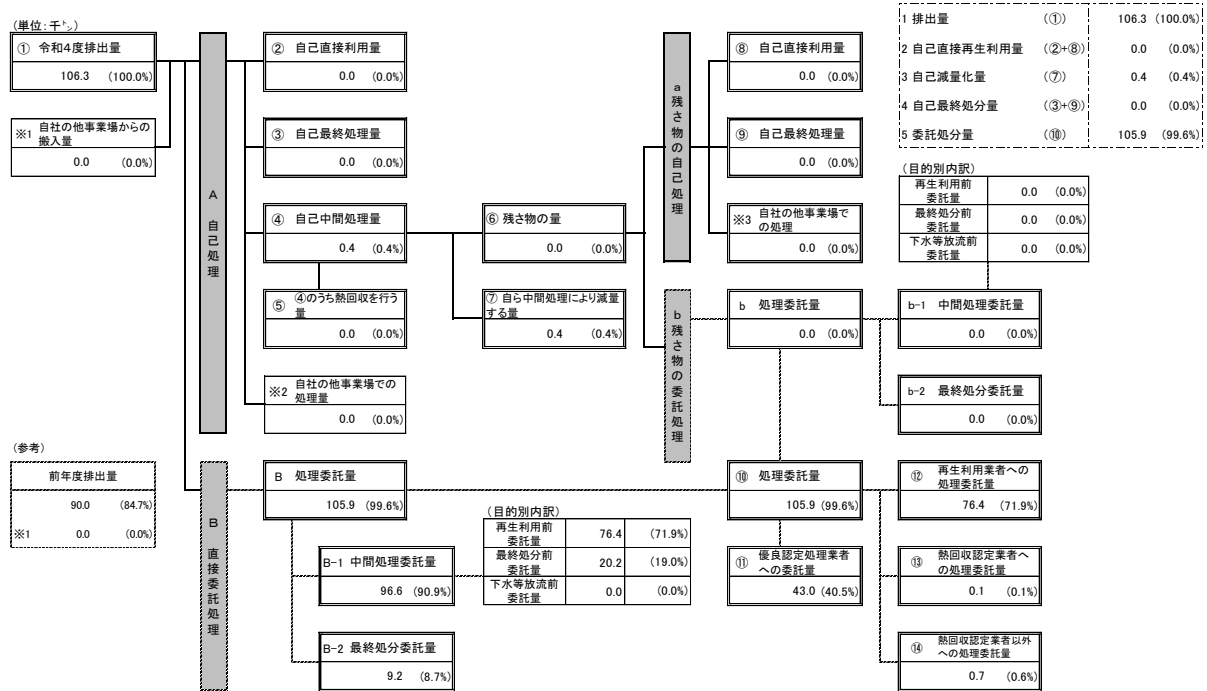
⑮ がれき類：産業廃棄物



⑯ ばいじん：産業廃棄物



⑰ 混合廃棄物その他：産業廃棄物



2.5.4 特別管理産業廃棄物の処理フロー

令和4年度の特別管理産業廃棄物実績は、発生量約11.1万トンに対し、直接委託処理されたもの(⑩)が約9.3万トン(発生量に対して83.6%)、自己処理されたもの(②自己直接利用量、③自己最終処理量および④自己中間処理量の合計)が約2.1万トン(同18.8%)となっている。

廃棄物減量化についてみると、特別管理産業廃棄物の発生量約11.1万トンに対して自己直接利用量は約0.01万トン(全体の0.1%)、自己減量化量が約2.1万トン(同18.7%)であった。一方、自己最終処理量の0.0万トン(同0.0%)と委託処分量の約9.3万トン(同83.6%)をあわせると、事業者自らによって減量化や再生利用されなかった廃棄物は全体の約9割となっている。

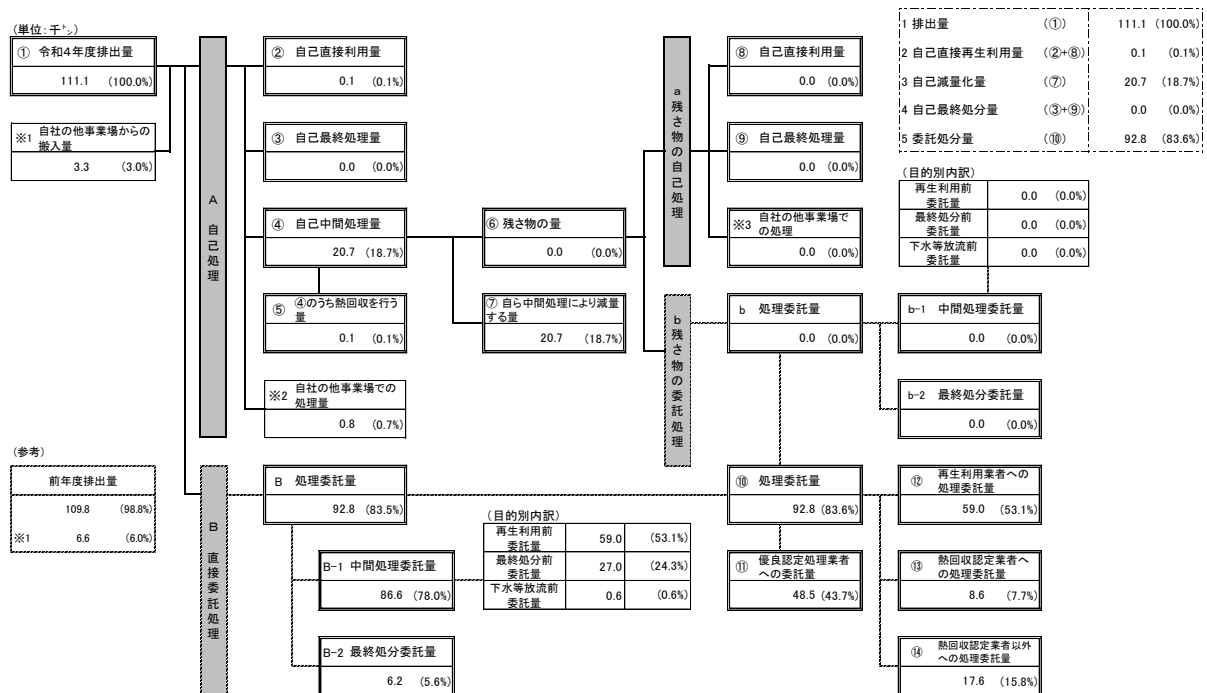


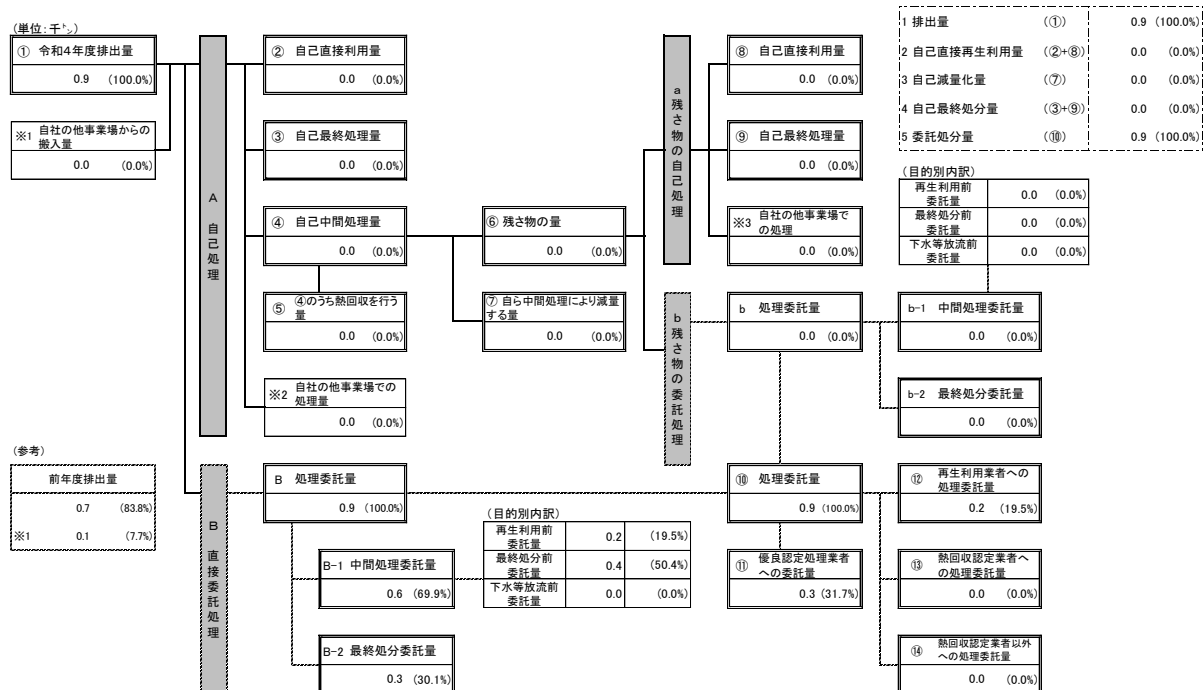
図 71 特別管理産業廃棄物の処理フロー

注 () 内の%は、「①令和4年度発生量」に対する割合を示している。ただし、「(参考) 前年度排出量」の※1については、令和3年度の「排出量」に対する割合である。以降の処理フローも同様である。

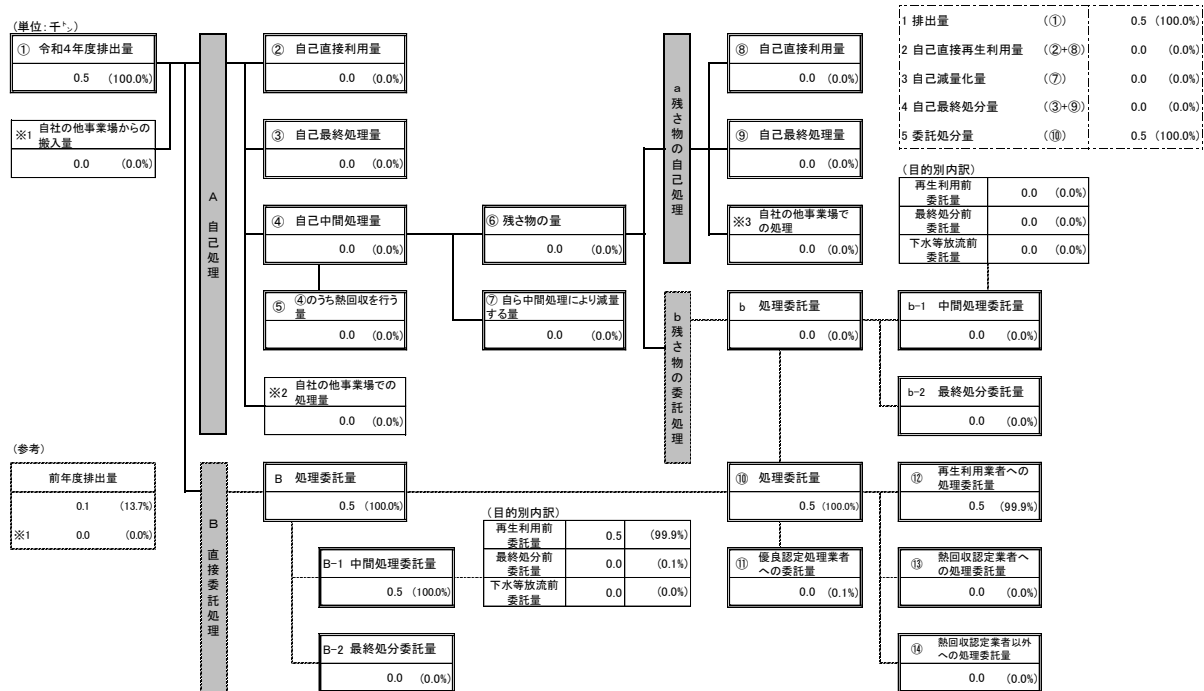
2.5.5 特別管理産業廃棄物の業種別処理フロー

特別管理産業廃棄物の業種別処理フローを以下に示す。なお、発生量が0トンとなっている業種および業種別データ数が2事業所以下の業種については省略している。

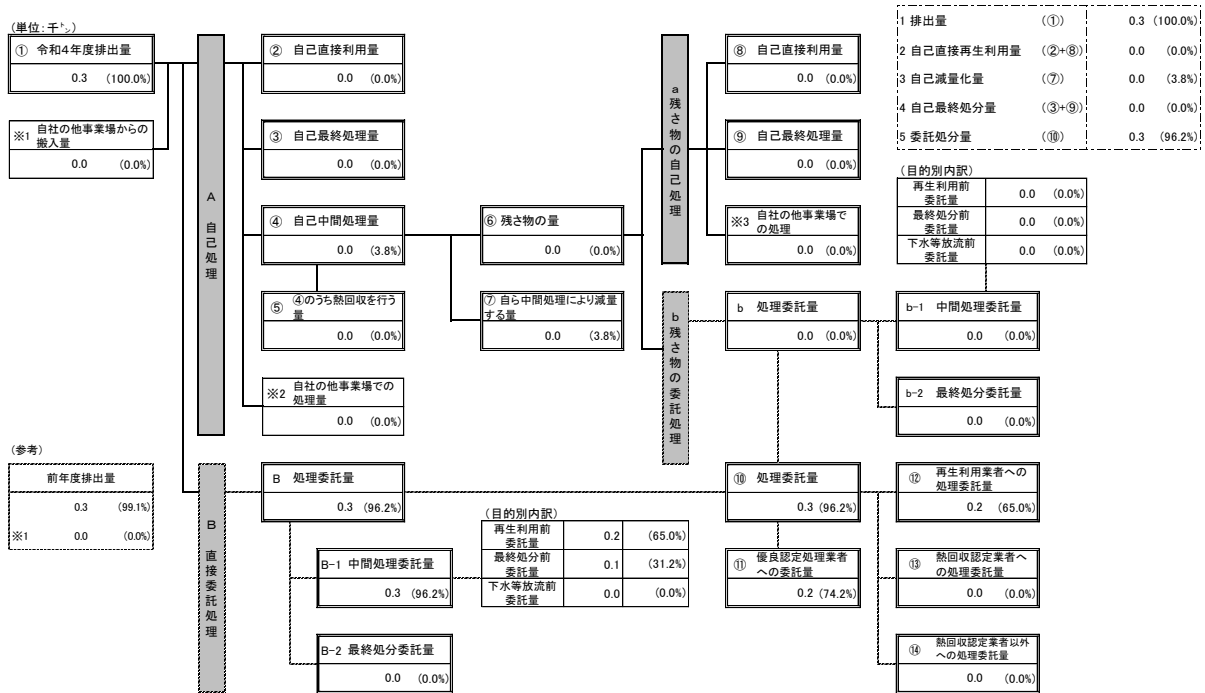
① 建設業：特別管理産業廃棄物



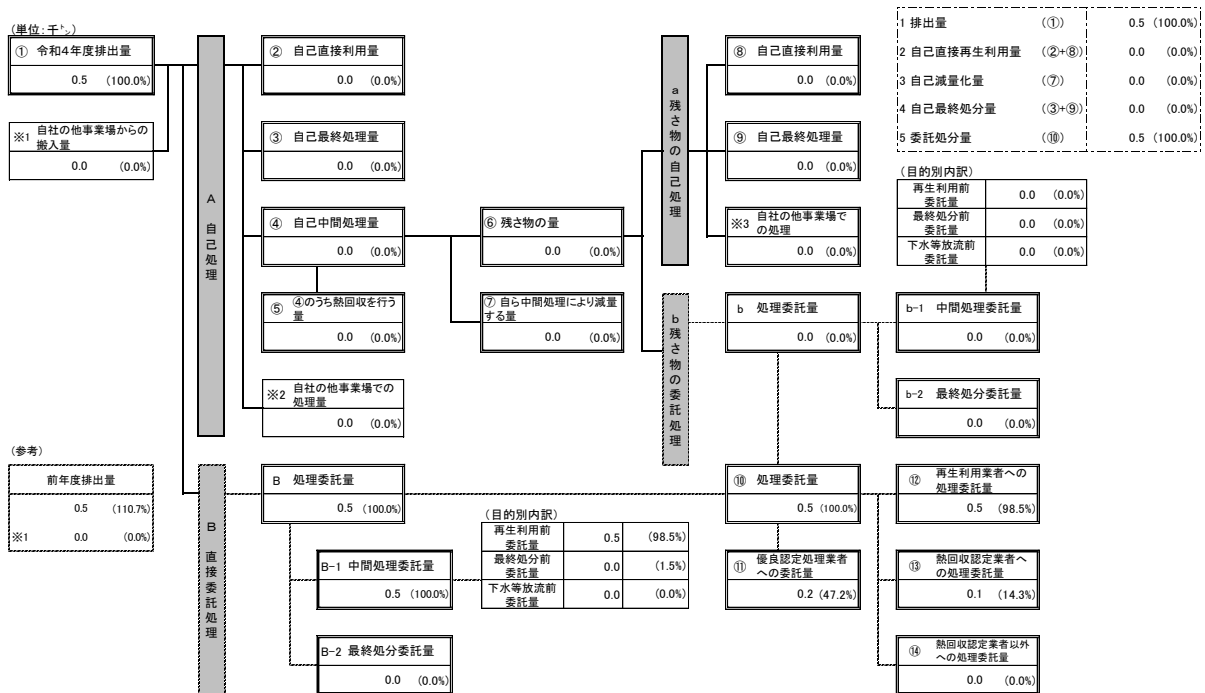
② 食料：特別管理産業廃棄物



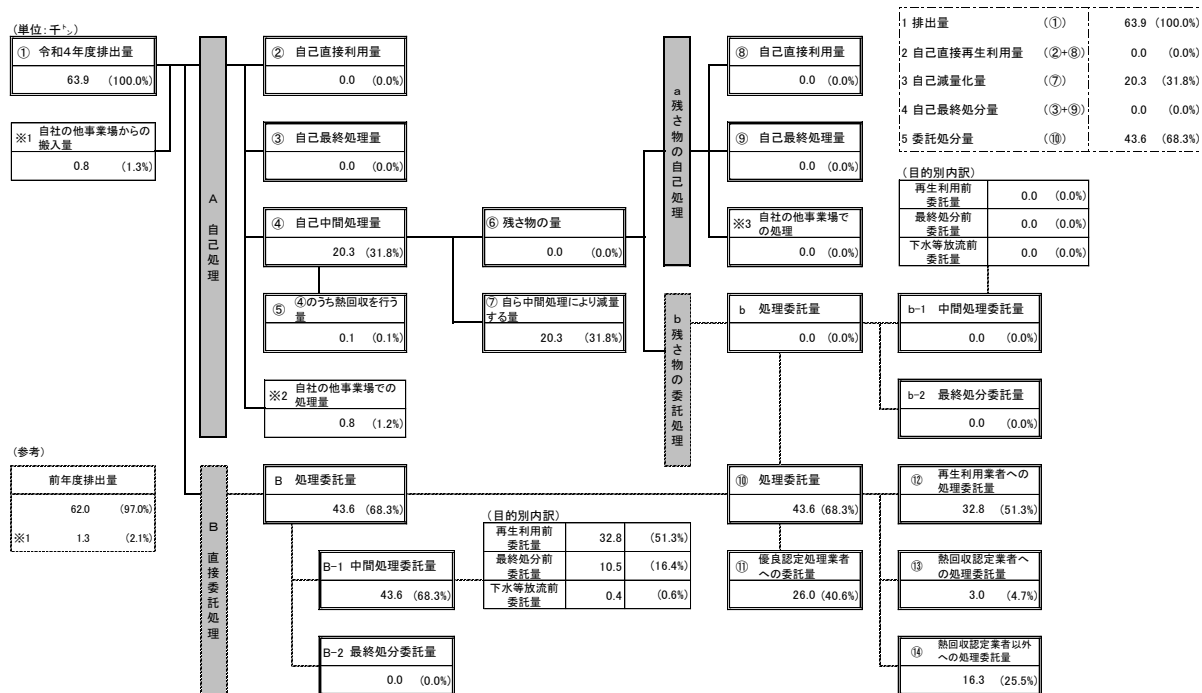
③ 生活関連：特別管理産業廃棄物



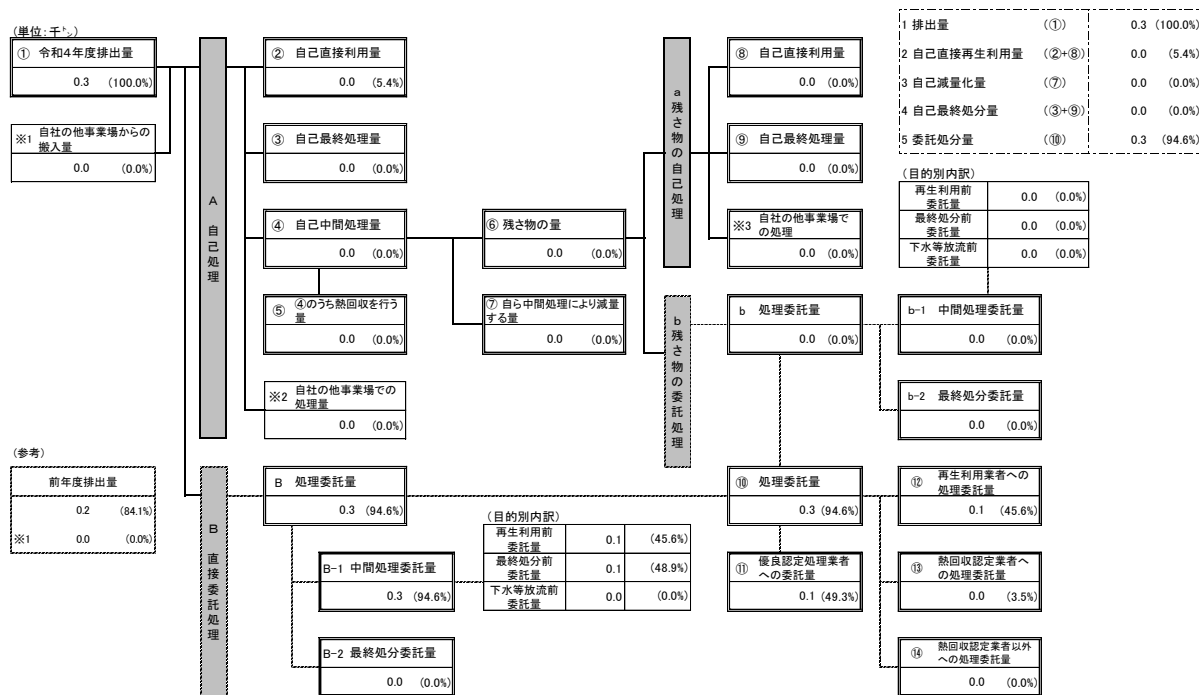
④ 紙：特別管理産業廃棄物



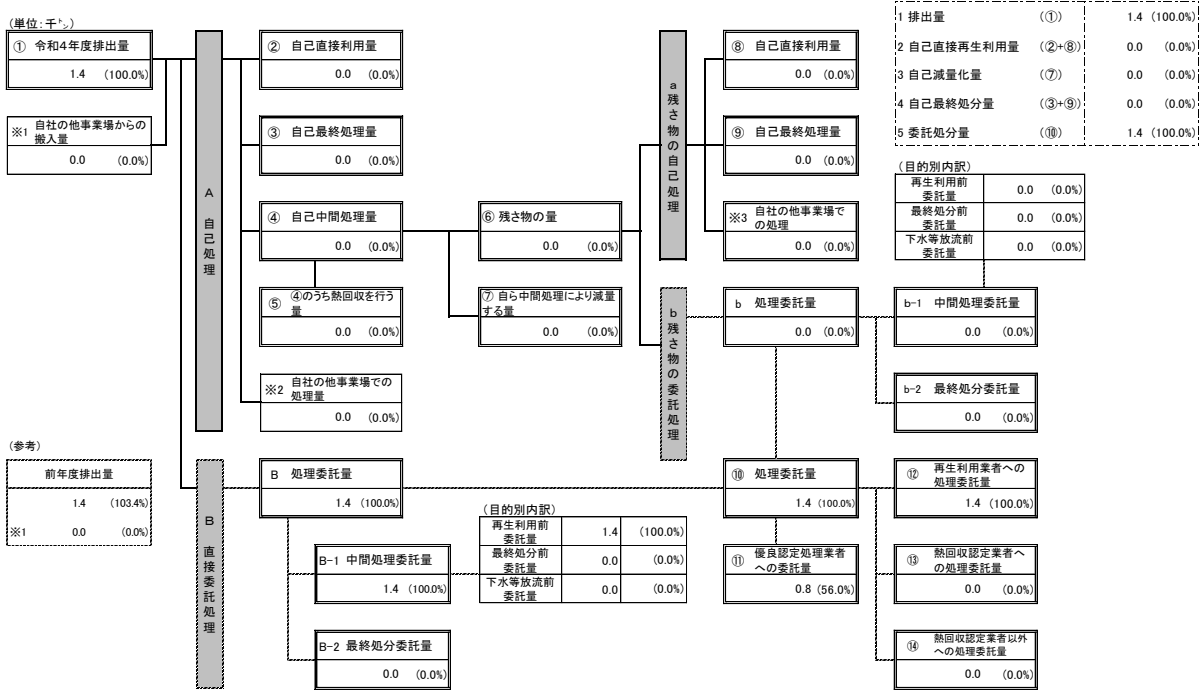
⑤ 化学：特別管理産業廃棄物



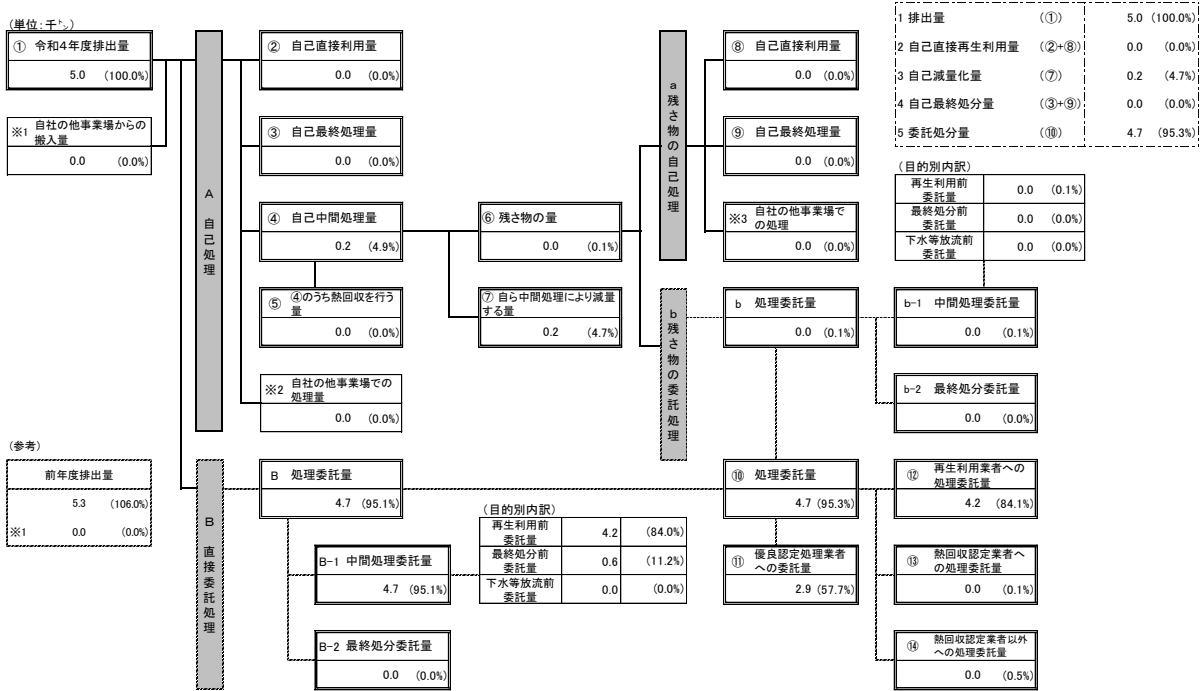
⑥ プラスチック：特別管理産業廃棄物



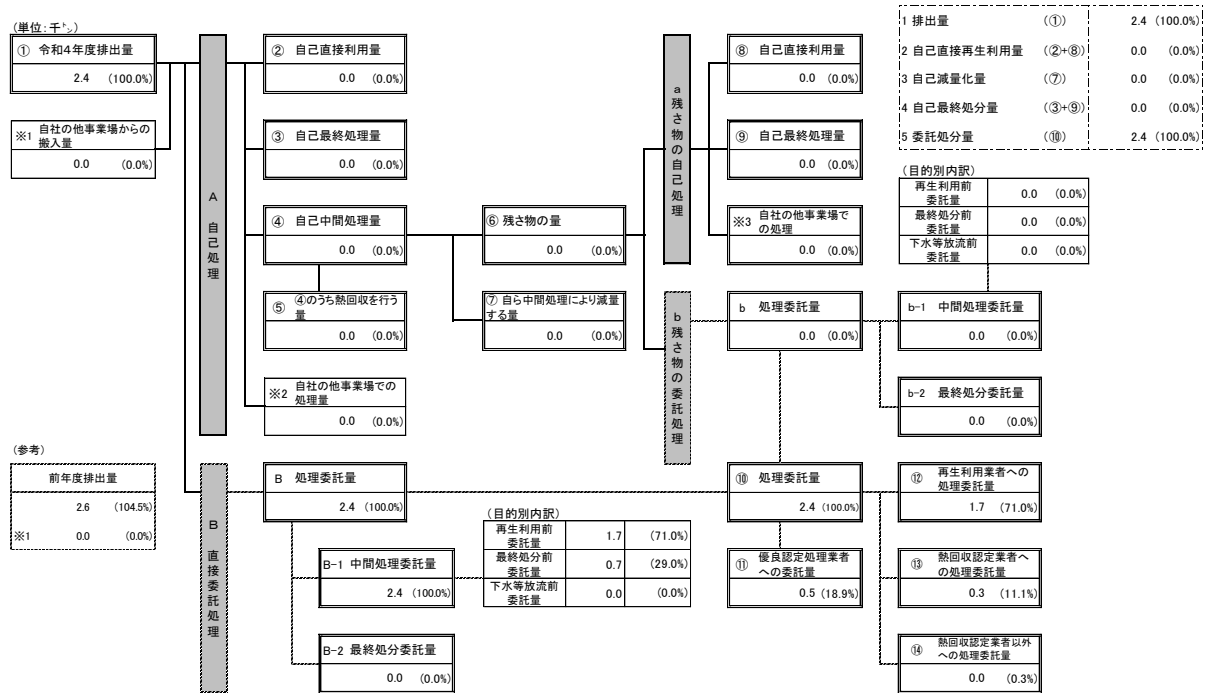
⑦ 窯業：特別管理産業廃棄物



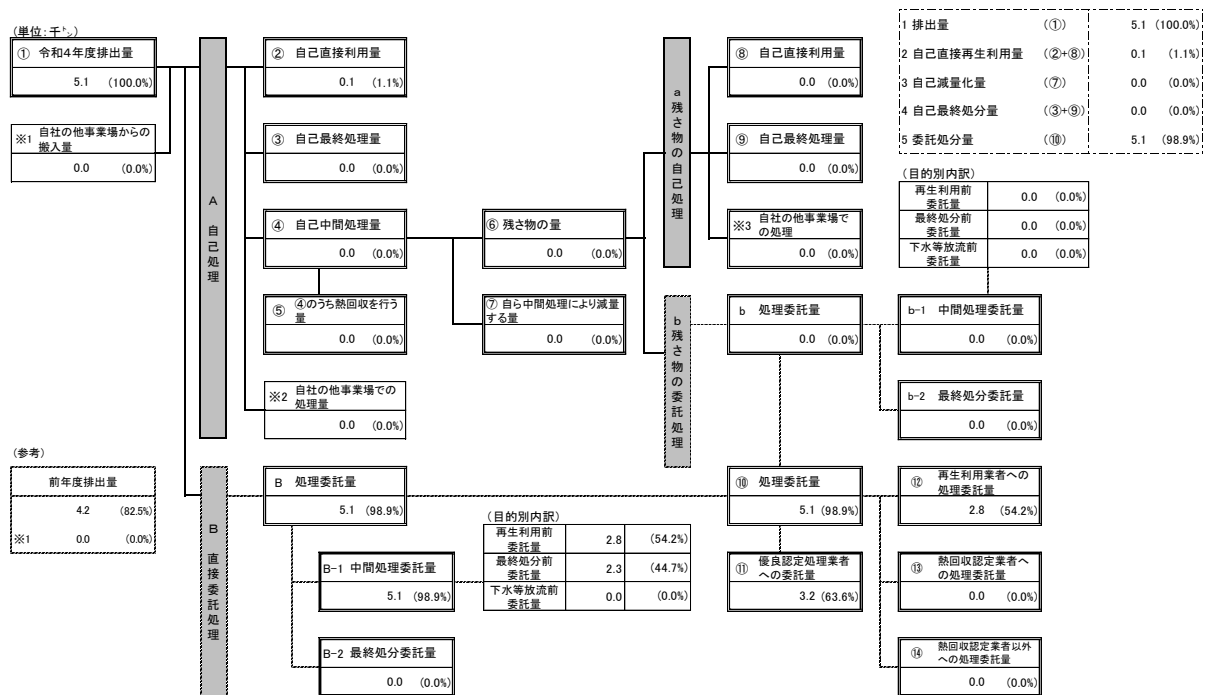
⑧ 鉄鋼：特別管理産業廃棄物



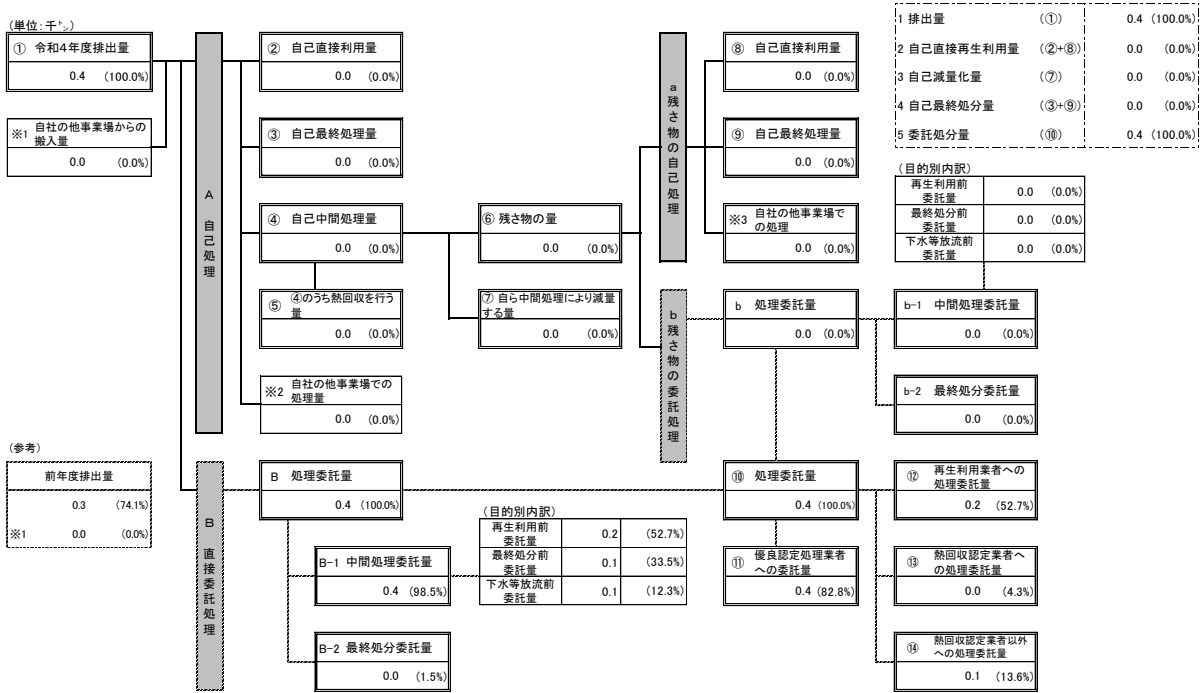
⑨ 非鉄金属：特別管理産業廃棄物



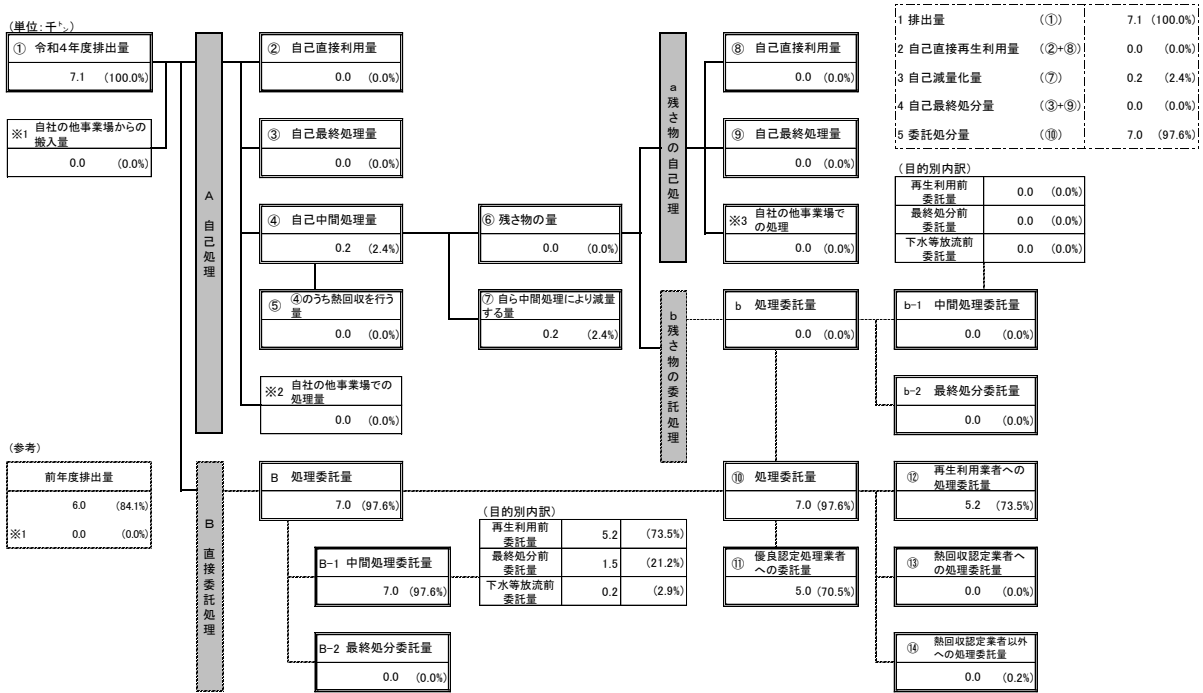
⑩ 金属：特別管理産業廃棄物



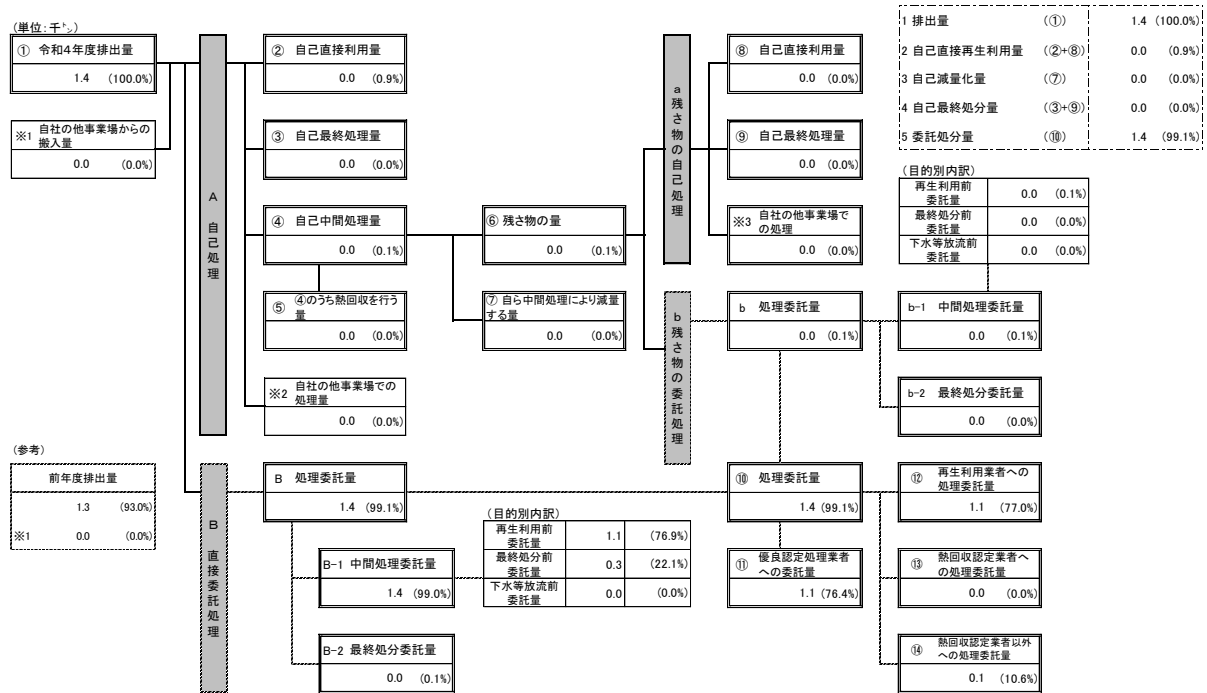
⑪ 一般機械：特別管理産業廃棄物



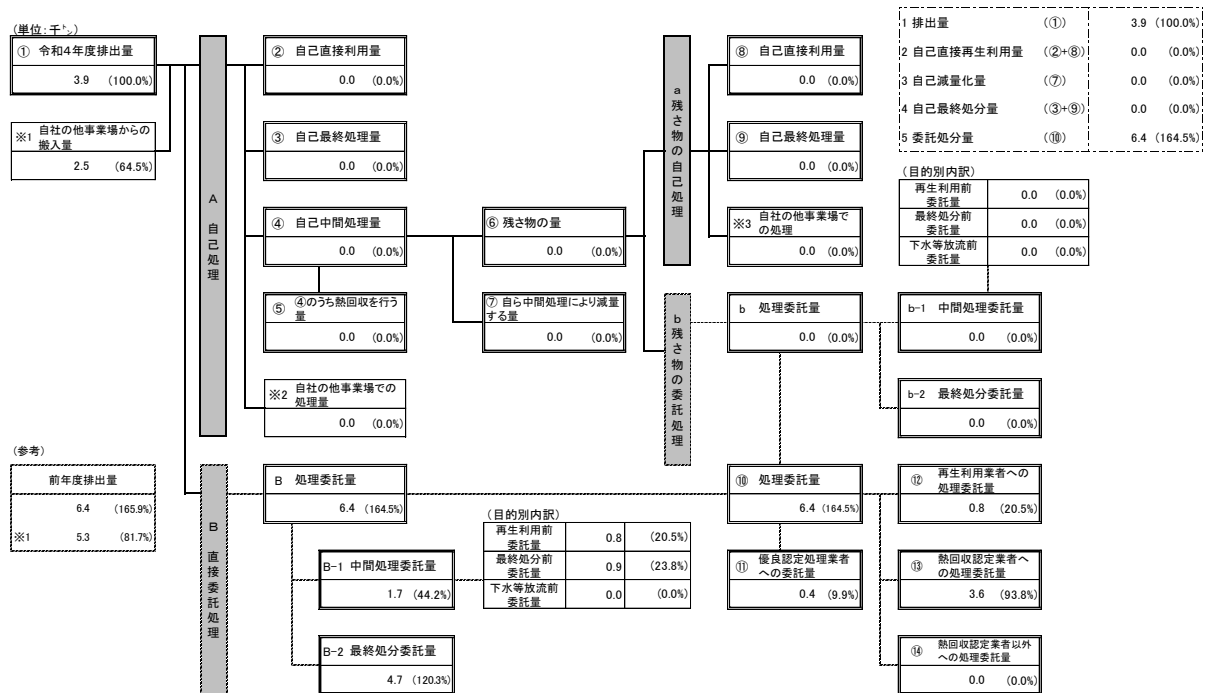
⑫ 電気機械：特別管理産業廃棄物



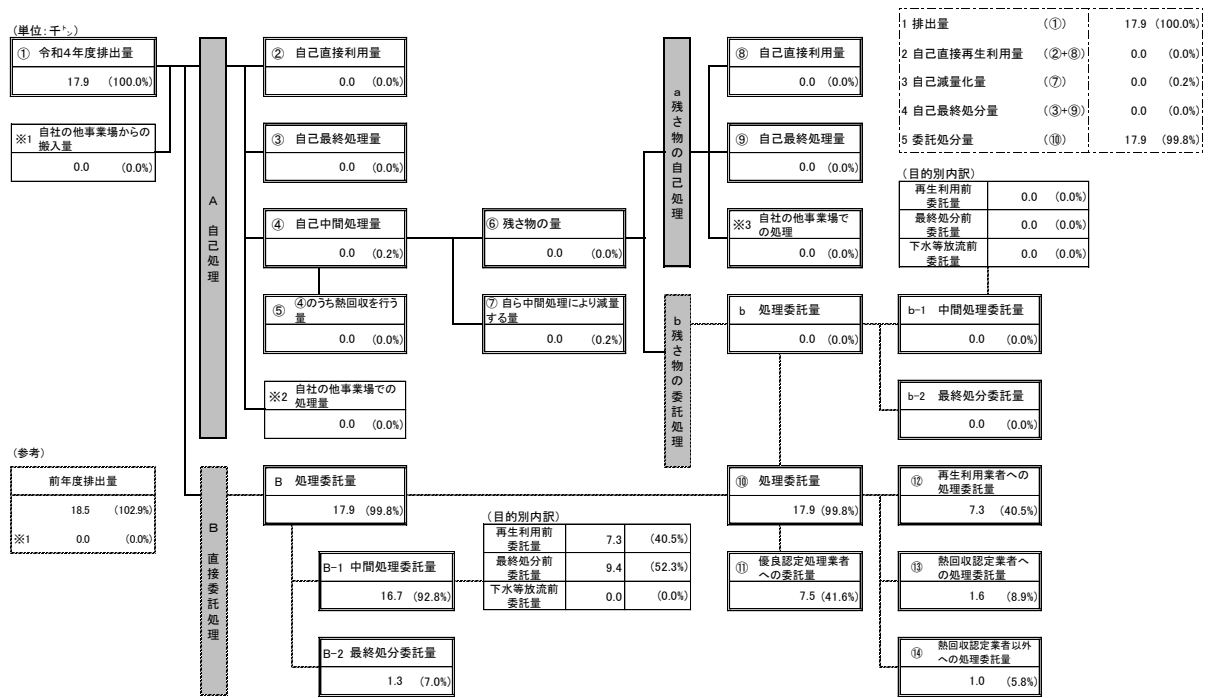
⑬ 輸送機械：特別管理産業廃棄物



⑭ 電気・ガス：特別管理産業廃棄物



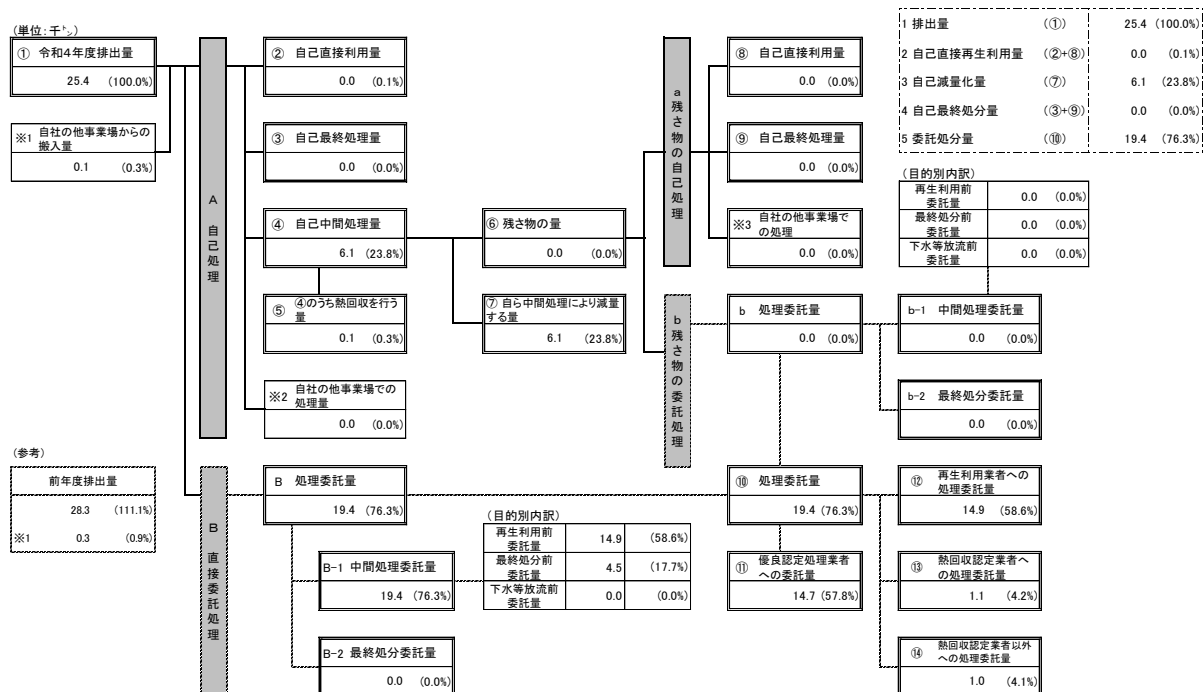
⑮ サービス業：特別管理産業廃棄物



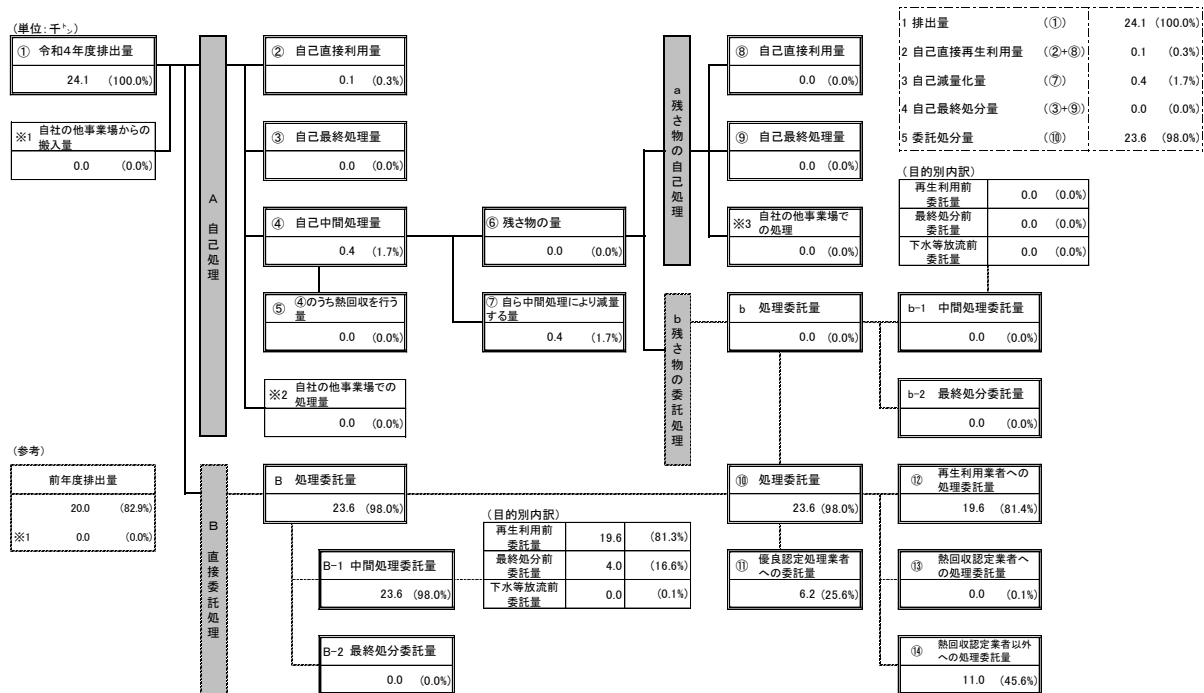
2.5.6 特別管理産業廃棄物の種類別処理フロー

特別管理産業廃棄物の種類別処理フローを以下に示す。なお、発生量が0トンとなっている種類および種類別データ数が2事業所以下の種類については省略している。

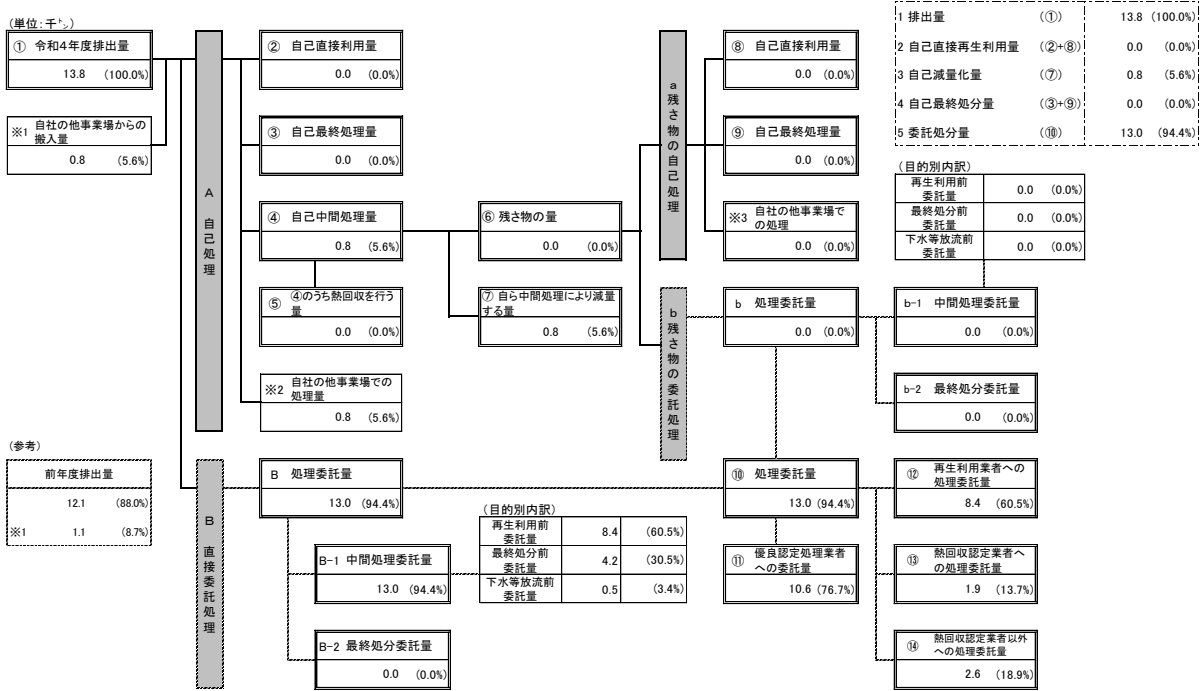
① 特管廃油：特別管理産業廃棄物



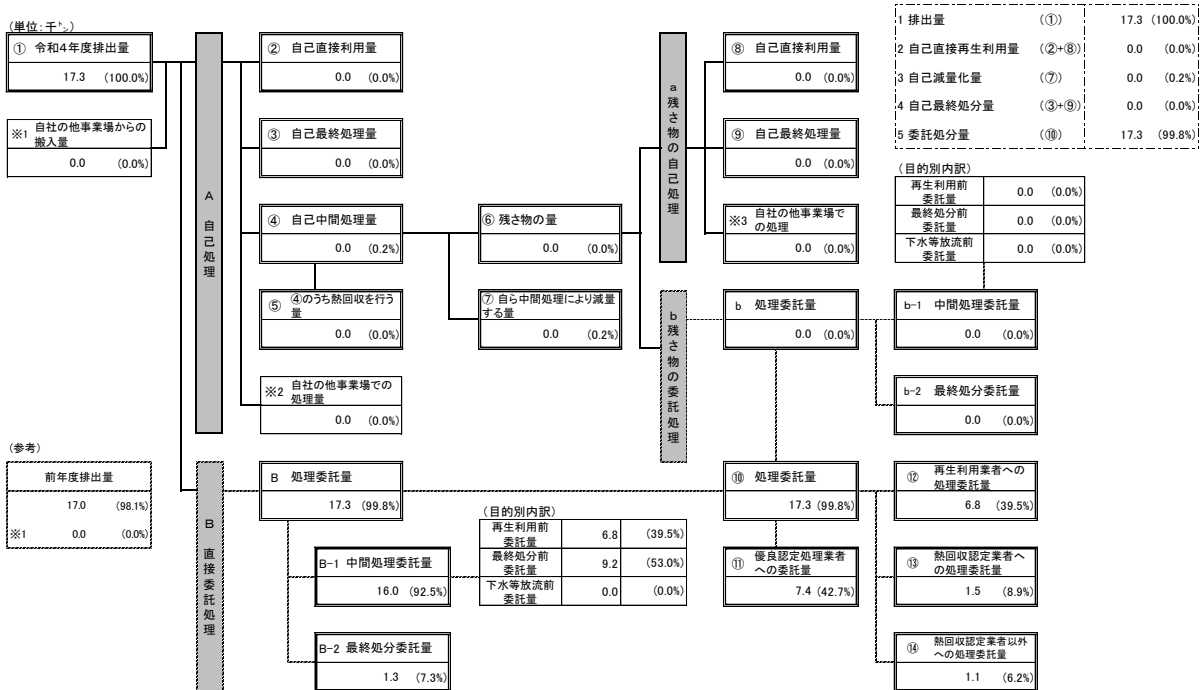
② 特管廃酸：特別管理産業廃棄物



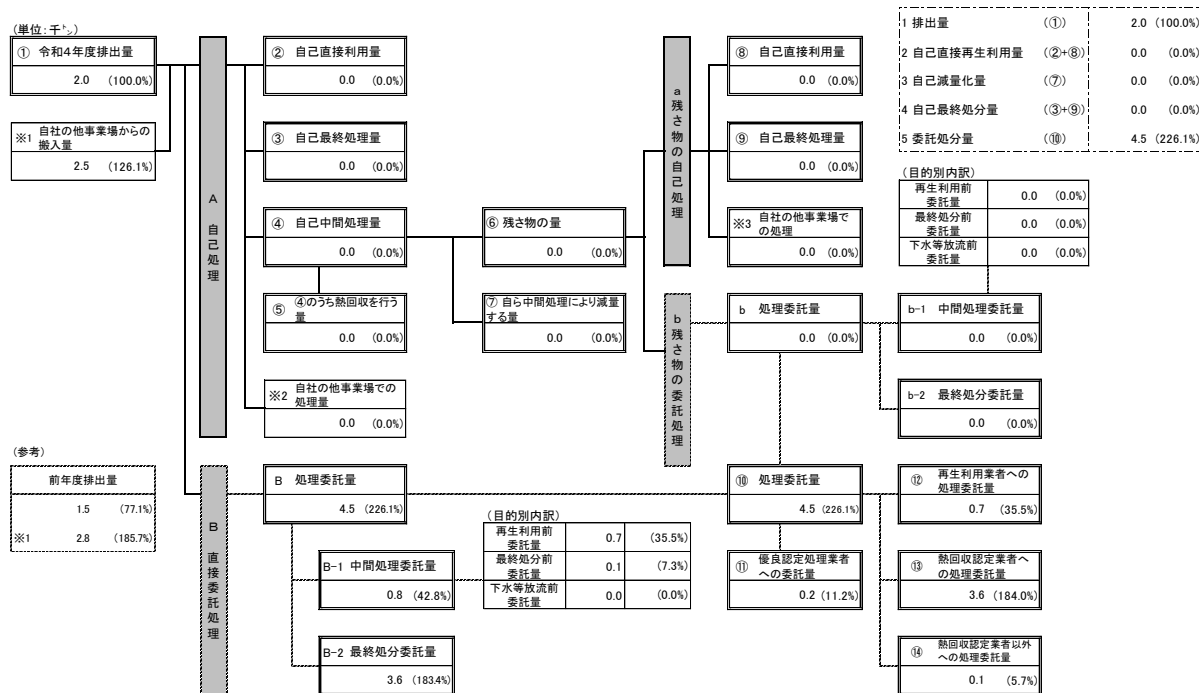
③ 特管廃アルカリ：特別管理産業廃棄物



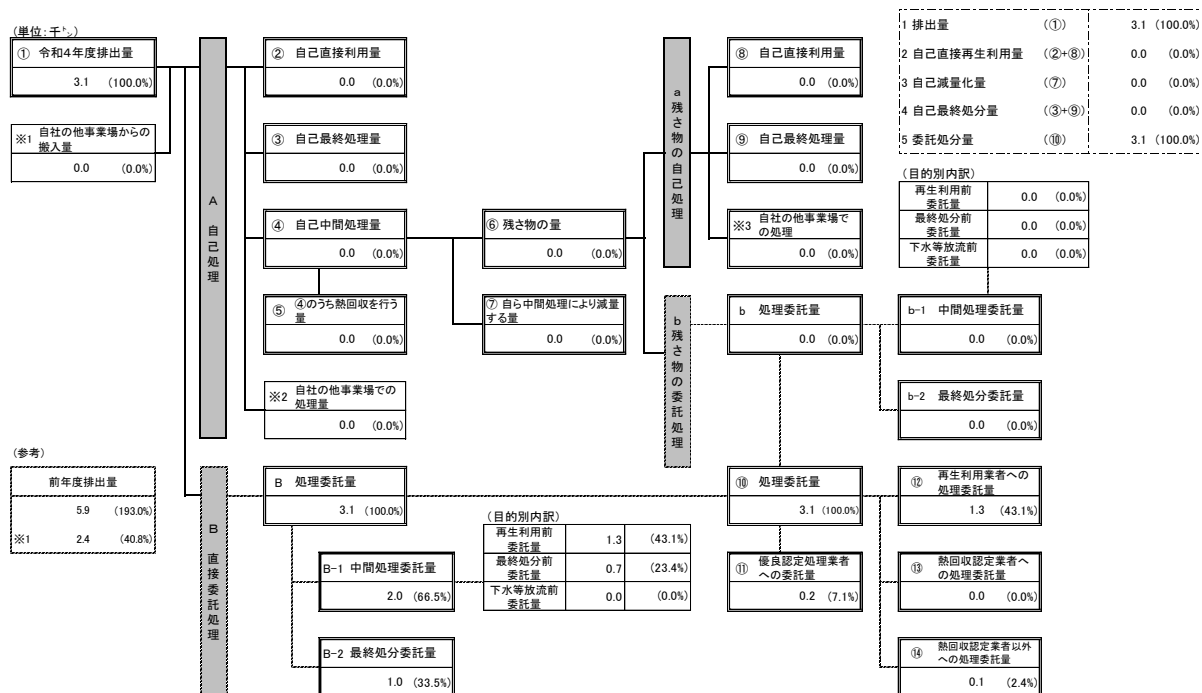
④ 感染性廃棄物：特別管理産業廃棄物



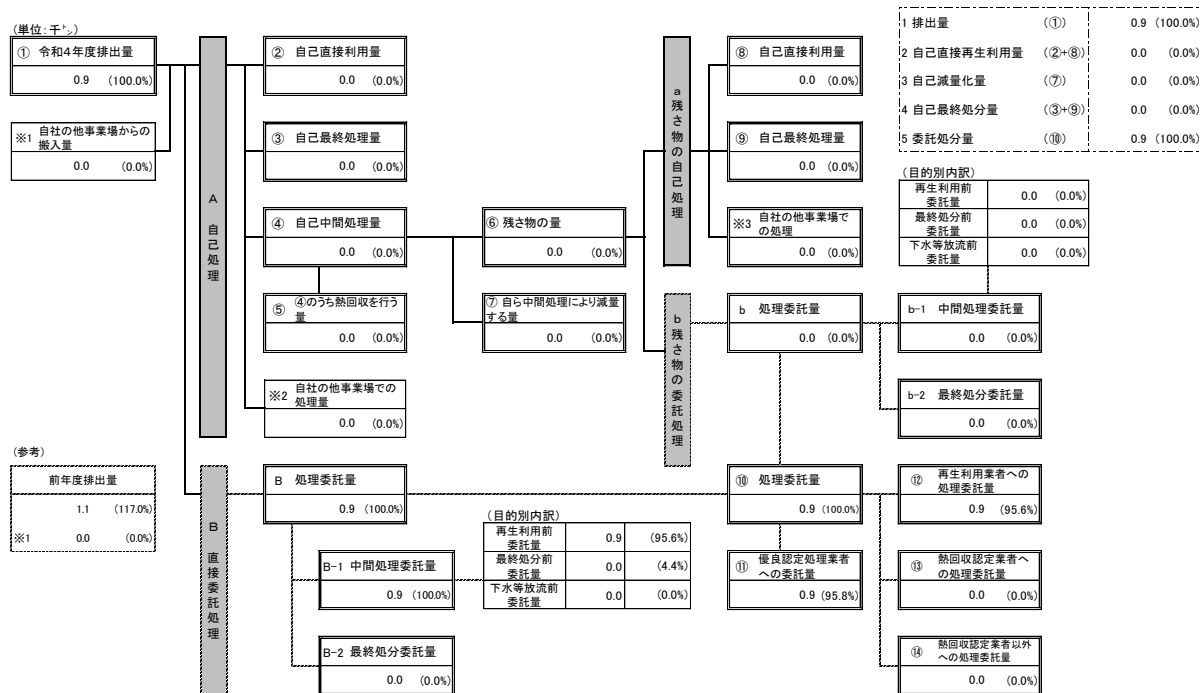
⑤ 廃PCB等：特別管理産業廃棄物



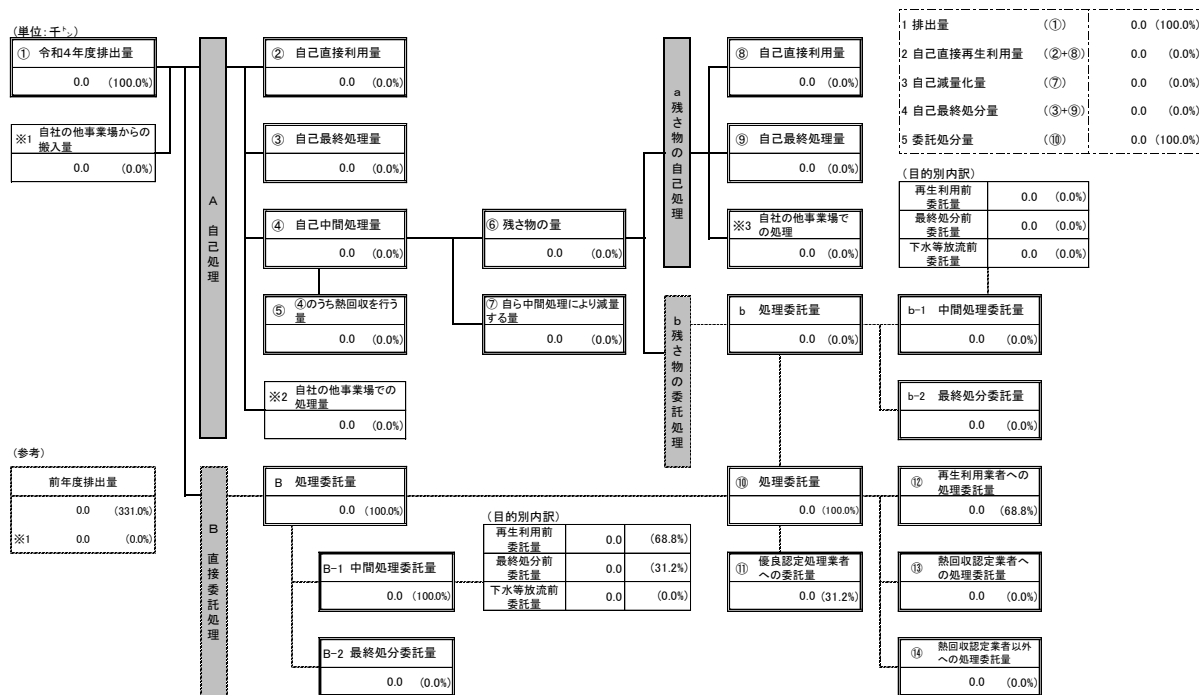
⑥ PCB汚染物：特別管理産業廃棄物



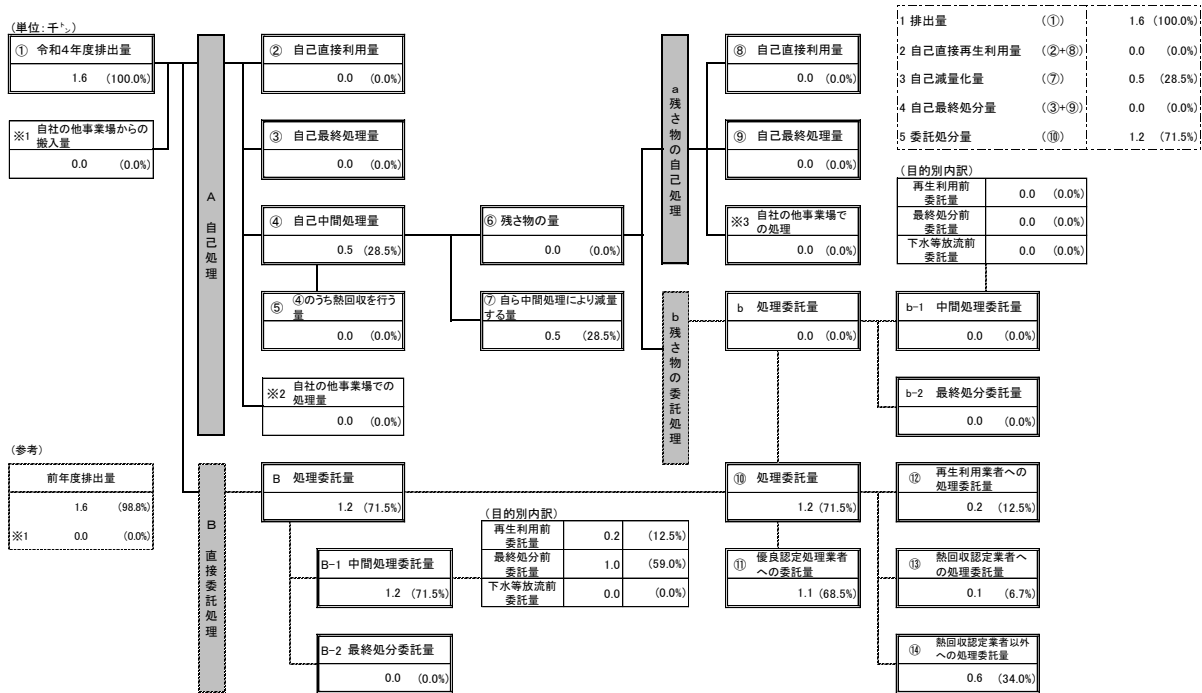
⑨ 有害ばいじん：特別管理産業廃棄物



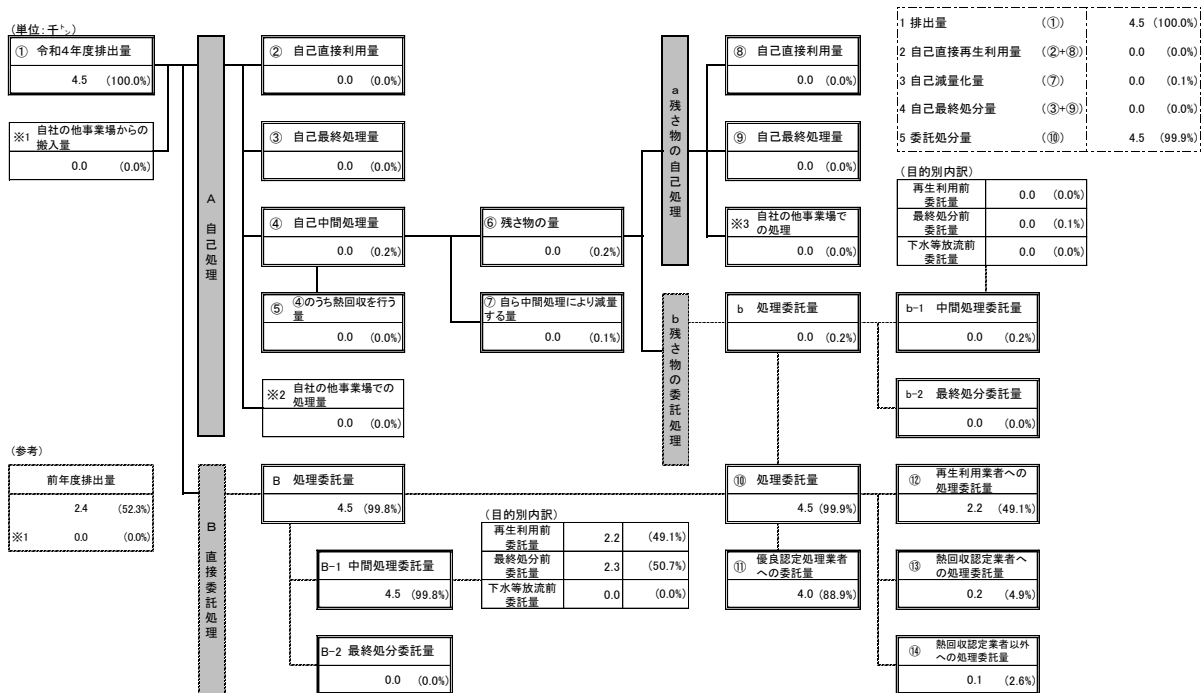
⑩ 有害燃えがら：特別管理産業廃棄物



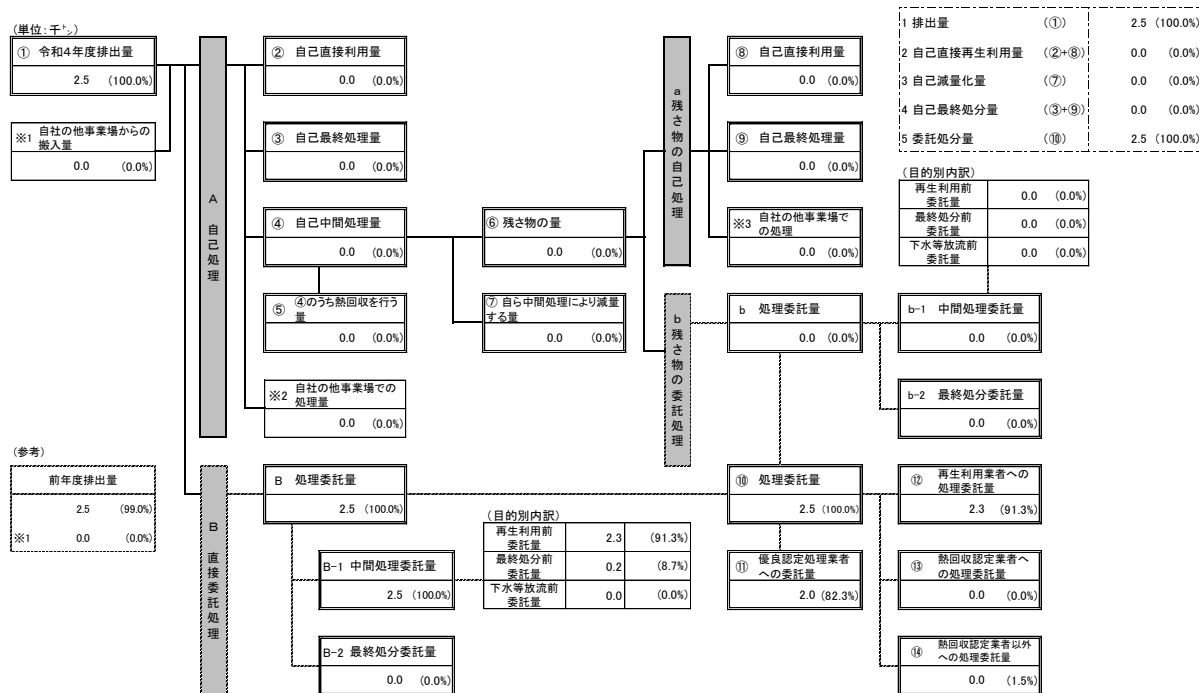
⑪ 有害廃油：特別管理産業廃棄物



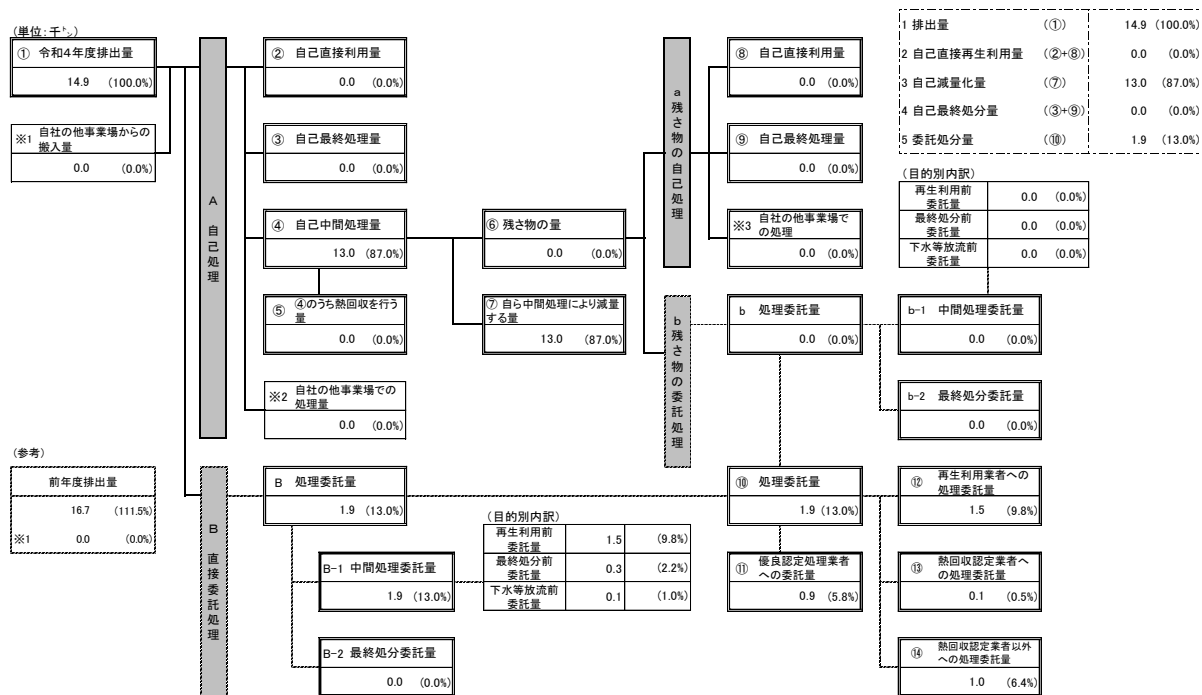
⑫ 有害汚泥：特別管理産業廃棄物



⑬ 有害廃酸：特別管理産業廃棄物



⑭ 有害廃アルカリ：特別管理産業廃棄物



⑮ 廃水銀等：特別管理産業廃棄物

